豊後大野市所在

上田原東遺跡

－県道三重新殿線（牟礼前田工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)－

（　第　3　分　冊　）

2024

大分県立埋蔵文化財センター

大分県立埋蔵文化財センター調査報告書　第28集

豊後大野市所在

上田原東遺跡

－県道三重新殿線（牟礼前田工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)－

（　第　3　分　冊　）

2024

大分県立埋蔵文化財センター

目　次

【第３分冊】

第６章　４区の発掘調査成果……1
　第１節　調査区の設定と基本層序……1
　第２節　縄文時代の遺構と遺物……4
　第３節　弥生時代の遺構と遺物……7
　第４節　古墳時代の遺構と遺物……27
　第５節　中世の遺構と遺物……36
　第６節　その他の遺構と遺物……40
　第７節　包含層その他の出土遺物……44

第７章　５区の発掘調査成果……45
　第１節　発掘調査の概要……45
　第２節　調査区の基本層序……45
　第３節　５区の出土遺物……47

第８章　Ｘ線CTによる上田原東遺跡の土器圧痕調査報告 ……48

第９章　総括……53
　第１節　遺跡の年代的変遷……53
　第２節　縄文時代の遺構と遺物……60
　第３節　弥生時代の遺構と遺物……62
　第４節　古墳時代の遺構について……63
　第５節　遺跡の評価……64

遺物観察表……67

遺構一覧表……73

【第１分冊】

序文
例言
目次
第１章　調査に至る経緯と発掘調査の経過…６P　図２（路線計画図・三重新殿線と発掘調査遺跡）
　第１節　調査に至る経緯
　第２節　発掘調査（本調査）の方法と経過
　第３節　整理作業・報告書作成の経過
　第４節　調査組織の構成
第２章　遺跡の位置と環境…２P　図１（遺跡位置図）
　第１節　遺跡の地理的環境
　第２節　遺跡の歴史的環境

第３章　１区の発掘調査成果
　第１節　発掘調査の概要
　第２節　調査区の基本層序
　第３節　遺構と遺物
　　（１）　縄文時代の遺構と遺物
　　（２）　弥生時代の遺構と遺物
　　（３）　古墳時代の遺構と遺物
　　（４）　古代・中世の遺構と遺物
　　（５）　近世以降の遺構と遺物
　　（６）　その他の遺構と遺物
　　（７）　包含層その他の出土遺物
　　（８）　旧石器時代の確認調査
第４章　２区の発掘調査成果
　第１節　発掘調査の概要
　第２節　調査区の基本層序
　第３節　遺構と遺物
　　（１）縄文時代の遺構と遺物
　　（２）弥生時代の遺構と遺物
　　（３）古墳時代の遺構と遺物
　　（４）古代・中世の遺構と遺物
　　（５）その他の遺構と遺物
　　（６）包含層その他の出土遺物
遺物観察表

【第２分冊】
第５章　３区の発掘調査成果
　第１節　発掘調査の概要
　第２節　調査区の基本層序
　第３節　遺構と遺物
　　（１）縄文時代の遺構と遺物
　　（２）弥生時代の遺構と遺物
　　（３）古墳時代の遺構と遺物
　　（４）古代・中世の遺構と遺物
　　（５）その他の遺構と遺物
　　（６）包含層その他の出土遺物
　　（７）旧石器時代の確認調査
遺物観察表

【第４分冊】
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第392図　上田原東遺跡の調査区配置図（1/1500）…… 1
第393図　4区遺構配置図（1/150）…… 2
第394図　4区上層断面図（1/60）…… 3
第395図　SH1100実測図（1/50）…… 5
第396図　SH1100出土遺物実測図（1/3）…… 5
第397図　SH1132実測図（1/50）…… 6
第398図　SH1132出土遺物実測図（1/3・1/2）…… 7
第399図　SH1146実測図（1/50）…… 8
第400図　SH1146出土遺物実測図（1/3）…… 8
第401図　SK1120実測図（1/30）…… 9
第402図　SK1120出土遺物実測図（1/3）…… 9
第403図　SH1062実測図（1/80）…… 10
第404図　SH1062上層断面図（1/50）…… 11
第405図　SH1062出土遺物実測図①（1/3）…… 12
第406図　SH1062出土遺物実測図②（1/1・1/2）…… 13
第407図　SH1062出土遺物実測図③（1/2・1/3・1/4）…… 14
第408図　SH1066実測図（1/50）…… 15
第409図　SH1066出土遺物実測図（1/3）…… 15
第410図　SH1067実測図（1/50）…… 16
第411図　SH1067出土遺物実測図①（1/3・1/1）…… 17
第412図　SH1067出土遺物実測図②（1/2・1/3）…… 18
第413図　SH1067出土遺物実測図③（1/3・1/4）…… 19
第414図　SH1068A・B実測図（1/50）…… 20
第415図　SH1068A・B出土遺物実測図（1/3・1/2・1/4）…… 21
第416図　SH1069実測図（1/50）…… 22
第417図　SH1069出土遺物実測図①（1/3・1/1）…… 23
第418図　SH1069出土遺物実測図②（1/1・1/2）…… 24
第419図　SH1247実測図（1/50）…… 25
第420図　SK1117実測図（1/30）…… 25
第421図　SK1117出土遺物実測図（1/2）…… 25
第422図　SK1192実測図（1/30）…… 26
第423図　SK1192出土遺物実測図（1/1）…… 26
第424図　SK1202実測図（1/30）…… 27
第425図　SK1202出土遺物実測図（1/3）…… 28
第426図　SH1061実測図（1/50）…… 30
第427図　SH1061出土遺物実測図①（1/3）…… 31
第428図　SH1061出土遺物実測図②（1/3）…… 32
第429図　SH1061出土遺物実測図③（1/1・1/2）…… 33
第430図　SH1061出土遺物実測図④（1/2・1/3）…… 34
第431図　SH1061出土遺物実測図⑤（1/3・1/4）…… 35
第432図　SH1065実測図（1/50・1/20）…… 37
第433図　SH1065出土遺物実測図①（1/3）…… 38
第434図　SH1065出土遺物実測図②（1/3）…… 39
第435図　SH1065出土遺物実測図③（1/3・1/4・1/2）…… 40
第436図　SK1131実測図（1/30）…… 41
第437図　SP1070実測図（1/20）…… 41
第438図　SP1070出土遺物実測図（1/3）…… 41
第439図　4区遺構実測図（1/30・1/20）…… 42
第440図　4区遺構出土遺物実測図（1/3・1/1）…… 42
第441図　4区出土遺物実測図①（1/3）…… 43
第442図　4区出土遺物実測図②（1/1・1/2）…… 44
第443図　上田原東遺跡の調査区配置と5区の位置（1/1500）…… 45
第444図　5区平面図（1/200）…… 46
第445図　5区上層断面図（1/50）…… 46
第446図　5区出土遺物実測図（1/3）…… 47
第447図　上田原東遺跡上器表出圧痕・レプリカSEM画像・
潜在圧痕・軟X線画像・X線CT断象画像・3D画像…… 51
第448図　上田原東遺跡上器表出圧痕・レプリカSEM画像・
潜在圧痕・軟X線画像・X線CT断象画像・3D画像…… 52
第449図　縄文時代の遺構分布（1/600）…… 54
第450図　弥生時代の遺構分布（1/600）…… 55
第451図　古墳時代前期の遺構分布（1/600）…… 56
第452図　古墳時代後期の遺構分布（1/600）…… 57
第453図　古代・中世の遺構分布（1/600）…… 58
第454図　縄文時代竪穴建物の時期別変遷（1/100）…… 59
第455図　上哲生B式の古相を示す可能性のある土器
（1/5・1/8）…… 60
第456図　上田原東遺跡縄文時代遺構の石器組成…… 62
第457図　竈廃絶時の祭祀模式図…… 63

表 目 次

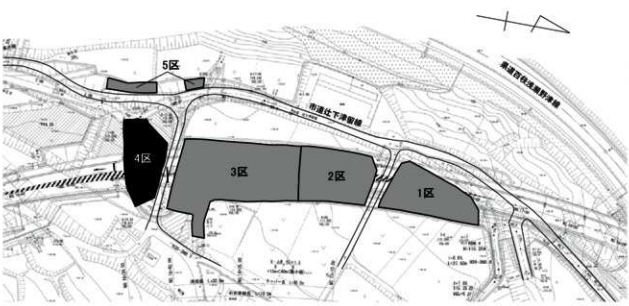
第13表　分析資料及び分析結果 …… 49
第14表　上田原東遺跡圧痕分析資料一覧 …… 50
第15表　上田原東遺跡縄文時代遺構の石器集計 …… 61
第16表　上田原東遺跡（4区）遺物観察表（土器・陶磁器）…… 69
第17表　上田原東遺跡（4区）遺物観察表（石器）…… 71
第18表　上田原東遺跡（4区）遺物観察表（土製品）…… 72
第19表　上田原東遺跡（4区）遺物観察表（金属製品）…… 72
第20表　上田原東遺跡（5区）遺物観察表（陶磁器）…… 72
第21表　上田原東遺跡遺構一覧表 …… 75

第６章　４区の発掘調査成果

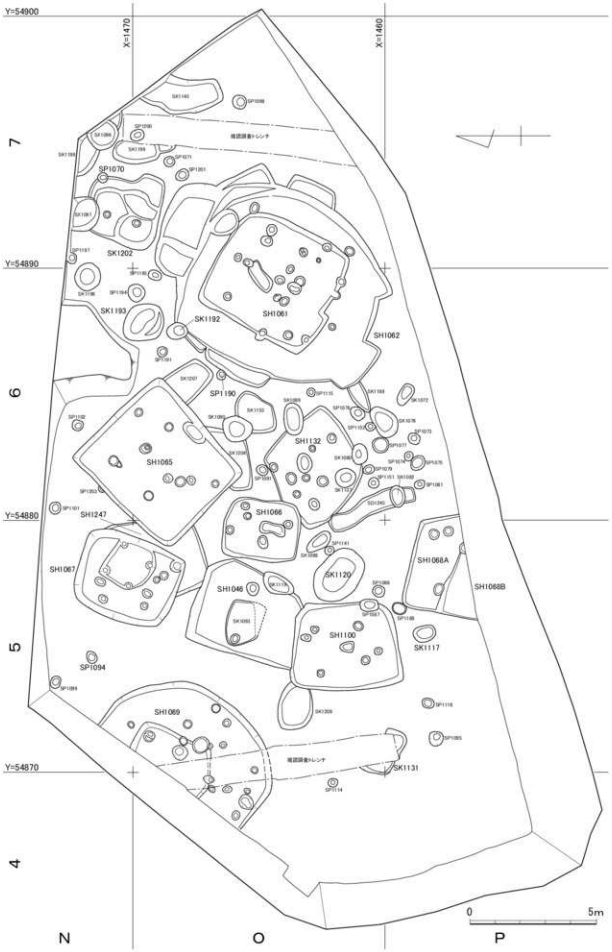
第１節　調査区の設定と基本層序

県道三重新殿線（牟礼前田工区）道路改良事業に伴う上田原東遺跡の発掘調査は、調査前の土地形状に応じて１～５区の調査区を設定して実施した。４区は３区と里道を挟んだ南側に位置し、市道辻下津留線を挟んで西に５区が位置する(第392図)。地番は大字上田原字辻1681で、地目は山林である。台地部の最も南にあたる位置で、４区のさらに南は登り斜面となって丘陵部へと続いている。調査前の標高は約116.9～119mを測り、南東側から北西側にかけて緩やかに傾斜している。発掘調査区は東西に長い区画で、発掘調査面積は約540㎡である（第393図）。調査区の北西端部は、市道から事業地へ進入する工事車両の離合及び進入路を確保するため先行して切土を行う必要が生じたため、本発掘調査に先行して工事立会で対応した（第１分冊　第１章の第２図）。２m余りを切り下げたところで地山の黄褐色土ローム層を確認したが、この間に遺構・遺物は確認されなかった。

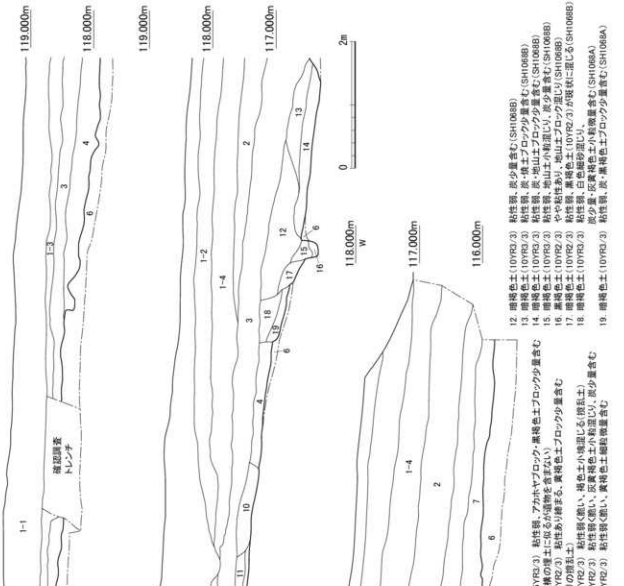
４区の土層断面図を第394図に示す。基本となる堆積層序は１～３区と共通する。第Ⅰ層は表土層であるが、１～３区とは異なり４区は発掘調査前は山林であったため耕作土ではない。さらに調査前に工事車両の待機場所や工事の資材置場として利用されていたため、表土の大部分は削り取られて盛土され、表面にはバラスが敷き均されていた。これを１層とは区別して０層として扱った。0-1層は表面に敷設されたバラス層、0-2層（黒褐色土）は工事ヤードの盛土整地層、0-3層は黄褐色土小粒や黒褐色土ブロックが斑状に混入する暗褐色土で、工事ヤード造成の際の掘り返し層である。０層の層厚は45～９㎝前後で、調査区の中ほどが最も厚い。第Ⅰ層は調査区の東西両端部に残存する。層厚は約15～50㎝を測る。第Ⅱ層は暗褐色を呈する旧耕作土で、１層の残存範囲とほぼ重なる。層厚約15～50㎝を測る。第Ⅲ層は黒褐色を呈する土層で、クロボクと称される。調査区のほぼ全面に堆積が認められ、層厚は５～70㎝で標高の高い東側では薄く、斜面下部の西側では厚みをもって堆積する。縄文～中世の遺物を包含する。第Ⅳ層はアカホヤ風化土の混じる暗褐色土で、アカホヤ風化土のブロックが少量混じる。３区のⅣA層に該当し、この層の上面が遺構検出面である。調査区の西部ではⅣ層と同質ながら赤みがかった暗褐色土が堆積していた（図中の７層）。色相が縄文時代の堆積層に似ているが、遺物の包含は認められない。Ⅳ層と同質の堆積層とみてよかろう。第Ⅴ層は約7,300年前の鬼界カルデラの噴火により飛来したK-Ah層、いわゆるアカホヤ火山灰である。粘性がなくサラサラとした明黄褐色土で、堆積は面的ではなく部分的にブロック状に混じり込んでいる。第Ⅵ層は粘性を帯びる黒褐色土で、縄文時代早期の堆積層である。



第392図　上田原東遺跡の調査区配置図（1/1500）



第393図　４区遺構配置図（1/150）



第394図　４区土層断面図（1/60）

発掘調査では遺構検出面である第Ⅳ層の上面までを重機を使用して慎重に除去し、第Ⅳ層上面で人力により遺構検出作業を行った。その結果、縄文時代、弥生時代、古墳時代前期、中世の遺構・遺物を検出した。このうち４区で中心となるのは弥生時代・古墳時代前期である。なお、旧石器時代については、確認調査の際に下部ローム層まで深く掘り下げたものの遺構・遺物が確認されなかったこと、４区の発掘調査において確実に旧石器時代の遺物といえるものが認められなかったことから、工期の都合もあり４区ではこれ以上の下部確認調査を行わなかった。

以下、年代ごとに主要な遺構・遺物について報告する。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構として、竪穴建物３棟と土坑１基を検出した。遺構の分布は調査区の中央部から西側、O-5・O-6・P-5グリッドの範囲にまとまっている。

SH1100（第395図）

４区の西側、O-5・P-5グリッドで検出した竪穴建物である。北側は縄文時代の竪穴建物SH1146、北西隅部はSK1208、南東部はSK1087と重複しており、切り合い関係としてはSH1146・SK1208を切り、SK1087に切られている。平面形状は南北に長い隅丸方形状を呈し、長辺4.51m、短辺3.52m、深さは最大で0.53mを測る。埋土は５層に細分されるが、うち第１層は後世の掘り込みである他は赤みがかった暗褐色土で、混入物の違いにより細別される。断面形状は逆台形状を呈し、床面は地形に沿って緩やかに傾斜するものの起伏はなく平坦である。床面中央で炉跡とみられる土坑とピット６基を検出した。うち主柱穴となるのは20 ～ 30cm前後の深さを持つ４基のピットである。遺物は少量ながら縄文土器や叩石、磨石が出土しているが、一部弥生土器や土師器とみられる土器片が混入している。遺構の時期は出土土器から晩期後葉（上菅生B式期）に比定する。

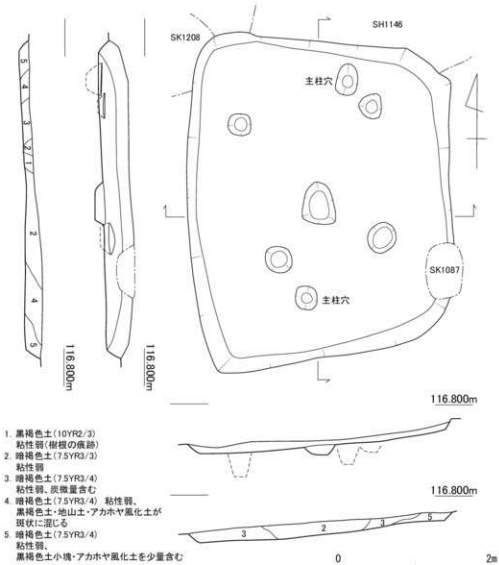
SH1100出土遺物（第396図）

1400 ～ 1402は縄文土器である。1400は口縁が外反し、内面口縁下に１条の沈線を施す深鉢で、後期後葉に位置づけられる。1401は細片ではあるが外面に木の葉状とみられる細沈線文を施す。上田原東遺跡では胴部屈曲部から口縁部にかけて斜格子状や流水状、曲線状の細沈線を施す無刻目凸帯文土器の深鉢が出土しており、本例も口縁部を欠くが無刻目凸帯文土器の深鉢の可能性が高い。木の葉状の文様モチーフをもつ無刻目凸帯文土器の深鉢は、大分川河川敷第４遺跡の採集資料に類例がある[7]。1402は外面口縁部下に１条の無刻目凸帯を貼り付け、口縁端部は内面に沈線状の段が付く深鉢で、口縁部には鰭状突起が付くとみられる。1401・1402は晩期後葉の上菅生B式に比定される。1403は砂岩製の叩石で、上面及び右側面に敲打痕が残る。1404は安山岩製の磨石で、上下両面を磨面とする。

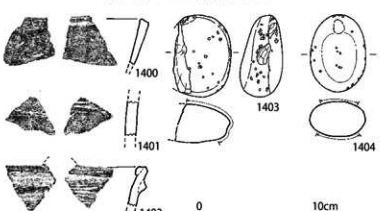
SH1132（第397図）

４区の中央、O-5・O-6グリッドで検出した竪穴建物である。弥生時代の竪穴建物SH1066や、時期不明の土坑SK1080・SK1089・SK1137・溝状遺構SD1245に切られている。平面形状は隅丸方形状を呈し、長辺3.76m、短辺3.46m、斜面の傾斜により深さは最大で0.56mを測るが、平均的な床面までの深さは0.1 ～ 0.2m前後である。床面では中心からすこしずれた位置に炉跡とみられる土坑と、８基のピットを検出した。柱の配置は規則的ではなく、２本の柱で上屋を支える構造であった可能性が高い。埋土は暗褐色土で、黒褐色土の小ブロックやアカホヤ風化土といった混じりの違いで分層される。第１層は後世の掘り込みである。遺物は縄文土器や打製石斧が出土しているが、少量ながら弥生土器や土師器とみられる細片の混入が見られる。遺構の時期は出土土器から晩期後葉（上菅生B式期）に位置づける。

7）林　潤也1999「大分川河床採集の縄文晩期土器」『おおいた考古』第11集、大分県考古学会



第395図　SH1100実測図（1/50）



第396図　SH1100出土遺物実測図（1/3）

SH1132出土遺物（第398図）

1405・1406は縄文土器である。いずれも外面口縁下に１条の無刻目凸帯を貼り付けるもので、1405は口縁部に突起が付く。1407は安山岩製の打製石斧で、上下両端部を欠失する。

SH1146（第399図）

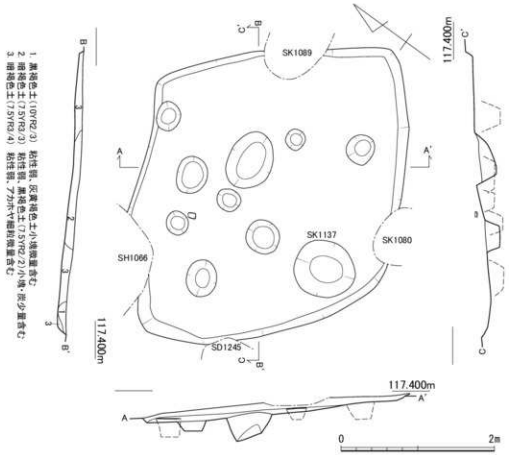
４区の中央西寄り、O-5グリッドで検出した竪穴建物である。南を縄文時代の竪穴建物SH1100に切られる他、古墳時代以降の土坑SK1093、時期不明の土坑SK1119、ピットSP1092に切られている。平面形状は南北に長い隅丸長方形状を呈し、長辺4.42m以上、短辺3.64m、深さは地形の傾斜により比高では0.53mを測るが、だいたい0.35m以下である。埋土は暗褐色土ないしは褐色土で６層に細分される。土層を見ると、第６層埋没後に第３～５層の掘り込みがあり、さらにそれを切って第１・２層の掘り込みが穿たれているように見えるが、平面ではその違いを明確に捉えられなかった。６層と５層の境目では基盤土に段が生じており、竪穴建物の規模が大きいことからも建て替えがあった可能性も考えられる。床面では、SK1093の底面で確認したピットが１基あるが、これがSH1146に伴うものかどうかは明確ではない。遺物は縄文土器の他、弥生土器や土師器と思われる細片が混入している。出土土器から、遺構の時期は晩期後葉（上菅生B式期）に位置づける。

SH1146出土遺物（第400図）

1408・1409は縄文土器である。いずれも外面口縁部下に１条の無刻目凸帯を貼り付けるもので、晩期後葉の上菅生B式土器に比定される。1408は凸帯が口縁からやや下がった位置に付され、凸帯もやや幅広で、断面形状もやや丸みを持つ。また、1409は凸帯が高く、断面形状も台形状を呈する。上菅生B式土器の凸帯は断面三角形状を呈するものが一般的であり、こうした差異が時期差を示す可能性も考えられよう。

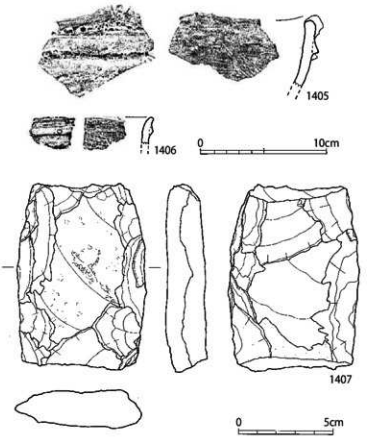
SK1120（第401図）

４区の中央西寄り、O-5グリッドで検出した土坑で、SH1100のすぐ東側に位置する。平面形状は楕円形状を呈し、長径2.35m、短径1.65m、深さ0.40mを測る。内部の掘り込みは緩く、底面も丸みを持って窪んでいる。埋



第397図　SH1132実測図（1/50）

土は３層に細分され、第１層は黒褐色土ブロックを含む暗褐色土、第２層は少量のアカホヤ風化土を含む黒褐色土、第３層は暗褐色土ブロックを少量含む極暗褐色土である。遺物は縄文土器が少量出土している。出土した土器から、後期後葉の遺構の可能性が考えられる。



第398図　SH1132出土遺物実測図（1/3・1/2）

SK1120出土遺物（第402図）

1410は縄文土器の浅鉢である。内外面を研磨した黒色磨研土器で、内面口縁部下に１条の沈線を施す。後期後葉に比定される。

第３節　弥生時代の遺構と遺物

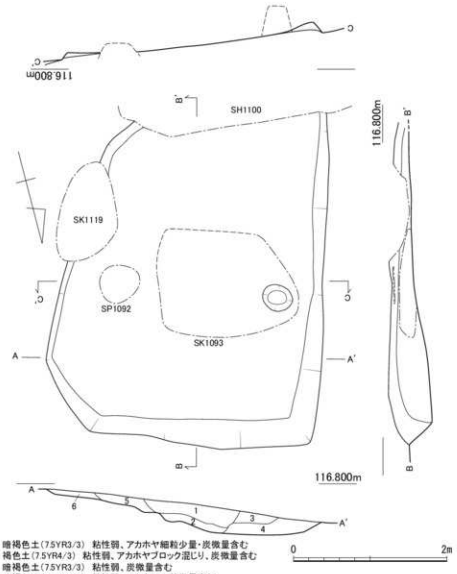
弥生時代の遺構として、竪穴建物６～７棟、土坑２基以上を確認した。竪穴建物には、大分県内では特に大野川流域を中心に分布が認められる花弁形建物１棟が含まれる。SH1068は２基の竪穴建物が重複しており、うち１基は古墳時代前期にまで下る可能性がある。土坑は図示しえた遺物が出土した確実な遺構として２基としたが、遺物の出土が少なく帰属時期が明確でないものが多く、実際には数が増える可能性もある。遺構の分布としては４区のほぼ全域にわたっている。

SH1062（第403・404図）

４区の中央東寄り、O-6・O-7・P-6グリッドで検出した竪穴建物である。ちょうど中心部分を古墳時代の竪穴建物SH1061に切られている。長径約7.60m、短径約6.98mの楕円形状の竪穴部の周囲に７箇所の張り出し部が付属するもので、いわゆる花弁形建物と呼ばれるものである。建物の規模は長径10.42m、短径8.46m、深さは最大で0.72mを測る。中心の楕円形部が一段深く掘り込まれ、張り出し部はそれよりも浅い。張り出し部の規模はまちまちであるが、これは削平を受けたためであろう。最も残りの良い北側張り出し部SH1062-1で長さ1.64m、幅3.96mを測り、床面は２段掘りとなっている。SH1062-2は長さ1.06m、幅2.20mで、床面にはテラス状の段が付く。SH1062-3は長さ0.60m、幅2.12mを測る。SH1062-4は削平が著しく残存状況は悪い。長さ0.50m、幅1.26mの三角形状を呈する。SH1062-5は長さ0.84m、幅2.12mを測る。SH1062-6は長さ0.58m、幅2.84mの規模を有する。SH1062-7は北端部をSK1192に切られている。長さ0.32m、幅0.96m以上を測る。

床面では中央部で細長い土坑１基を検出した他、SH1062-1とピット20基を、SH1062-2の接する部分で土坑１基を検出した。柱穴配置を観察すると、50～60cm前後の深さを持つピット７基が円形状に並ぶ状況が認められ、これらが主柱穴を構成するとみられる。円形状の柱穴配置と中央に不定形土坑を配する構造は、３区のSH2と同じであり、複数の張り出しを持つほかは円形の竪穴建物と同じ作りであることが分かる。

先述のとおり中心部分をSH1061に大きく切られているため、全体を通した堆積土層の観察ができなかったが、張り出し部を中心に６箇所の土層断面観察畦を設定し、土層断面の記録を行った（第404図）。中心の楕円形部は上層に黄褐色土小粒・炭を少量含む暗褐色土、下層に黒褐色土が堆積する。張り出し部の堆積は一様ではなく、

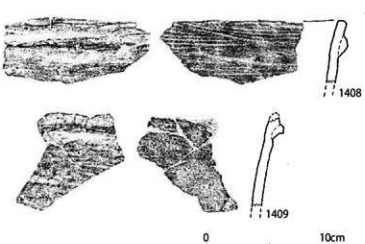


第399図　SH1146実測図（1/50）

SH1062-3のように中心部と同じ土層であるところもある。遺物は縄文土器、弥生土器の他、石器類、土製品が出土している。特に磨製石鏃は未成品や素材となる石核、製作関連の砥石等が出土しており、建物内での石器製作が想定される。遺構の時期は、弥生時代後期初頭頃に位置づける。

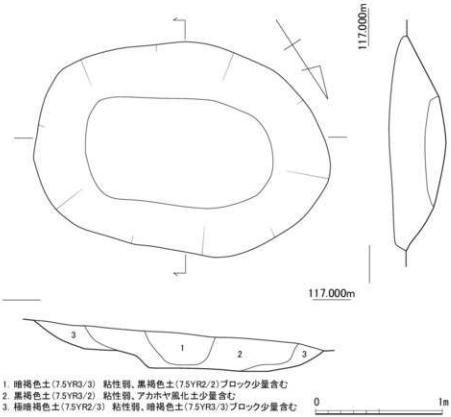
SH1062出土遺物（第405～407図）

1411・1412は縄文土器である。いずれも外面口縁下に１条の無刻目凸帯を巡ら



第400図　SH1146出土遺物実測図（1/3）

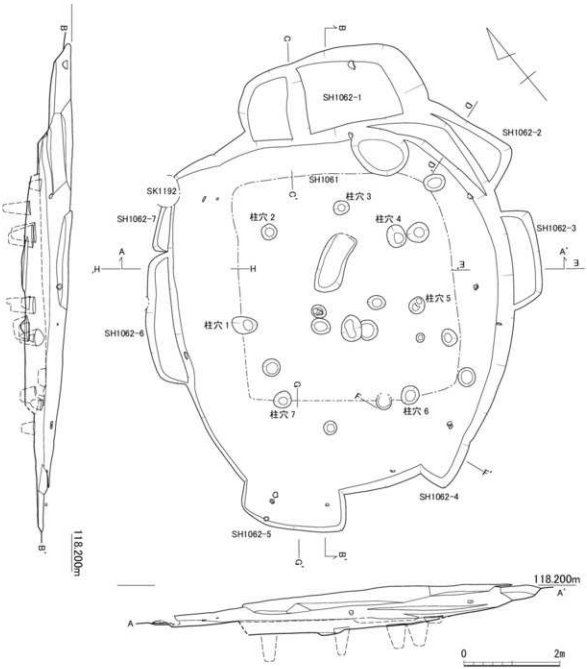
せるもので、晩期後葉の上菅生B式に比定される。1413～1419は弥生土器である。1413は壺で、外反する口縁の上端に粘土帯を貼り付けて段状に拡張し、外面には鋸歯状の刻み目を施し、上端には勾玉状の浮文を貼り付ける。1414は壺で、1413同様に外反する口縁を肥厚・拡張させ端部は台形状に面取りする。面取り右上面に鋸歯状の刻み目を施し、左上面には円形の浮文を貼り付ける。頸部には１条の凸帯が巡る。1415は甕で中期のもの。1416は厚手の粗製甕で、口縁部は緩く外反する。1417は胴部から口縁まで直口する寸胴形の甕で、画面に１条の凸帯を貼り付ける。1418・1419は甕の底部である。1420～1424は土製品で、1420はミニチュア土器である。1421～1424は土器片を半円形状に加工した土製品で、1421・1422は周縁を丁寧に研磨して仕上げているのに対し、1423・1424は周縁の加工が粗い。



第401図　SK1120実測図（1/30）

第402図　SK1120出土遺物実測図（1/3）

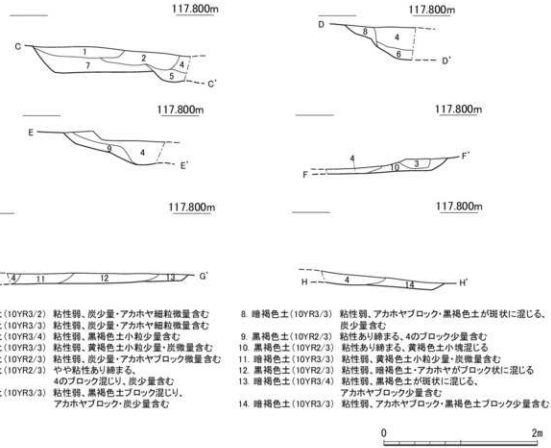
1425～1442は石器である。1425・1426は砂岩製の叩石・磨石で、1425は上下両面を磨面とし、側面の一端に敲打痕が残る。1426は上下両面を磨面とし、周縁部に敲打痕が顕著に残る。1427～1431は磨製石鏃及びその未成品である。1427は先端部をわずかに欠くがほぼ完形品、1428は基部を欠失する。1429～1431は未成品で、1429は素材剥片、1430・1431は素材剥片に調整剥離を施し整形途中のものである。磨製石鏃の石材はいずれも黒色の粘板岩である。1432は対向する上下両辺に細かい剥離が見られることから楔形石器とした。石材は泥岩である。1433は粘板岩製のスクレイパーで、下辺に細かい刃部調整を施す。1434は黒色粘板岩の石核で、磨製石鏃の石材の母岩となったものであろう。1435は長方形状の安山岩で、上面に風化のみられる剥離面、下面に複数の剥離面が見られる石核である。1436は黒色粘板岩の大型の横長剥片を素材とし、側面に細かい調整剥離を施す。長さ16.6cmと大型であり、石剣の未成品の可能性が高い。1437・1438は流紋岩の原石である。流紋岩は主に旧石器時代に使用されるが、これらが旧石器時代のものが混入したものであるのか、あるいは何らかの使用意図があって弥生時代に持ち込まれたものであるのか判断がつかない。1439～1441は砥石である。1439・1440は半円形を呈し、側面の一端を研ぎ面として平坦になったもので、使用面には擦痕が認められる。1439は上面に沈線が認められる。1439は長さ4.0cm、幅2.1cm、1440が長さ5.2cm、幅2.9cmで、どちらも片手で持てるサイズであることから、これらは持ち砥石であろう。SH1062からは磨製石鏃の未成品や黒色粘板岩の石核等が出土しており、これらの持ち砥石は磨製石鏃の製作（仕上げ工程）に関する遺物の可能性が高い。1441は砂岩製の砥石で、上下両面及び右側面の３面を使用面とする。1442は安山岩製の台石である。



第403図　SH1062実測図（1/80）

SH1066（第408図）

４区の中央部、O-5・O-6グリッドで検出した竪穴建物である。南東部では縄文時代の竪穴建物SH1132を切っている。平面形状は隅丸方形状を呈し、長辺3.06m、短辺2.47m、深さは傾斜により比高で最大0.33mを測るが、標準的な深さは0.10m前後と浅い。床面において道構として中央から南側にかけて細長い土坑と、ピット５基を検出した。柱穴配置は明確ではないが、建物規模からすれば２本柱穴となる可能性が高く、その場合は南北の壁際にあるピットが主柱穴となるのであろう。埋土は３層からなり中央部に向かってレンズ状堆積となる。遺物は縄文土器、弥生土器が出土しており、その中から縄文土器２点を図示したが、弥生土器が出土していることや、埋土の色相が縄文時代のものとは異なることから、遺構としては弥生時代に帰属するが、その詳細な時期は明らかにできない。



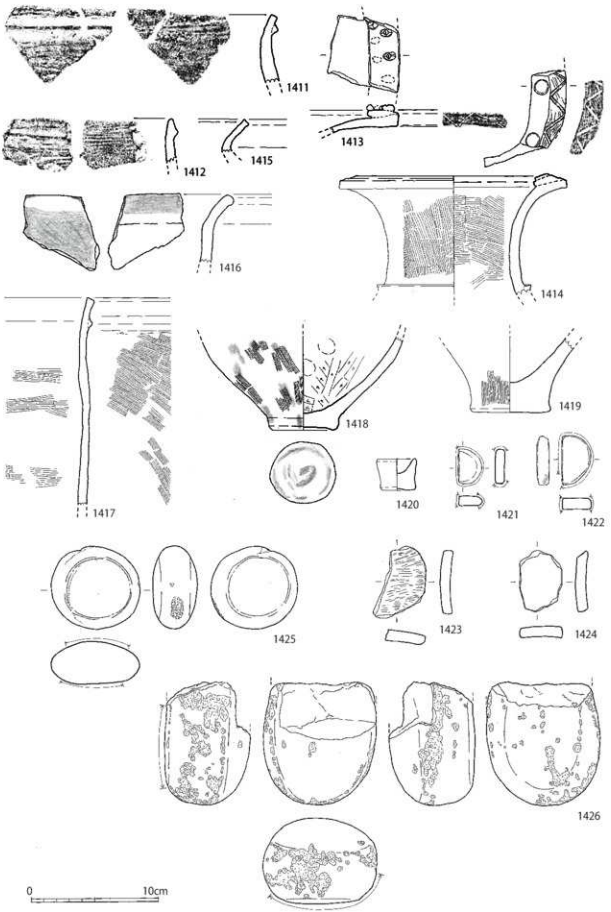
第404図　SH1062土層断面図（1/50）

SH1066出土遺物（第409図）

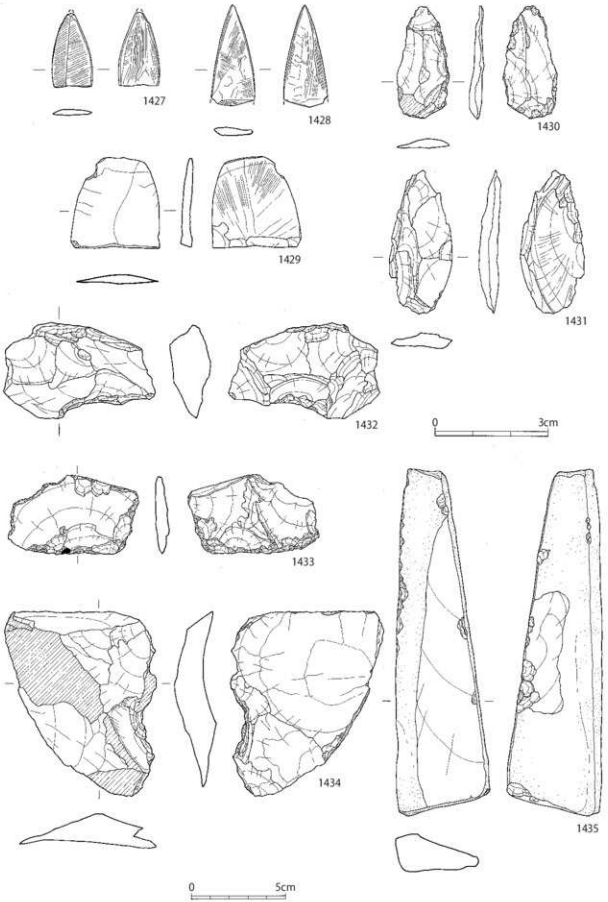
1443・1444は縄文土器である。1443は緩い波状口縁を呈する深鉢で、外面口縁下に１条の無刻目凸帯を巡らせる。1444は深鉢の胴部下半部の破片で、外面に斜位の条痕を施す。これらは縄文時代晩期後葉の下菅生B式に比定される。

SH1067（第410図）

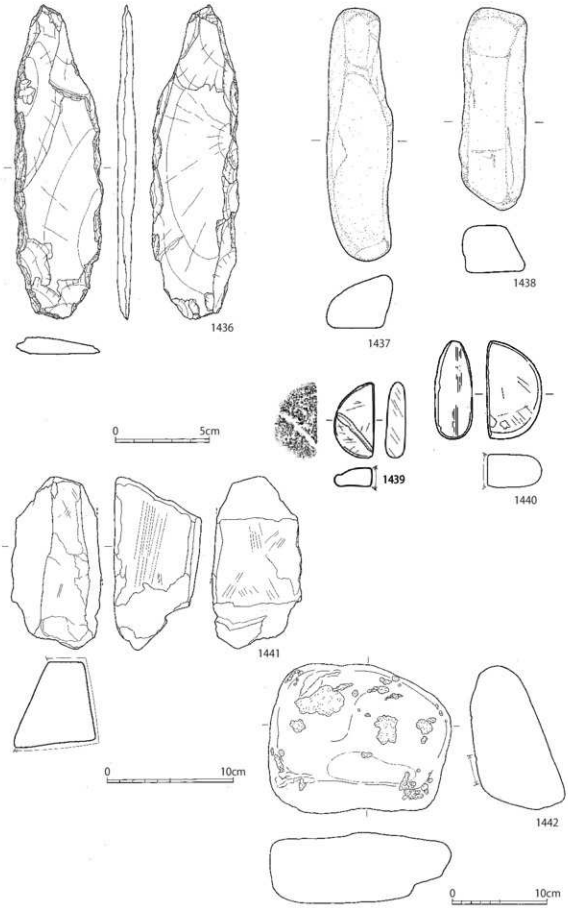
４区の北部西寄り、N-5・O-5グリッドで検出した竪穴建物である。南東部は弥生時代の竪穴建物SH1247と重複しており、SH1067がSH1247を切っている。平面形状は隅丸方形状を呈し、長辺4.06m、短辺3.38m、東壁際は高さがあり、深さは最大で0.83mを測る。埋土は７層に細分され、３～７層埋没後に１・２層の掘り込みが認められる。床面直上の７層は粘性のある黒褐色土で、床面を整地した貼床層とみられる。６層は床面に掘られた土坑の埋土である。床面では中央から東壁にかけて大型の土坑を検出している。土坑は純丸方形状で南辺がやや丸みをもつ。長辺1.83m、短辺1.38m、深さは0.37mを測る。この土坑の特徴として、四隅の近くに柱穴を配する点が挙げられる。土坑内柱穴は直径30cm前後、深さ40～50cm前後の規模を有する。この土坑内からは、磨製石鏃の未成品や黒色粘板岩の細チップががかなり出土しており、ここが磨製石鏃製造の作業場であった可能性が高い。床面では他にピット７基を検出しているが、主柱穴の配置は明確ではない。建物規模からすれば２本柱穴となる可能性が高く、土坑の西側ライン傍に南北に２基あるピットが主柱穴となる可能性も考えられるが、土坑内柱穴に比べ各ピットとも深さに乏しく決め手を欠く。遺物は縄文土器、弥生土器の他に打製石鏃、磨製石鏃、打製石斧、石錘、叩石・磨石、石皿等が出土している。１～３区の調査所見では、黄褐色土ロームを床面とする方形竪穴建物は古墳時代前期の特徴であり、SH1067も古墳時代前期の可能性が考えられるが、出土遺物には明確



第405図　SH1062出土遺物実測図①（1/3）



第406図　SH1062出土遺物実測図②（1/1・1/2）

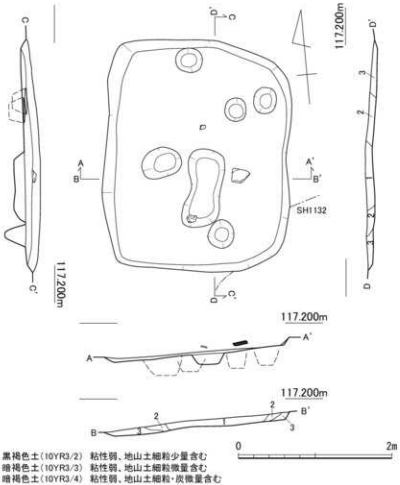


第407図　SH1062出土遺物実測図③（1/2・1/3・1/4）

に古墳時代に下る土器は認められない。したがって弥生時代の竪穴建物の可能性が高まるが、土器も小片が多く時期比定の決め手を欠く。中期の下城式や粗製甕も出土しており、時期としては後期初頭～前葉頃と考えたい。

SH1067出土遺物（第411～413図）

1445～1453は弥生土器である。1445～1447は外面口縁下に１条の刻目凸帯を巡らせるもので、中期の下城式土器である。1445・1446は口縁部外端部に刻みを施す。1448～1450は厚手の粗製甕である。1448は緩く外反する口縁部、1449・1450は横位の凸帯を巡らせる胴部で、1449は横位凸帯から垂下する凸帯を施す。1451は壺の肩部で、横位の多条沈線下に多条弧線の沈線を施す。下城式に伴うものである。1452・1453は粗製甕の底部であろう。1454は土器片を半円形状に加工した土製品である。



第408図　SH1066実測図（1/50）

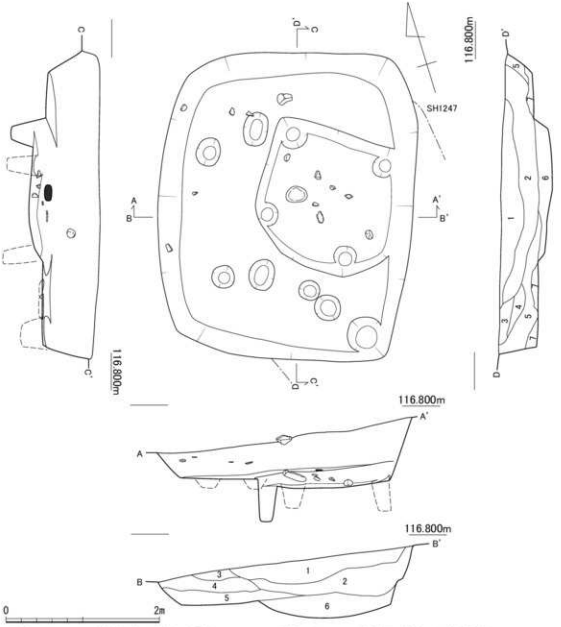
第409図　SH1066出土遺物実測図（1/3）

1455～1475は石器である。1455は姫島産黒曜石製の打製石鏃で、形状は正三角形状を呈し、基部の抉りは緩くわずかに凹む。1456は金山産サヌカイト製の打製石鏃で、二等辺三角形状を呈し基部の抉りは極めて浅い。1457～1463は磨製石鏃及びその未成品である。1457は先端と基部を欠失する。1458は研磨工程段階の未成品で、まだ研ぎが甘く剥離面が残る。1459・1460・1462は調整剥離がほぼ終わった段階の未成品か。1462は背面・腹面ともに軽い研磨痕跡が残る。1461～1463は調整剥離により整形段階の未成品である。石材は1457が結晶片岩で、他は黒色粘板岩である。1464・1465は打製石斧で、1465は未成品か。石材は1464が安山岩、1465は砂岩である。1466は黒色粘板岩の剥片で、石材から磨製石鏃の製作に伴って生じた残滓とみられる。1467は安山岩の円礫を素材とした石錘で、長軸両端に剥離と敲打により縄掛け部を作り出す。1468は凝灰岩質砂岩を素材とする叩石で、上面に敲打痕が残る。1469～1473は叩石・磨石である。いずれも上面・下面を磨面とし、側面を中心に顕著な敲打痕が残る。1472は一部に被熱痕跡が認められる。石材は1469～1471・1473が砂岩、1472は安山岩である。1474は砂岩製の磨石で、上下両面及び側面が使用により平滑化している。1475は砂岩製の台石で、上面に敲打痕が顕著に残る。重量は８kgを測る。

SH1068（第414図）

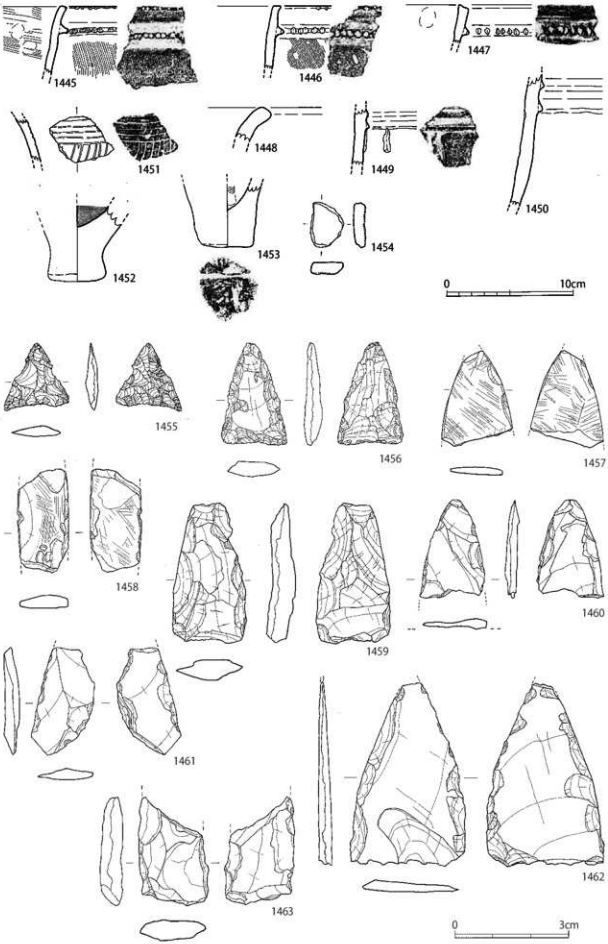
４区の南端部、P-5・P-6グリッドで検出した竪穴建物である。検出時は１基の竪穴と想定していたが、発掘を進め、土層断面を確認する中で２基の竪穴建物の重複であることが判明したため、切られる方の竪穴をSH1068A、これを切る新しい竪穴をSH1068Bとして区別した。

SH1068Aはやや歪な方形状を呈し、長辺3.96m、短辺1.87m以上、深さは比高で0.52mを測るが、標準的な深さは0.1m前後とごく浅い。ただしこれは表土除去及び遺構検出時に上部をいくらか下げたためで、土層断面の観察では0.4m前後の深さが確認できる。埋土は６層に細分される。標準土層の第Ⅵ層上面が床面となり、この面で３基のピットと、SH1068Bとの境目で１基のピットを検出したが、主柱穴となるべきピットは明確ではない。遺物は弥生土器が出土していることから、弥生時代の遺構と判断される。出土土器が細片のため、やや時期比定ができるか不安は残るが、中期後半の遺構と考えたい。

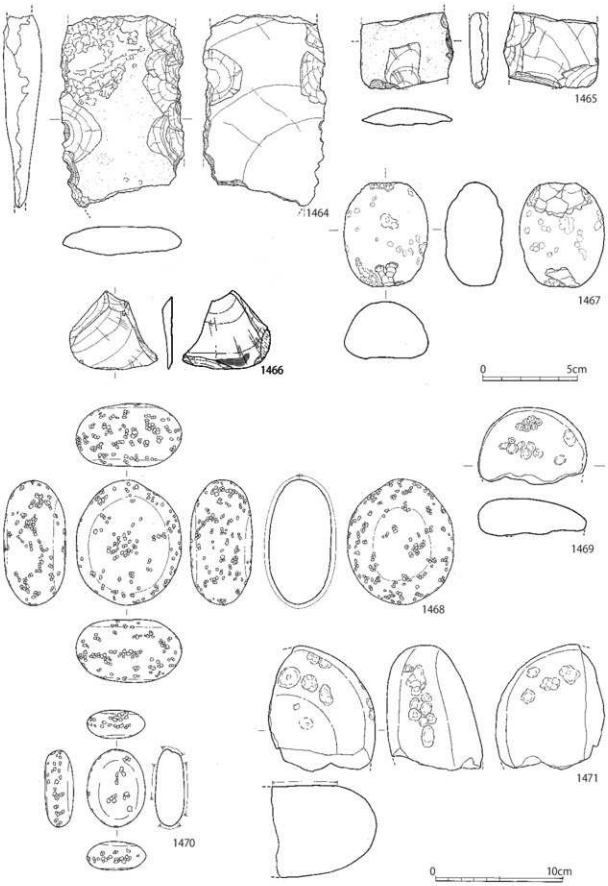


1. 黒褐色土（10YR2/3）粘性弱、焼土小粒・炭少量含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）粘性弱、焼土ブロック・炭少量含む
3. 暗褐色土（10YR3/3）粘性弱、黄褐色土細粒微量含む
4. 暗褐色土（10YR3/3）粘性弱、黄褐色土小粒少量、炭微量含む
5. 黒褐色土（10YR3/2）粘性弱、黄褐色土小粒少量含む
6. 黒褐色土（10YR2/3）粘性弱、黄褐色土小塊混じる
7. 黒褐色土（10YR3/2）やや粘性あり締まる、黄褐色土ブロック少量含む

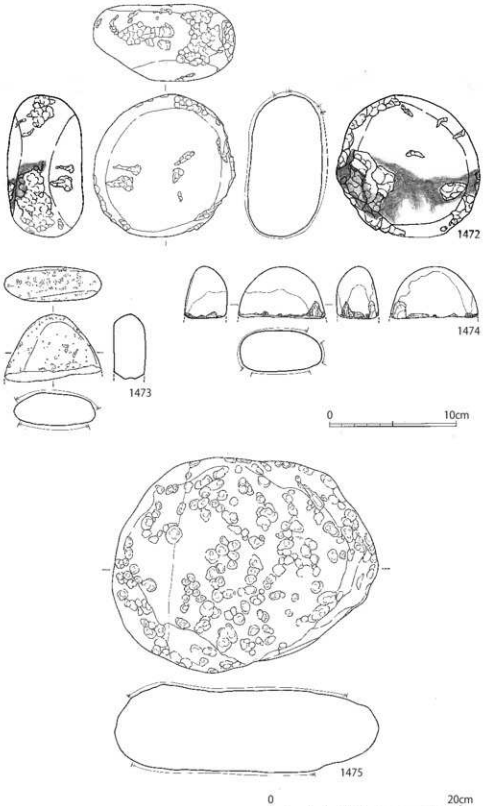
第410図　SH1067実測図（1/50）



第411図　SH1067出土遺物実測図①（1/3・1/1）



第412図　SH1067出土遺物実測図②（1/2・1/3）



第413図　SH1067出土遺物実測図③（1/3・1/4）

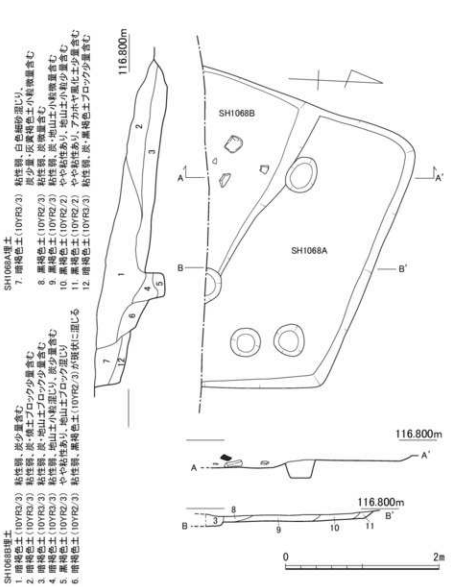
SH1068BはSH1068Aの北辺から1.5 ～ 1.8m南側でその輪郭を検出した。平面形状は方形を呈するとみられ、長辺2.98m以上、短辺1.65m以上、標準的な深さはSH1068Aから一段下がった0.1 ～ 0.15m程度である。ただしこちらも上部を下げ過ぎているため、土層断面から観察される本来の深さは0.50 ～ 0.60m前後である。床面は黄褐色

ローム質土となるが、この面で柱穴等の遺構は見られなかった。埋土は６層に分層されるが、主たる堆積層は上層の暗褐色土（図中の１・２層）と、下層の黄褐色土混じりの暗褐色土及び黒褐色土の斑状に混じる暗褐色土（図中の３・６層）である。上層には少量ながら炭や焼土ブロックが混じる。遺物は弥生土器や台石、鉄器が出土している。明確に古墳時代に下る資料が見られないが、弥生時代中期後半の竪穴を切ること、黄褐色ローム層を地山とする点を勘案し、弥生時代後期～古墳時代前期まで下るものと考えたい。

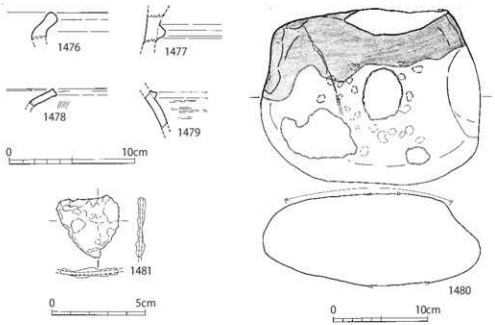
SH1068出土遺物（第415図）

1476・1477はSH1068Aの出土の弥生土器である。1476は甕で、口縁は外反し端部は丸みを持ちながらやや上方に肥厚気味となる。1477は壺で、断面台形状の凸帯を貼り付ける。細片ではあるが、どちらも中期後半の所産と考えられる。

1478 ～ 1481はSH1068Bの出土遺物である。1478は弥生土器の甕で、口縁が外反し端部に面を持つ。1479は壺の肩部で、断面三角形状の凸帯を巡らせる。どちらも中期後半の所産であるが、小片でありSH1068Aからの混入の可能性もある。1480は安山岩製の台石で、上面を使用面として敲打痕と、所々に表面の剥落が認められる。1481は板状の鉄製品であるが、詳細は不明である。



第414図　SH1068A・B実測図（1/50）



第415図　SH1068A・B出土遺物実測図（1/3・1/2・1/4）

SH1069（第416図）

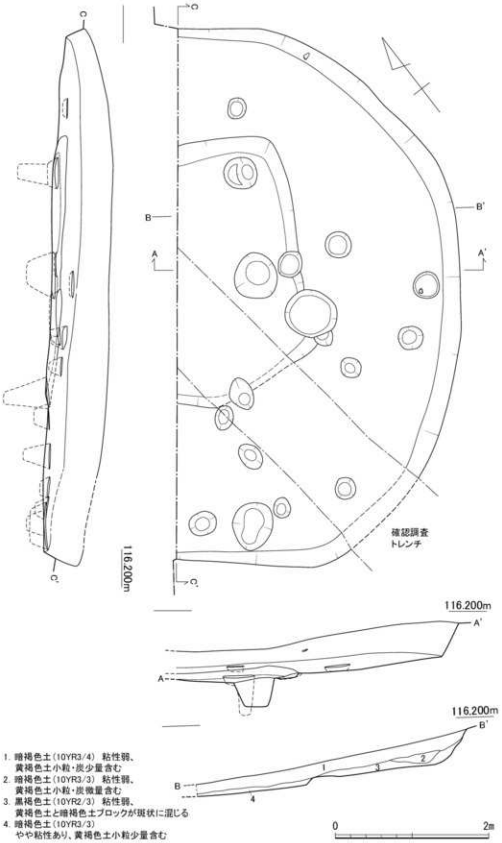
４区の北西端部、N-5・O-4・O-5グリッドで検出した竪穴建物である。真ん中を確認調査トレンチが掘り抜いており、確認調査時にその存在を把握していた。北西側は調査区外に続くため全体の規模は明らかにできないが、約半分を検出している。平面形状は円形を呈し、長径7.02m、短径3.76m以上、深さは最大で0.90mを測る。内部は二段掘りになっており、中心部は長辺3.52m、短辺1.86m以上の隅丸方形状に一段深く掘り窪められている。外周部の床面は基本層序の第Ⅵ層であるが、中心部分はこれを掘り抜き黄褐色ローム質土に達している。床面では17基のピット状遺構を検出したが、炉跡等は確認できなかった。外周の一段高い掘り込み部の床面で検出されたピットはいずれも浅く、主柱穴は中心部分の深い掘り込みの壁際を巡るように配されるのであろう。埋土は４層に細分され、一段深い中心部にはやや粘性を帯びた暗褐色土、一段高いテラス状の外周部には地山黄褐色土と暗褐色土が混じった黒褐色土が堆積し、その上を暗褐色土が被覆している。

遺物は弥生土器の他、土器片を加工した土製品、磨製石鏃、打製石斧、磨石・叩石、剥片等が出土している。中でも磨製石鏃は未成品や細チップが出土しており、竪穴建物内で磨製石鏃の製作が行われていた可能性が高い。出土遺物から、SH1069の帰属時期は弥生時代中期に位置づけられる。

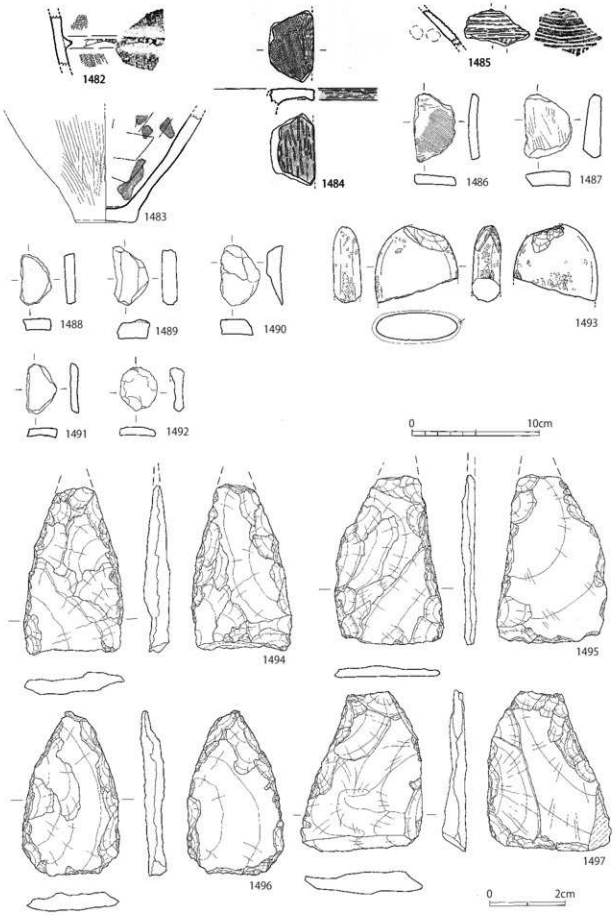
SH1069出土遺物（第417・418図）

1482～1485は弥生土器である。1482は口縁部を欠質するが、外面口縁下に１条の刻目凸帯を配するもので、中期の下城式甕に比定される。1483は甕の底部で、内面に煤の付着が認められる。1484は鍋先口縁を呈する壺で、口縁部が外側に折れ、上部に幅広の面を持つ。1485は壺の肩部で、横位の多条沈線と、そこから下方に続く弧状の多条沈線が認められる。1486～1491は土器片を転用し、半円形状に加工した土製品である。1492は円形状を呈する土製円盤か。

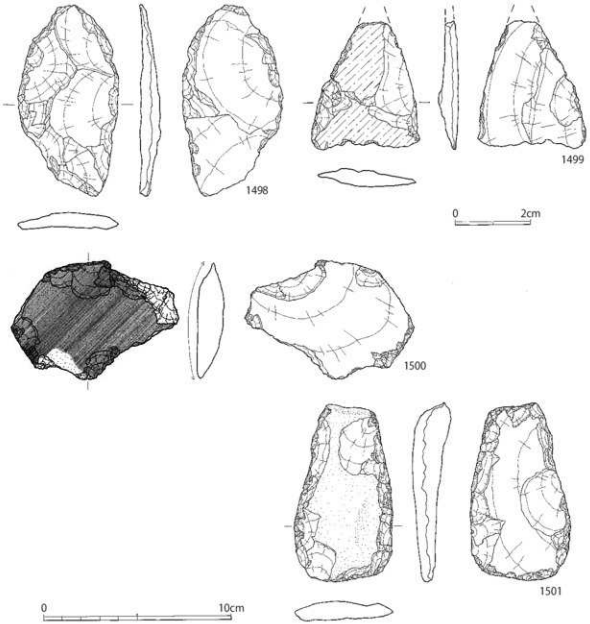
1493～1501は石器である。1493は安山岩の円礫を素材とする叩石・磨石で、上下両面を磨面とし、下面中央及び周縁には敲打痕が残る。1494～1499は黒色粘板岩を素材とし、周縁に調整剥離を施し石鏃形に整形した、整形段階の磨製石鏃の未成品である。いずれも研磨痕は認められない。1500は安山岩の剥片で、下部に微細な剥離痕が残る二次加工剥片である。背面には自然面が残るが、この面が平滑になっており、元は磨石であった可能性が高い。背面のほぼ全体に被熱痕跡が認められる。1501は打製石斧である。安山岩の横長剥片を素材とし、周



第416図　SH1069実測図（1/50）



第417図　SH1069出土遺物実測図①（1/3・1/1）

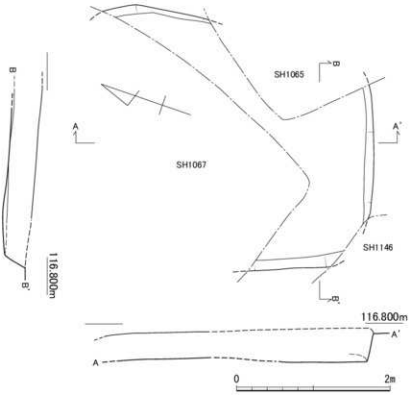


第418図　SH1069出土遺物実測図②（1/1・1/2）

縁に調整剥離を密に施す。

SH1247（第419図）

4区の中央北西側、N-5・N-6・O-5・O-6グリッドで検出した竪穴建物である。遺構の切り合いが著しく、北は弥生時代の竪穴建物SH1067に、南東隅部は古墳時代前期の竪穴建物SH1065にそれぞれ切られ、南西隅部は縄文時代の竪穴建物SH1146とわずかに重複している。SH1247はこれら切り合う遺構の調査後に明確なプランを把握したもので、それがためにSH1146では前後関係が逆転してしまっているが、本来はSH1247がSH1146を切る可能性が高い。こうした状況から遺構の残存具合は不良であるが、平面形状は隅丸方形を呈するとみられ、長辺3.70～3.80m程度、短辺3.40～3.50m程度の規模を有すると推定される。深さは最大で0.52mを測る。埋土は灰黄褐色土の小塊が少量混じる暗褐色土の単層である。残存状態が悪く床面で検出できた遺構はないが、遺構の形状や規模から竪穴建物と判断した。本遺構から出土した遺物は皆無である。そのため遺構の詳細な年代は明かにでき



第419図　SH1247実測図（1/50）

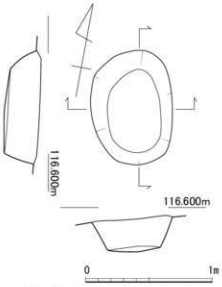
ないが、埋土色相から弥生時代以降とみられること、弥生時代後期とみられるSH1067に切られることから弥生時代後期以前となる。４区からは弥生時代中期～後期の土器が出土しており、またSH1068AやSH1069のように中期後半の竪穴建物が存在することから、本遺構も中期後半の可能性を考えたい。

SK1117（第420図）

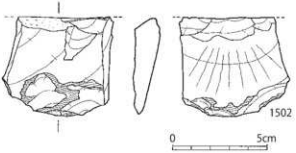
４区の南部西寄り、P-5グリッドで検出した土坑である。平面形状は南北に長い楕円形状を呈し、長径0.90m、短径0.64m、深さ0.29mを測る。内部は断面逆台形状を呈し、床面はほぼ平坦である。遺物は弥生土器の小片の他、スクレイパーとみられる石器が出土している。遺物から弥生時代の遺構と判断されるが、時期比定できる遺物に乏しく詳細な時期は明らかにできない。

SK1117出土遺物（第421図）

1502は金山産サヌカイトを素材とし、下部に刃部を持つスクレイパーである。図示できるのはこの１点しかない。



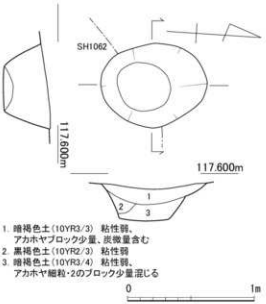
第420図　SK1117実測図（1/30）



第421図　SK1117出土遺物実測図（1/2）

SK1192（第422図）

４区の中央やや北東寄り、O-6グリッドで検出した土坑である。弥生時代の花弁形建物であるSH1062と重複関係にあり、SK1192がSH1062の張り出し部７を切っている。平面形状は楕円形を呈し、長径0.84m、短径0.65m、深さ0.37mを測る。埋土は３層に分層され、最上層の１層は暗褐色土、２層は黒褐色土、３層は２層の黒褐色土が少量混じる暗褐色土である。遺物は弥生土器の小片とともに、検出面近くから磨製石鏃が出土している。出土遺物から弥生時代の遺構であり、SH1062との切り合い関係から後期初頭以降に位置づけられる。



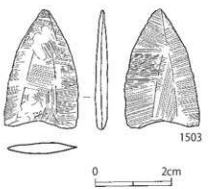
第422図　SK1192実測図（1/30）

SK1192出土遺物（第423図）

1503は磨製石鏃である。形状はやや丸みのある五角形状を呈し、基部は凹む。黒色粘板岩を素材とし、全体に顕著な研磨痕跡が残る。

SK1202（第424図）

４区の北東隅部で検出した土坑である。検出面において弥生時代中期の下城式の甕や壺の破片がまとまって出土し、その周囲を精査したところプランを確認したもので、当初は隅丸方形のプランから竪穴建物の可能性が考えられたが、内部を掘り下げたところ床面は不安定であり、竪穴建物ではないと判断し土坑として扱った。平面形状は隅丸方形状で、南東隅部は若干東に張り出す歪な形状をとり、北端部は攪乱SX1097に、北東隅部は中世のピットSP1070にそれぞれ切られている。遺構の規模は長辺3.13m、短辺3.02m、深さは最大で0.58mを測る。内部は４段の階段状を呈しており、東壁際が最も浅く、南西隅部が一番深く掘り込まれる。こうした歪な形状から、複数の土坑が切り合った結果生じた遺構の可能性もあるが、それを裏付けるような土層堆積は観察できなかった。遺物は先述のとおり、南壁中央付近の検出面あたりで下城式土器の甕や、壺型土器がまとまって出土している。出土遺物の大部分はこの土器集中部からの出土で、下層からの出土は極めて少ない。出土遺物から遺構の時期は中期後半に比定する。



第423図　SK1192出土遺物実測図（1/1）

SK1202出土遺物（第425図）

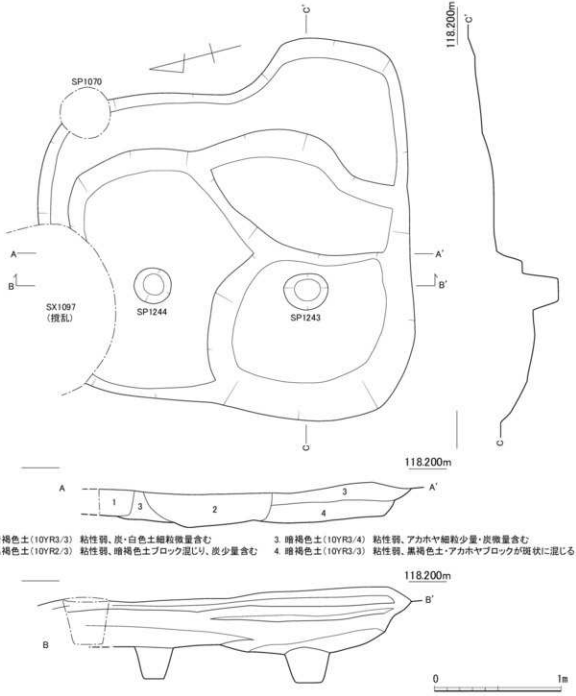
1504 ～ 1512は弥生土器である。1504・1505は甕で、外面口縁下に１条の刻目凸帯を巡らせ、口縁外端部に刻みを施す。中期後半の下城式土器である。1506 ～ 1512は壺で、1506・1507は口縁が外反し、頸部で緩くカーブして丸みのある肩部に続く。1506は口縁端部に刺突を施す。1508 ～ 1512は肩部から胴部の破片で、肩部と胴部下半に横位の区画沈線を配し、上下の区画沈線をつなぐ垂下多条沈線を施すもの（1510）、肩部から下方に連弧状の多条沈線を施すもの（1508・1509）、胴部下半から上方に連弧状の多条沈線を施すもの（1511・1512）からなる。それぞれ接合関係にはないが同一個体の可能性が高く、肩部と胴部下半の横位区画沈線内をキャンバスとし、垂下多条沈線で分割した区画内に上下対向する連弧状の多条沈線を充填する構図とみられる。以上は下城式甕にともなう中期の壺である。

第４節　古墳時代の遺構と遺物

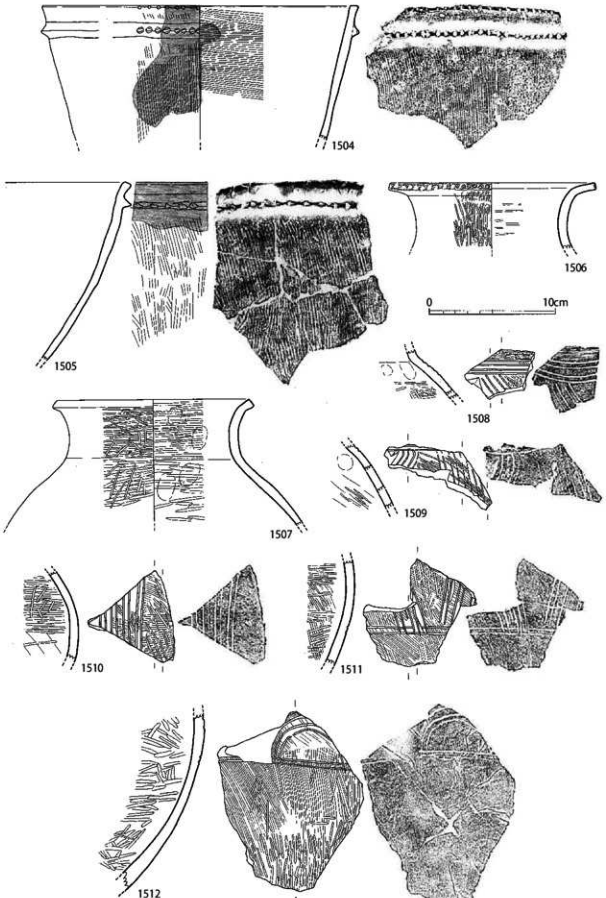
古墳時代の遺構として、竪穴建物２～３棟と土坑１基を検出した。うち１基は弥生時代の節で触れたSH1068Bで、古墳時代前期に下る可能性を含みつつ、弥生時代後期の可能性もある。いずれにしても竪穴建物は古墳時代前期後半に属するもので、１・２区で認められた後期に属するものはなく、４区における活動はほぼ古墳時代前期に限られる。

SH1061（第430図）

４区の中央東寄り、O-6・O-7グリッドで検出した竪穴建物である。前節で述べたとおり、弥生時代の花弁形建物であるSH1062の中心楕円形部のほぼ真ん中に構築されている。SH1062検出作業時に、この位置から残りの良



第424図　SK1202実測図（1/30）



第425図　SK1202出土遺物実測図（1/3）

い土師器個体がまとまって出土する状況がみとめられ、弥生時代の建物とは別に古墳時代の竪穴建物が切り合っている状況が想定され、慎重に検出作業を行った。両竪穴とも埋土が黒褐色土で酷似しており、遺構プランの認定は困難であったが、混入物の差異や微妙な色相の違いからこれを識別することができた。遺構プランは隅丸方形を呈し、長辺5.08m、短辺4.83m、床面は地形に沿って北西側に緩やかに傾斜しているため、深さは比高で最大1.14mを測る。最も残りの良い南東隅部あたりでの深さは0.70m前後である。埋土は４層に細分され、レンズ状の堆積状況を示す。１～３層は黒褐色土、床面直上の第４層は暗褐色土を呈し、３層を除き灰黄褐色土の小粒が混じる。床面は黄褐色ローム質土で、この床面において主柱穴となるピット２基を検出した。主柱穴は直径0.35～0.40m程度、深さは0.45～0.75m程度の規模を有する。遺物は弥生土器、土師器、半円形土製品、磨製石鏃、礫器、石核、磨製石斧、石ノミ、叩石・磨石、砥石、台石等、多量に出土している。特に遺構検出面近くの１～２層からまとまって出土しており、その多くは竪穴建物廃絶後に廃棄されたものとみられる。出土した遺物から、遺構の時期は古墳時代前期後半に位置づけられる。

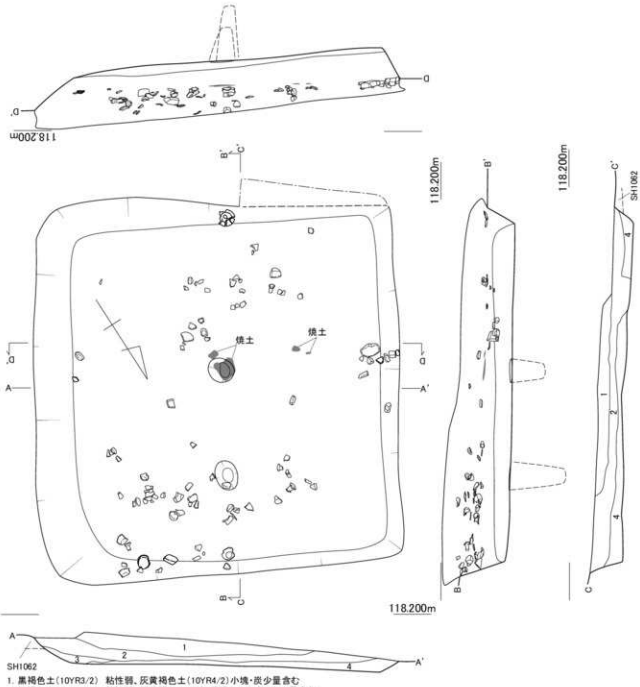
SH1061出土遺物（第427～431図）

1513～1522は弥生土器である。1513は外面口縁下に１条の刻目凸帯を貼り付ける甕で、口縁部の端部外端を刻む。中期の下城式に比定される。1514は甕の底部で、底面には葉脈状の圧痕が残る。1515～1519は壺である。1517～1519は口縁が大きく外反し、端部を上方に拡張した複合口縁となるもので、外面に鋸歯状の刻み目と、拡張した上端面に浮文を施す。浮文は1517は円形、1518は小さな勾玉状、1519は円形で中央に刺突を施す形状と、バリエーションがある。1519は口縁端部下端が下方に張り出す。1522は高坏の脚部で、裾部は「ハ」字状に直線的に開く。1520・1521は鉢で、1520は口縁下に貫通する穿孔が認められる。1523～1545は土師器である。1523・1524は口縁部が上方に延びた二重口縁壺で、1524は口縁がラッパ状に開く。1525～1528は甕で、口縁は外反し、頸部で屈曲して胴部は球状に膨らむ。1527は器壁が薄く、他所からの搬入品か。1528は小型の器形である。1529～1532は壺で、1529・1531は煤の付着が認められる。1533～1536は小型丸底壺で、いずれも口縁部を欠く。1534は外面に粗いハケ目を施し、1536は見込みに絞り痕が認められる。1537～1545は高坏である。坏部は外に開きながら立ちあがり、中位で屈曲して外反する口縁に続く。脚部は「ハ」字状に延び、裾上部で外に折れ裾部は広がる。坏部と脚部の接合は円盤充填を基本とするが、1540は挿入付加法の可能性がある。1546・1547は土器片を転用し、周縁を加工して半円形状に仕上げた土製品である。

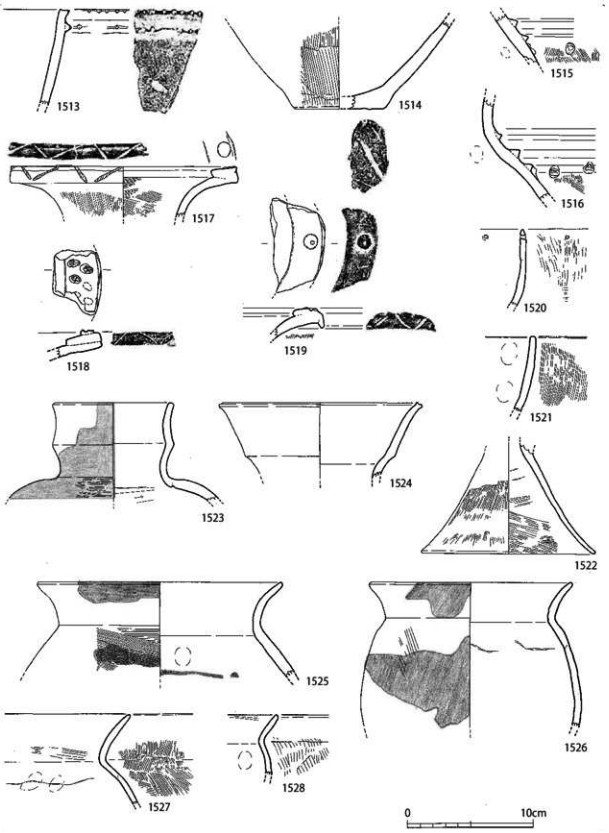
1548～1570は石器である。1548～1554は磨製石鏃及びその未成品で、1548は基部を欠失する。1549・1550は剥離調整の後に研ぎを施す研磨工程段階の未成品で、全体に擦痕が顕著に認められる。1551～1554は素材の周縁に調整剥離を施した調整段階の未成品である。石材は1550が結晶片岩である他は黒色粘板岩を素材とする。1555は石核で、背面・腹面とも剥離による凹面で構成される。石材は黒色粘板岩で、磨製石鏃の母岩として持ち込まれたものである。1556は安山岩の細長い円礫側面に調整剥離を施すもので、礫器としたが、打製石斧の未成品なのかもしれない。全体に被熱を受け赤変している。1557は玢岩製の磨製石斧で、刃部を中心に細かい剥離痕が残り、粗い擦痕が残ることから未成品か。1558は石ノミで、全体を研磨して仕上げている。石材は蛇紋岩である。1559は凝灰岩質砂岩の円礫を素材とした叩石・磨石で、上下両面を磨面とし、周縁に顕著な敲打痕が残る。1560～1567は砥石である。1560は上面を使用面とし、上面は平滑化し、敲打痕が認められる。叩石を転用したものであろうか。1561は上面及び上下両側面を使用面とし、上面は使用により大きく凹んでいる。1562は折損した左右両面以外を使用面とし、上端面からの斜面と下面が凹む。1563は上下両面を使用面とし、それぞれ部分的に凹みが認められる。1564～1567は上面を使用面とし、研ぎ面は平滑化し粗い擦痕が残る。石材はいずれも砂岩である。1568～1570は石皿・台石である。1568は上下両面に、1569は上面に被熱の痕跡が認められる。1570は上下両面を作業面とする。石材は1568・1570が砂岩、1569は安山岩である。

SH1065（第432図）

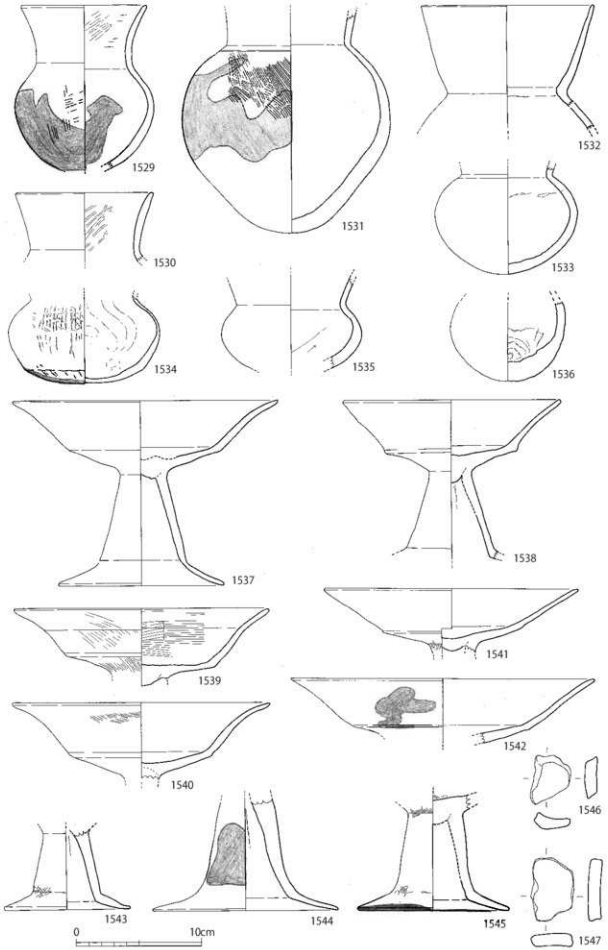
４区の中央部北寄り、N-6・O-5・O-6グリッドで検出した竪穴建物である。西端部は弥生時代の竪穴建物SH1247、東端部と南端部はそれぞれ時期不明の土坑SK1207・SK1204と重複しており、これらの遺構を切っている。平面形状は方形を呈し、長辺5.32m、短辺4.80mを測る。床面は地形に沿って北西側に緩やかに傾斜しているため、深さは比高で最大1.13mを測るが、最も残りの良い東端部の深さは0.70m弱である。埋土は７層に細分され、検出面において一部で焼土混じりの土層が認められたが(図中の第１層)、検出面からはやや浮いた状態で、これがこの竪穴建物と関係するものかは判然としない。竪穴の上層は２層及び３層の黒褐色土が厚く堆積する。床面直上の７層は黄褐色ローム質土のブロック混じりの黒褐色粘質土で、貼床層とみられる。床面遺構はこの貼



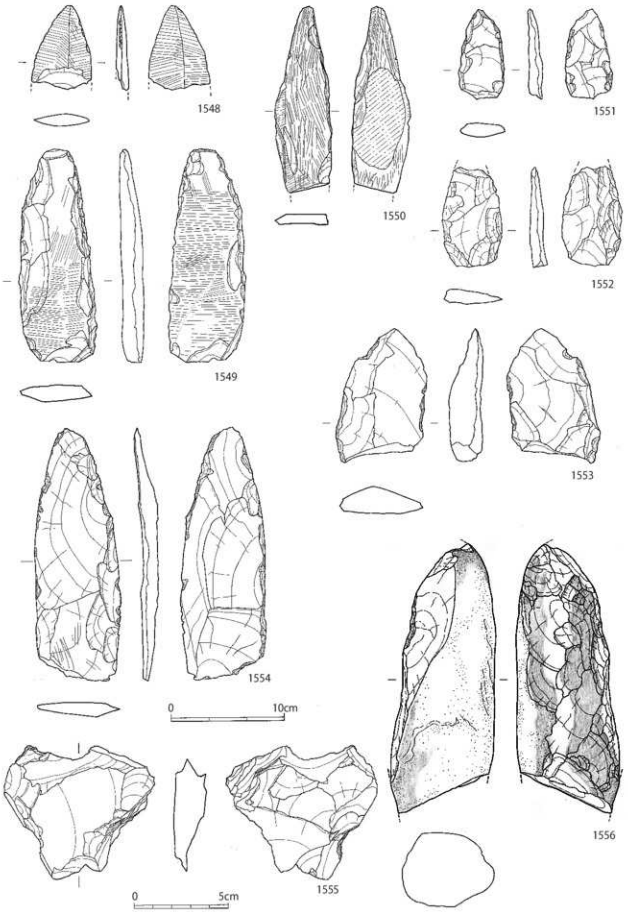
第426図　SH1061実測図（1/50）



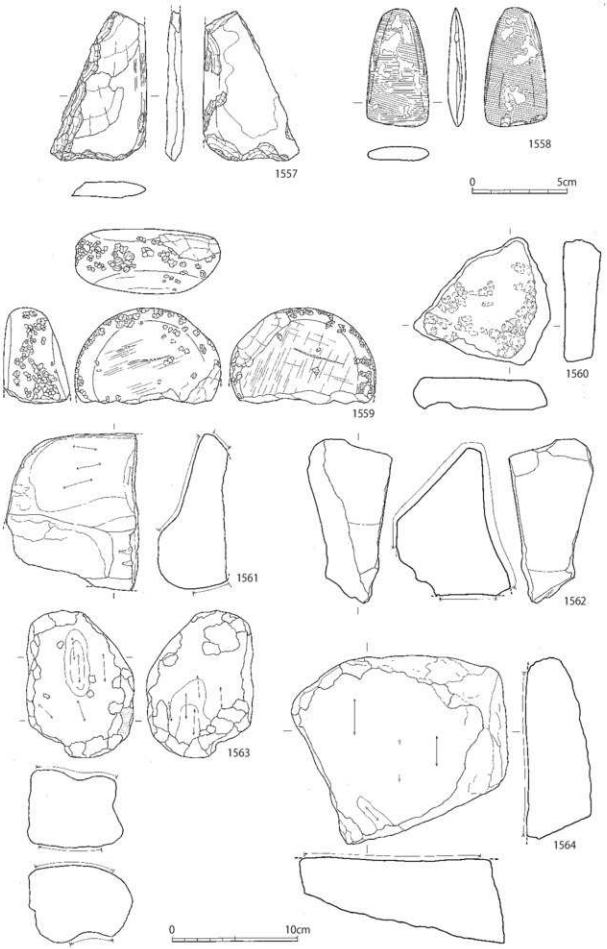
第427図　SH1061出土遺物実測図①（1/3）



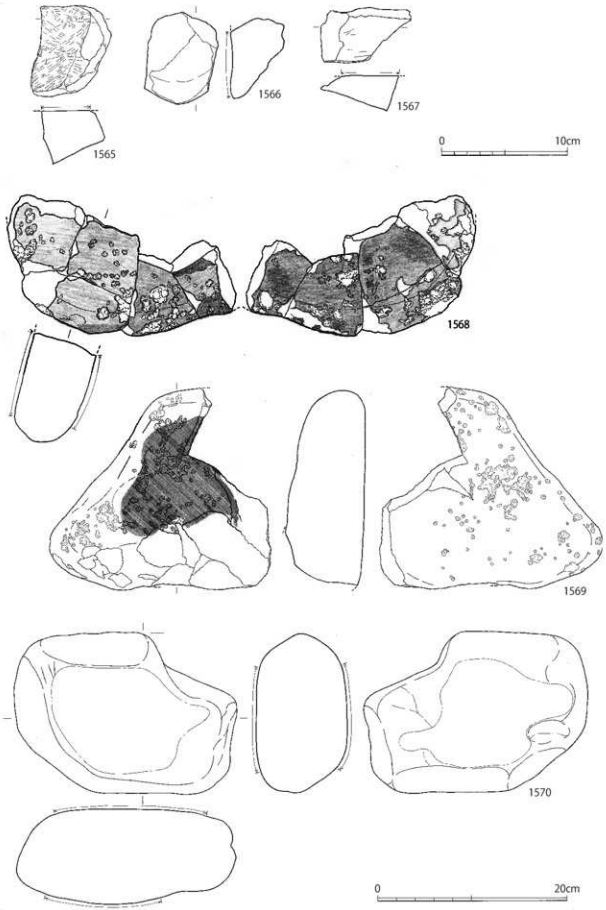
第428図　SH1061出土遺物実測図②（1/3）



第429図　SH1061出土遺物実測図③（1/1・1/2）



第430図　SH1061出土遺物実測図④（1/2・1/3）



第431図　SH1061出土遺物実測図⑤（1/3・1/4）

床層を除去した黄褐色ローム質土の上面で検出しており、南北に深さのある主柱穴２基（図中の主柱穴１・２）と、その他に浅い掘り込みのピット８基、東壁際において土坑１基を検出したが、炉穴には認められなかった。壁際土坑は長径1.10m、短径0.50m程度の楕円形を呈し、深さは0.21mを測る。南端部において土師器甕１個体が据えられたような状態で出土した。出土レベルから、土坑を埋めた後、その上に据えたものとみられ、建物廃絶の際の何らかの祭祀行為の可能性が高い。北側の主柱穴１では、埋土上半部から土師器の複合口縁壺１個体と数点の礫がまとまった状態で出土した。これも柱を抜き取った後の何らかの祭祀行為を示すものであろうか。また、竪穴の北側隅部では礫や土器片20点前後が集積されたような状態で出土している。

遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、半円形土製品、打製石斧、二次加工剥片、叩石・磨石、砥石、石皿等、まとまった量が出土している。遺構の時期は、古墳時代前期後半に位置づける。

SH1065出土遺物（第433 ～ 435図）

1571 ～ 1576は弥生土器である。1571・1572は外面口縁下に刻目凸帯を巡らせる甕で、凸帯条数は1571は１条、1572は２条である。1573は甕で、口縁は外反し、端部はわずかに上方へ摘み上げる。1574は鉢で、口縁部が外に折れ、端部を拡張して上部に幅広の面を持つ。内端部は内側にわずかに張り出す。1575は壺の胴部で、外面に凸帯を巡らせる。1576は鉢で、ボウル形の器形を呈する。1577 ～ 1582は甕である。いずれも口縁部は外反し、頸部で屈曲して胴部は球状に膨らむ。底部は丸底である。1582を除き、外面には煤の付着が認められる。1583は複合口縁となる壺で、頸部には１条の凸帯を巡らせ、胴部は丸く膨らむ。1584 ～ 1588は土器片を転用し、周縁を加工して半円形状に仕上げた土製品である。

1589 ～ 1595は石器である。1589は安山岩の円礫を素材とした叩石・磨石で、下面を磨面とし、周縁部に敲打痕が顕著に残る。上面には被熱の痕跡が認められ、それがためか表面が剥落している。1590は叩石で、上面及び側縁部に無数の敲打痕が認められる。石材は安山岩である。鰹節状の形状を呈し、断面形は歪な八角形をなす。それぞれの側面部に顕著な擦痕を有し、一部に金属の刃物を研いだような鋭利な研ぎ痕が残る。石材は砂岩である。1592は砂岩製の砥石で、上面を使用面とし、表面はわずかに凹む。1593は砂岩を素材とした台石である。1594は安山岩製の打製石斧で、全体に顕著な調整剥離を施す。1595は安山岩の剥片で、下部に微細な剥離痕が認められる二次加工剥片である。石材から打製石斧の製作によって生じた剥片を転用した可能性が考えられる。

SK1131（第436図）

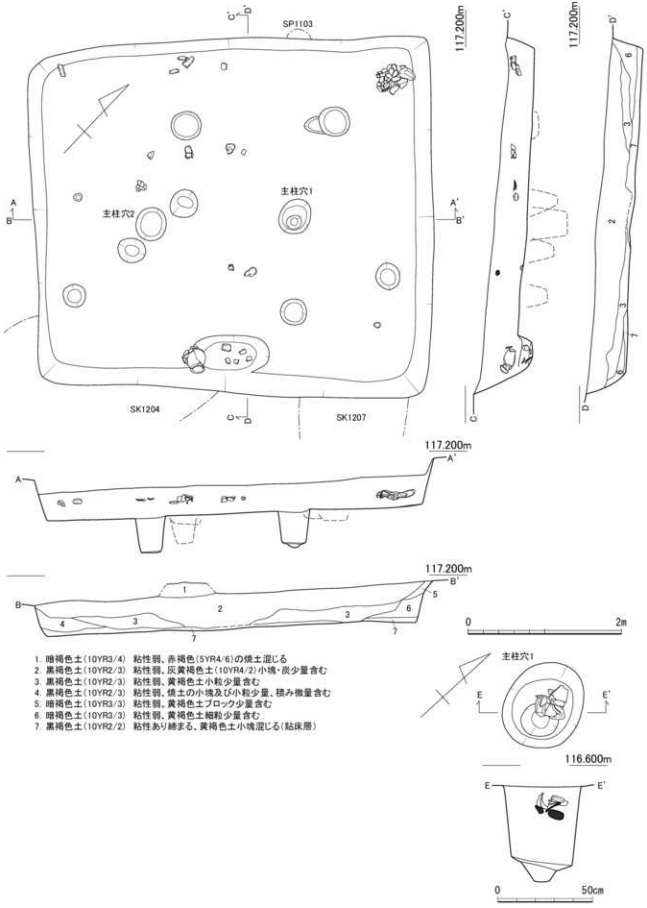
４区の西部、O-4・O-5・P-4・P-5グリッドで検出した土坑である。中心部分を確認調査トレンチに切られるため残存状況は不良であるが、平面形状は隅丸長方形状を呈し、長辺1.93m、短辺0.94m、深さ0.58mを測る。埋土は４層に分層され、４層の黒褐色土で埋没した後に、１～３層の掘り込みが穿たれる状況が観察される。このため２基の土坑の切り合いであった可能性もあるが、ちょうど確認調査トレンチによって失われており平面での確認ができなかった。遺物は土師器が出土しているが、小片ばかりで図示できるものはない。出土遺物から、古墳時代前期の遺構である。

第５節　中世の遺構と遺物

中世の遺構として確認できたのは、４区ではピットSP1070の１基だけである。出土遺物も少なく、中世における４区の利用は低調であったとみられる。

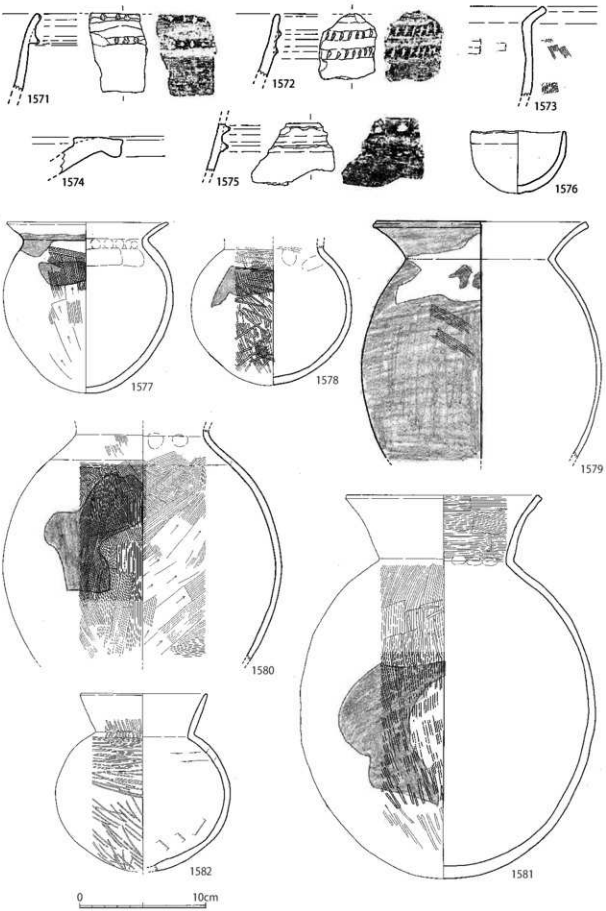
SP1070（第437図）

４区の北東隅部、N-7グリッドで検出した柱穴である。弥生時代の土坑SK1202のちょうど北東隅部あたりに位置し、これを切って構築している。平面形状は略円形を呈し、直径0.40m、深さ0.37mを測る。内部から土師器小皿が出土しており、14世紀代の遺構と推定される。

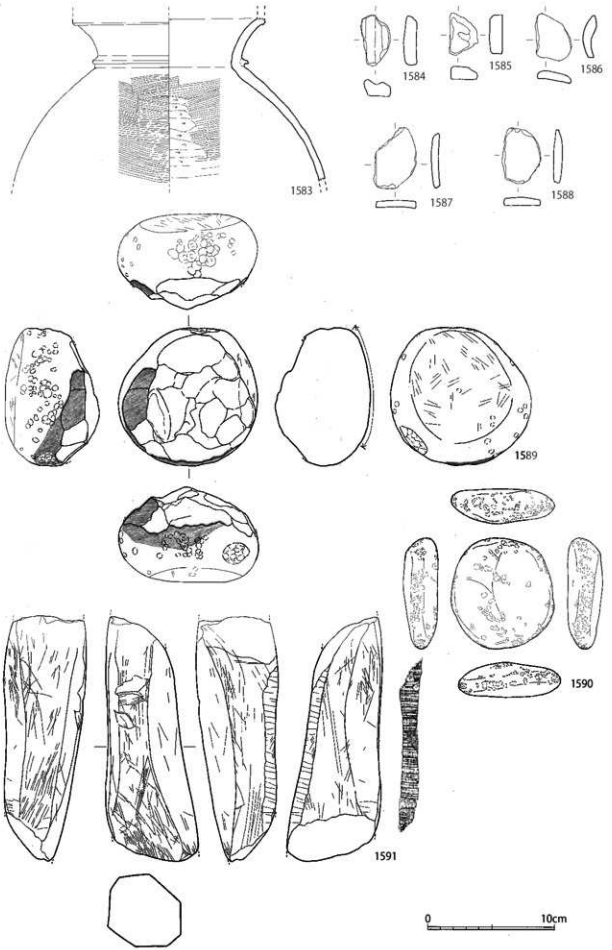


1. 暗褐色土(10YR3/4)　粘性弱、赤褐色(5YR4/6)の焼土混じる
2. 黒褐色土(10YR2/3)　粘性弱、灰黄褐色土(10YR4/2)小塊・炭少量含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)　粘性弱、黄褐色土小粒少量含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)　粘性弱、焼土の小塊及び小粒少量、積み微量含む
5. 暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱、黄褐色土ブロック少量含む
6. 暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱、黄褐色土細粒少量含む
7. 黒褐色土(10YR2/2)　粘性あり締まる、黄褐色土小塊混じる(粘床層)

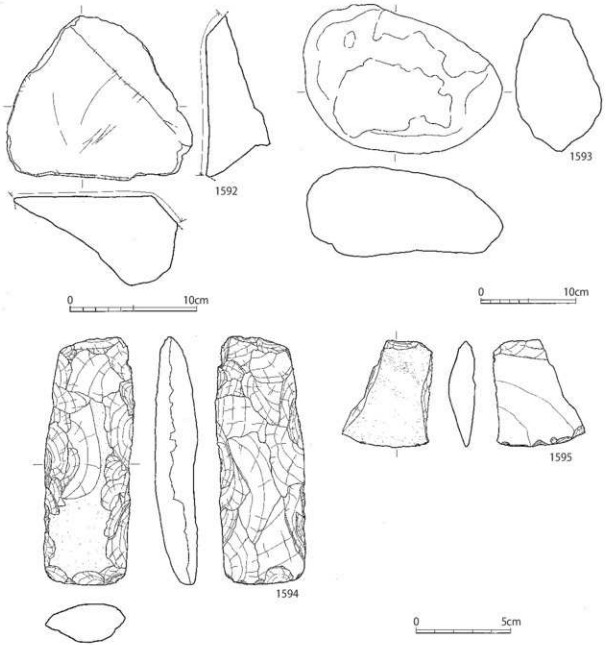
第432図　SH1065実測図（1/50・1/20）



第433図　SH1065出土遺物実測図①（1/3）



第434図　SH1065出土遺物実測図②（1/3）



第435図　SH1065出土遺物実測図③（1/3・1/4・1/2）

SP1070出土遺物（第438図）

1596は土師器の小皿である。口縁部は短く立ち上がり、底面には回転糸切り離し痕が残る。

第６節　その他の遺構と遺物

前節までに報告した遺構・遺物以外で、ここでは出土遺物がなく帰属時期が不明な遺構や、ピットなど帰属時期を決し難い遺構を扱う。

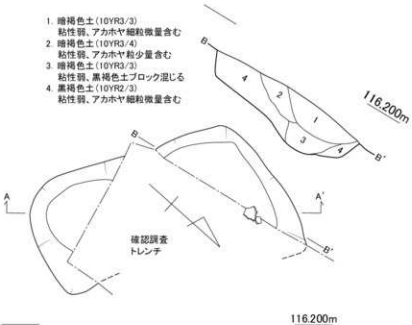
SK1090（第439図）

４区の中央部、O-6グリッドで検出した土坑である。南東部はSK1153と、北西部はSK1204とそれぞれ重複関係にあり、SK1090がこの両者を切っている。平面形状は鶏卵形を呈し、長径1.15m、短径1.04m、深さ0.66mを測る。出土遺物は皆無で、遺構の時期比定は困難であるが、重複するSK1153からは弥生土器が出土しているこ

とから、弥生時代以降の遺構であることは確実である。

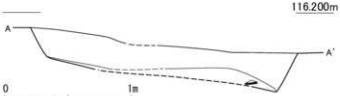
SK1137（第439図）

４区の中央部南寄り、O-6グリッドで検出した土坑である。縄文時代の竪穴建物SH1132の埋没後に掘り込む土坑で、平面形状は略円形を呈し、長径0.82m、短径0.74m、深さ0.36mを測る。遺物は弥生土器の小片が少量出土していることから、弥生時代の遺構の可能性があるが、時期比定の決め手を欠く。

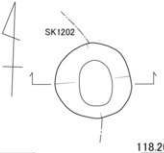


SK1153（第439図）

４区の中央部、O-6グリッドで検出した土坑である。北部の一端をSK1090に切られるが、平面形状はやや歪な楕円形状を呈し、長径1.93m、短径1.56m以上、深さ0.33mを測る。遺物は弥生土器の小片が少量出土していることから弥生時代以降の遺構であるが、少量の遺物がこの土坑の年代を決めるものかは判断が難しい。

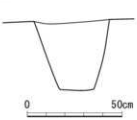


第436図　SK1131実測図（1/30）

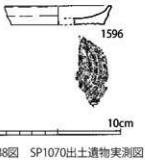


SK1193（第439図）

４区の中央北寄り、N-6・O-6グリッドで検出した土坑である。平面形状はやや中膨れの鶏卵形を呈し、長径1.80m、短径1.55m、深さ0.47mを測る。内部は二段掘りとなり、南西側に一段高いステップ状の段が付く。埋土は４層に分層され、下層の２～４層堆積後に上層の暗褐色土が厚く堆積する。段状に浅いテラス部はこの最上層に被覆される。最下層の４層は暗褐色土ブロックの混じる黒褐色土で、床面となる標準層序の第Ⅵ層が掘り返されて上位層が混じったものとみられる。遺物は土器小片がわずかに出土しているが、時期比定できるものはなく、遺構の年代は決し難い。



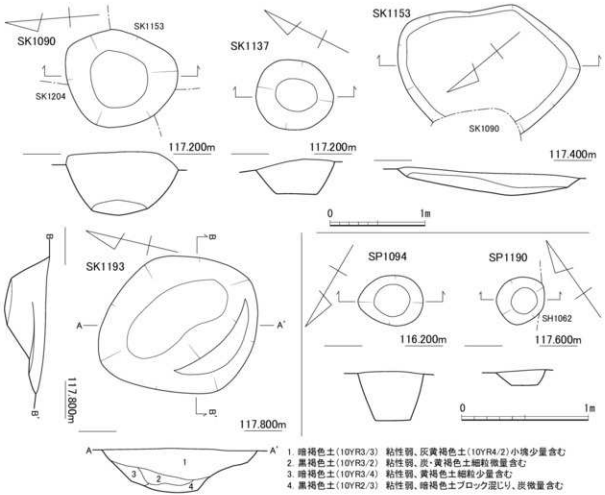
第437図　SP1070実測図（1/20）



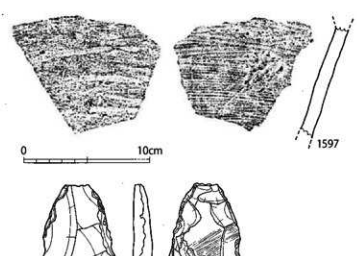
第438図　SP1070出土遺物実測図（1/3）

SP1094（第439図）

４区の北西端部付近、N-5グリッドで検出したピットである。平面形状は鶏卵形を呈し、長径0.52m、短径0.40m、深さ0.38mを測る。遺物は縄文土器が１点出土しているが、これが遺構の年代を決めるものかは判断が難しい。



第439図　４区遺構実測図（1/30・1/20）



第440図　４区遺構出土遺物実測図（1/3・1/1）

SP1094出土遺物（第440図）

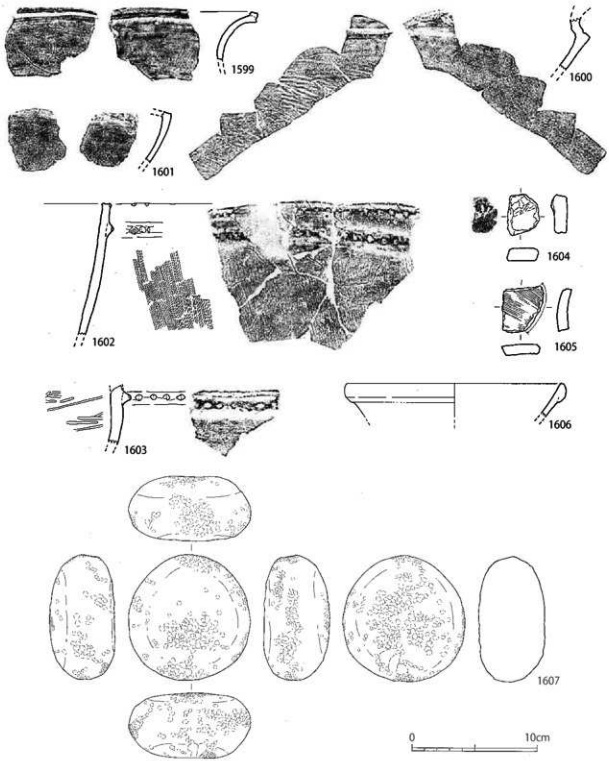
1597は縄文土器である。胴部下半の破片で、内外面に粗い条痕調整を施す。

SP1190（第439図）

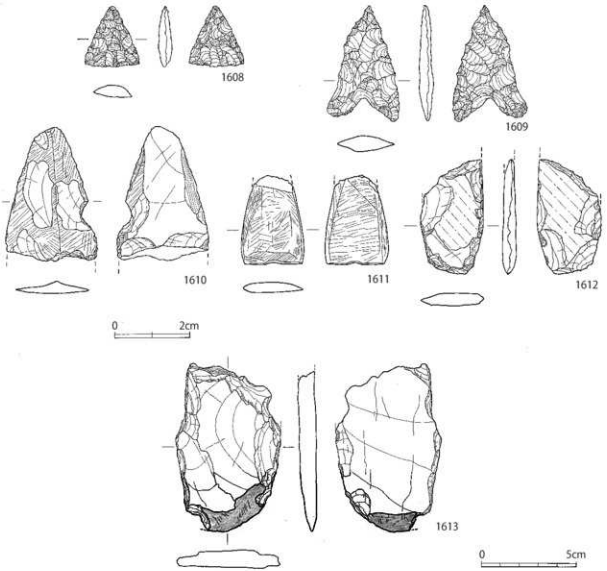
４区の中央部付近、O-6グリッドで検出したピットである。弥生時代の花弁形建物であるSH1062の張り出し部SH1062-6と一部が重複しており、SP1190がSH1062-6を切っている。平面形状は略円形を呈し、長径0.40m、短径0.35m、深さ0.12mを測る。遺物は土器片の他に磨製石鏃が出土しているが、磨製石鏃はSH1062から混入したものの可能性もある。遺構の年代比定は困難であるが、SH1062との切り合い関係から弥生時代後期初頭以降である。

SP1190出土遺物（第440図）

1598は磨製石鏃である。黒色粘板岩を素材とし、側縁部に調整剥離を施した後に研磨を行っており、研磨工程段階の未成品と判断される。磨製石鏃の未成品はSH1062からも出土していることから、1598はSP1190に伴うものではなくSH1062から混入したものである可能性もある。



第441図　４区出土遺物実測図①（1/3）



第442図　４区出土遺物実測図②（1/1・1/2）

第７節　包含層その他の出土遺物

表土や遺構検出作業等に伴って出土した、遺構外出土遺物を第441・442図に示す。遺物は縄文時代から近世にかけてのものを含むが、４区からの出土量は他の１～３区に比べると少ない。

1599～1561は縄文土器である。1599は口縁部が強く外反し、端部が上方に短く折れるもので、口縁部外面に１条の沈線を施す。後期末葉の深鉢である。1600・1601は浅鉢で、いずれも胴部で強く屈曲する。1600は屈曲部の上部に１条の沈線を施す。これらは晩期に比定される。1602・1603は弥生土器の甕で、外面口縁下に１条の刻目凸帯が巡る特徴から下城式と判断される。1604・1605は土器片を転用し、側縁部を加工して半円形状に整形した土製品である。1604は刻目凸帯が見られ、下城式甕の転用であることが分かる。1606は中国産の白磁玉縁碗である。

1607～1613は石器である。1607は砂岩の円礫を用いた叩石で、上下両面及び側縁部に顕著な敲打痕が認められる。1608・1609は姫島産黒曜石を素材とする打製石鏃で、1608は正三角形状を呈する平基無茎式石鏃、1609は凹基無茎式石鏃である。1610～1612は磨製石鏃で、1610・1611は調整剥離の後研磨調整を施すが、一部に剥離痕が残り、調整も粗い事から研磨工程段階の未成品とみられる。1612は整形段階の未成品で、上下両面に節理面を残し、側縁に調整剥離を施す。石材は1610・1611は黒色粘板岩、1612は結晶片岩である。1613は磨製石斧の破片で、上下両面が層状に剥離した先端にわずかに刃部が残る。石材は千枚岩か。

第７章　５区の発掘調査成果

第１節　発掘調査の概要

県道三重新殿線（牟礼前田工区）道路改良事業に伴う上田原東遺跡の発掘調査は、調査前の土地形状に応じて１～５区の調査区を設定して実施した。５区は市道辻下津留線の西沿いに細長く設定した調査区で、市道を挟んで北東に３区、東に４区が位置する（第443図）。調査地の地番は豊後大野市三重町大字上田原字辻1616-2・1618-3で、地目は畑である。発掘調査前の標高は約113.2～115.0mを測る。事前の確認調査の際には５区にあたる部分にはトレンチを設定しなかったが、トレンチ調査の結果、１～４区にあたる部分で満遍なく遺構が確認され、５区にあたる部分についても地形的には同一の緩斜面を形成しており、遺構の広がりが十分に予想された。そのため、本調査対象範囲に５区も含め、発掘調査を実施することとなった。

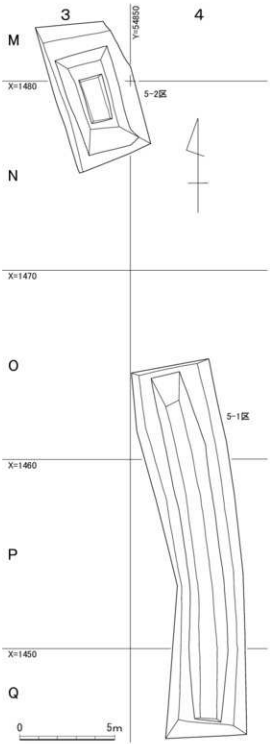
５区の発掘調査は４区の調査と並行して行った。まず、５区の南側から重機により表土掘削に着手したところ、表土下で厚い砕石層が確認され、さらにその下で黄褐色のローム層が現れる状況で、１～４区とは層序が全く異なっていた。さらに、黄褐色ローム質土も非常に硬く締まったもので、１～４区でみられる第Ⅵ層の下のソフトロームではなく、さらに下位に堆積するローム層とみられ、これより上位の層は完全に失われた状態であった。そのため、５区の全面的な発掘調査は一旦中止し、トレンチ調査に切り替えて堆積層序の確認を行い、遺構や遺物が確認された場合に当該箇所周辺を拡張して調査する方針に切り替えた。しかし、結果として層序に変化はみられず、さらに北側に設定したトレンチでは地表下1.80mを超えても厚い盛土に覆われ、下からは埋められた廃材が出土するなど、遺構の広がる状況は全く確認されず、また、遺物も近現代の磁器片がわずかに出土しただけであった。そのため、５区の発掘調査は、南北に２箇所のトレンチ調査区を設定しただけで、調査を完了した（第444図）。

なお、発掘調査の際に、この５区にあたる土地の旧地権者から聞き取りを得ることができた。聞き取りによると、もともと５区のエリアは市道から一段低く落ち込んでいたようで、上田原東遺跡の北北東約1.3kmの所にある清掃センターを建設した際に発生した岩砕や残土を搬入して、この低地を埋め立て、市道と同じ高さまで嵩上げしたとのことであった。清掃センターの完成は平成９（1997）年３月のことである。

第２節　調査区の基本層序

５区の南側に設定した、5-1区の南壁土層断面図を第445図に示す。第１層はにぶい黄褐色を呈する表土層であ

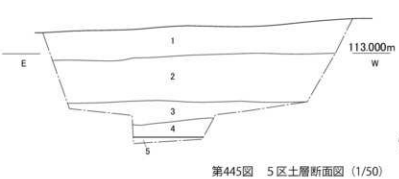
第443図　上田原東遺跡の調査区配置と５区の位置（1/1500）



第444図　５区平面図（1/200）

る。層厚は0.40 ～ 0.45m前後を測り、２層との層界面は比較的平坦である。第２層は凝灰岩の岩盤を破砕した砕石で盛土整地した灰色土で、旧地権者からの聞き取りで判明した、清掃センター建設時の発生残土を搬入したものである。層厚は0.60 ～ 0.65m前後で、平坦な堆積状況を示す。第３層はにぶい黄褐色土で、地山である第５層のブロックや褐灰色土ブロックの混じった盛土層である。層厚は0.20 ～ 0.30m前後を測る。第４層は地山に由来する黄褐色土の小粒が混じった暗褐色土で、この層が盛土前の旧表土とみられる。したがって、本来の旧地形は現況地盤から1.20 ～ 1.30m程度低かったことになる。第４層の掘り下げは部分的であるが、層厚は0.15 ～ 0.25mを測る。第５層との層界面も起伏はなく平坦な堆積状況を示す。第５層は明褐色土の地山層で、白色粒子を含み、粘性の強く硬く締まったハードローム層である。

５区の北側に設定したトレンチ（5-2区）では土層断面図を作成していないが、確認した層序を列記する。第１層は5-1区と同じ表土層で、色調はにぶい黄褐色土（10YR4/3）を呈し、粘性は弱い。層厚は約0.20mで、平坦な堆積状況を示す。第２層は１～５㎝大の砂利を主体とした褐灰色土（10YR4/1）で、盛土整地した層である。層厚は0.20m前後を測る。第３層は黄褐色土（10YR5/6）を主体とし、これに黒褐色土（10YR2/3）と暗褐色土（10YR3/3）のブロックが混合するもので、全体に粘性があり硬く締まる。層厚約1.10mと厚い盛土層である。第４層は灰黄褐色(10YR4/2)を呈する締まった粘質土で、砂粒を含み全体に酸化鉄分の沈着が認められる。層厚は0.30m以上で、安全上の理由からこれ以上の掘り下げは行わなかった。グライ化し、酸化鉄分が沈着する状況から湿地状の地形であったことが見て取れ、特に第３層・第４層からは現代の廃材を含むことから、湿地を埋め立てて地形をかさ上げし、平地を造成した状況が窺えた。5-2区では結果として地山層を確認していないが、土層堆積の状況から当該箇所に遺構の存在する可能

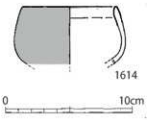


第445図　５区土層断面図（1/50）

性は極めて低く、これ以上の発掘調査は不要と判断して調査を終了した。

第３節　５区の出土遺物

５区から出土した遺物はわずかに２点で、いずれも5-1区からの出土である。内１点を第446図に示した。1614は磁器の碗で、口縁部は内湾し、胴部は丸く膨らむ。全体に透明釉を掛けた後に、外面及び口縁部に褐色の釉薬を掛けているとみられる。近現代の所産とみられ、出土品からも5-1区の土地が現代の造成により形成されたものであることを裏付けている。



第446図　５区出土遺物実測図
(1/3)

第８章　Ｘ線CTによる上田原東遺跡の土器圧痕調査報告

熊本大学大学院人文社会科学研究部
小畑　弘己

１　調査資料の概要

遺跡名：上田原東遺跡（かみたはらひがし）
遺跡所在地：大分県豊後大野市三重町上田原
遺跡の時期：縄文時代後期末～古墳時代後期
調査土器変数：55点
検出圧痕数：12点

２　調査結果

土器は圧痕種実の可能性のあるものが選択されたものを調査委託され、その圧痕の内容の検討を中心とした調査であった。よって、今回の調査で検出した圧痕は、表出圧痕９点、潜在圧痕５点と、表出圧痕が多い結果となった。潜在圧痕のうち３点は軟X線画像段階で種実や昆虫ではないと判断し、３D化は２点のみで実施した。

このうち、種実もしくは種実、またはその種類が特定できたものは、６点であった。潜在圧痕はすべて不明であった。

KTH 0003は古墳時代後期の土師器坏についたイネ籾の表出圧痕である。KTH 0007は同じく古墳時代後期の土師器の表出圧痕である。サイズや形態はアズキに似るが、臍部が観察できず決め手を欠く。KTH 0016とKTH 0018はともに古墳時代前期と思われる土師器の表出圧痕である。KTH 0016は長楕円形の形態であり、基部に大きな円形の着点部と側面に数条の細い縦方向の凸線をもつ。何等かの種実と思われるが、同定できなかった。KTH 0018は扁平な円形を呈しており、タデ科種子に似るが同定できない。

縄文土器と思われるものからは、５点の圧痕を検出した。１点は潜在圧痕で不明であった。KTH 0052は大型の子葉状の形態をもつ表出圧痕であるが、最終的に不明とした。

KTH 0041はアズキ亜属の種子圧痕である。KTH 0048は円形の表出圧痕であり、クマノミズキの可能性もあるが、表面が粗く、特定できない。KTH 0046は長さが１cm弱の長い雨滴形の表出圧痕である。貝の舌（脚）のように楕円形の部分から細長い部分が伸びている。表面に細粒の点状の組織が一部認められるが、種は特定できなかった。

３．考　察

今回の土器圧痕調査では、古墳時代のイネ籾とアズキ近似種各１点を検出した。また、縄文時代後期末と思われるアズキ亜属１点を同定できた。このアズキ亜属資料は大分県ではきわめて貴重であり、おそらく初例ではないかと思われる。

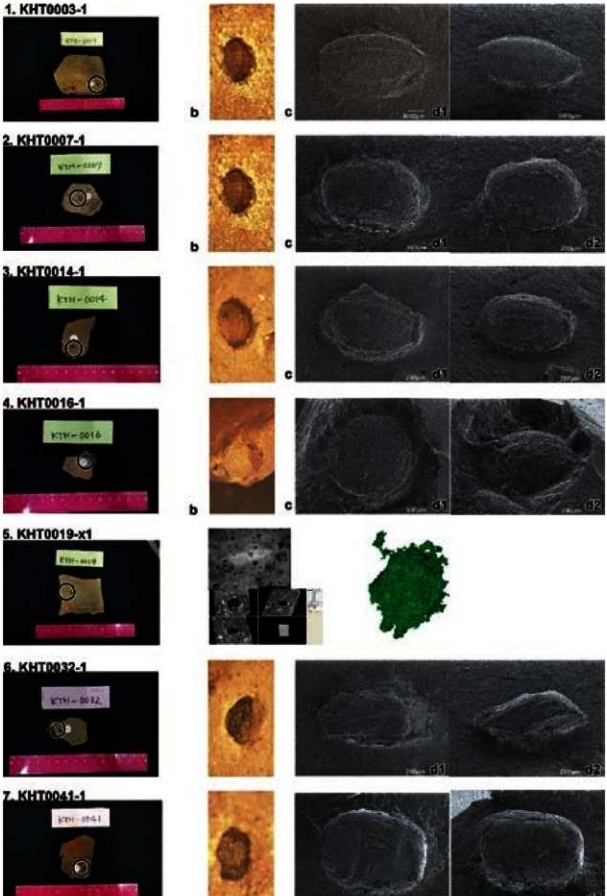
今回わずか55点という点数の土器から栽培種を３点検出することができた。圧痕は不明ではあったが、潜在圧痕も存在することから、多数の土器を調査すれば多数の潜在圧痕を検出できる可能性が高い。

第13表　分析資料及び分析結果

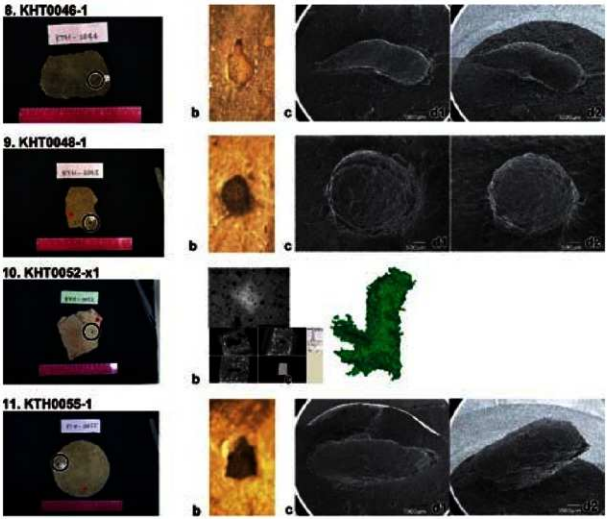
資料番号			注記	器形	型式/時期	部位	検出面	圧痕の種類	長さ	幅	厚さ	備考
KTH	0003	1	上田原東２区S-724	坏	土師器/古墳後期	口縁部	内面	イネ（モミ）	6.58+α	3.79	2.29	
KTH	0007	1	上田原東２区S-750d	?	土師器/古墳後期	胴部	内面	不明種子 アズキ似てるがへそ無	4.8	3.2	2.89+α	
KTH	0014	1	上田原東２区S-896a	?	土師器/古墳前期	胴部	外面	不明種子	4.74	3.1+α	2.91	
KTH	0016	1	上田原東２区S-896d	鉢?	土師器/古墳前期	口縁部	外面	不明種子	3.08	3.13	1.2	タデ?
KTH	0019	×1	上田原東２区S-9810	深鉢	縄文後期末	胴部		不明	3.67	2.88	1.46	
KTH	0032	1	上田原東３区S-29上層	?	土師器?	胴部	外面	蕎?	5.61	2.27	2.99	
KTH	0041	1	上田原東３区S-367	深鉢	縄文後期末	胴部	外面	アズキ	6.31	4.71	4.87	
KTH	0046	1	上田原東３区表土	深鉢	縄文後期末	胴部	外面	不明	9.37	4.71	4.87	
KTH	0048	1	上田原東３区表土	深鉢	縄文後期末	胴部	内面	クマノミズキ?	3.54	3.18	2.96	
KTH	0052	×1	上田原東３区L-6検出	深鉢	縄文後期末	胴部		不明	6.28	3.61	1.24	
KTH	0055	1	上田原東３区L-6検出	甕	弥生	底部	外面	不明				

第14表　上田原東遺跡圧痕分析資料一覧

番号	試料名	調査区	出土地点	遺構の時期	挿図番号	試料番号
1	縄文土器　深鉢	1区	SK591	縄文晩期後葉	第17図13	
2	縄文土器　深鉢	1区	SP633		第86図182	
3	土師器　坏	2区	SH724	古墳後期	第139図378	KTH0003
4	縄文土器　深鉢	2区	SH730	古墳後期	第143図394	
5	土師器　高坏	2区	SH750	古墳後期	第148図428	
6	土師器　高坏	2区	SH750	古墳後期	第148図429	
7	土師器　甕	2区	SH750	古墳後期	第148図420	KTH0007
8	弥生土器or土師器	2区	SK789		第180図595	
9	縄文土器　浅鉢	2区	SH896	古墳前期	第161図499	
10	土師器　甕	2区	SH896	古墳前期	第162図532	
11	土師器　高坏	2区	SH896	古墳前期	第162図529	
12	縄文土器　浅鉢	2区	SH896	古墳前期	第161図496	
13	土師器　高坏	2区	SH896	古墳前期	第162図524	
14	土師器	2区	SH896	古墳前期	第162図531	KTH0014
15	土師器	2区	SH896	古墳前期	第162図530	
16	土師器　鉢？	2区	SH896	古墳前期	第162図495	KTH0016
17	縄文土器　深鉢	2区	SK898	縄文晩期後葉	第117図323	
18	縄文土器　深鉢	2区	SH946	古墳前期	第169図573	
19	縄文土器　深鉢	2区	SH981	縄文後期末葉	第110図306	KTH0019
20	縄文土器　深鉢	2区	SH981	縄文後期末葉	第110図305	
21	縄文土器　浅鉢	2区	SH981	縄文後期末葉	第110図307	
22	弥生土器	3区	SH2	弥生	第250図886	
23	弥生土器　粗製甕	3区	SH2	弥生	第249図866	
24	弥生土器　粗製甕	3区	SH2	弥生	第249図865	
25	弥生土器	3区	SH2	弥生	第250図884	
26	弥生土器	3区	SH2	弥生	第250図887	
27	弥生土器	3区	SH2	弥生	第250図885	
28	弥生土器　高坏？	3区	SH2	弥生	第250図883	
29	土師器？	3区	SK4	古墳前期	第326図1175	
30	縄文土器　深鉢	3区	SH10	弥生	第282図1031	
31	土師器　甕	3区	SH25	古墳前期	第320図1151	
32	土師器？	3区	SH29	古墳後期	第136図364	KTH0032
33	土師器　甕	3区	SH30	古墳前期	第322図1160	
34	縄文土器　深鉢	3区	SK100	縄文晩期後葉	第233図804	
35	土師器　高坏	3区	SP116	古墳前期	第373図1219	
36	縄文土器　浅鉢	3区	SH260	弥生早期	第292図1086	
37	弥生土器	3区	SH260	弥生早期	第292図1091	
38	縄文土器　深鉢	3区	SH280	縄文晩期後葉	第223図768	
39	土師器　高坏	3区	SK300	古墳前期？	第338図1193	
40	縄文土器　深鉢	3区	SH367	弥生？	第299図1112	
41	縄文土器　深鉢	3区	SH367	弥生？	第299図1111	KTH0041
42	土師器　甕	3区	SK462	不明	第316図1144	
43	土師器　甕	3区	SH503	縄文	第229図793	
44	弥生土器　甕	4区	SK1202	弥生中期	第425図1504	
45	弥生土器　甕	2区	検出	－	第204図672	
46	縄文土器　深鉢	3区	表土	－	第377図1284	KTH0046
47	縄文土器　深鉢	3区	表土	－	第376図1280	
48	縄文土器　深鉢	3区	表土	－	第377図1286	KTH0048
49	土師器　甕	3区	表土	－	第379図1326	
50	縄文土器　深鉢	3区	I-5　検出	－	第380図1282	
51	縄文土器　深鉢	3区	I-5　検出	－	第377図1285	
52	縄文土器　深鉢	3区	I-6　検出	－	第377図1283	KTH0052
53	縄文土器　深鉢	3区	I-6　検出	－	第376図1281	
54	土師器　甕	3区	I-6　検出	－	第379図1324	
55	弥生土器　甕	3区	L-6　検出	－	第377図1287	KTH0055



第447図　上田原東遺跡土器表出圧痕・レプリカSEM画像・潜在圧痕・軟Ｘ線画像・Ｘ線CT断象画像・３D画像



第448図　上田原東遺跡土器表出圧痕・レプリカSEM画像・潜在圧痕・軟Ｘ線画像・Ｘ線CT断象画像・３D画像

第９章　総括

第１節　遺跡の年代的変遷

上田原東遺跡の発掘調査では、大きく①縄文時代後期後葉～晩期後葉、②弥生時代、③古墳時代前期後半、④古墳時代後期後半、⑤古代・中世、の５時期の遺構を確認することができた。このうち⑤については遺構の分布は散漫で、①～④の４時期が遺跡の中心的な時期であるとみてよい。なお、調査前は旧石器時代の遺物包蔵地として周知されていたが、旧石器時代については若干の遺物が出土しているものの、いずれも後世の遺構に混入するような形で、プライマリーな形での出土状況はみられなかった。

①縄文時代の遺構分布

縄文時代の遺構分布状況を第449図に示す。縄文時代の遺構は、１区～４区でそれぞれ確認されているが、特に２区から３区の北半部にかけて、まとまった遺構の分布を示す。４区でも３基の竪穴建物がまとまっており、こうしたエリアが集落の中心的位置にあったとみられる。３区の南半部は縄文時代の遺構がほとんど確認されない空白域となっている。縄文時代後期後葉の規模の大きな集落では、遺構の空白域を挟んで竪穴建物群が検出される事例があり、それとの関連が注意されよう。大分県内ではこれまでまとまった数の竪穴建物で構成される晩期の集落の調査事例がなく、当該期の様相はほぼ不明であったが、上田原東遺跡の事例はこの空白を埋める調査事例となり得よう。しかし、上田原東遺跡の竪穴建物の中心的時期は晩期後葉（上菅生B式）であり、様相がまだ不明な晩期前半を挟んで後期後葉と直接対比できるかどうかは慎重に検討する必要がある。現時点では資料上の限界もあり、こうした点を確認するに止めておきたい。

②弥生時代の遺構分布

弥生時代の遺構分布を第450図に示す。弥生時代の遺構も１～４区でそれぞれ確認されているが、遺構としては１・２区は少なく、３・４区が分布の中心となる。３・４区では大型の円形建物（SH1・SH2・SH10・SH1069等）や、花弁形建物SH1062など、特徴的な遺構が存在する。１区の北半は弥生時代の遺構が全く確認されず、弥生時代の遺跡の広がりとしては１区の南半部までおさまりそうである。

③古墳時代前期の遺構分布

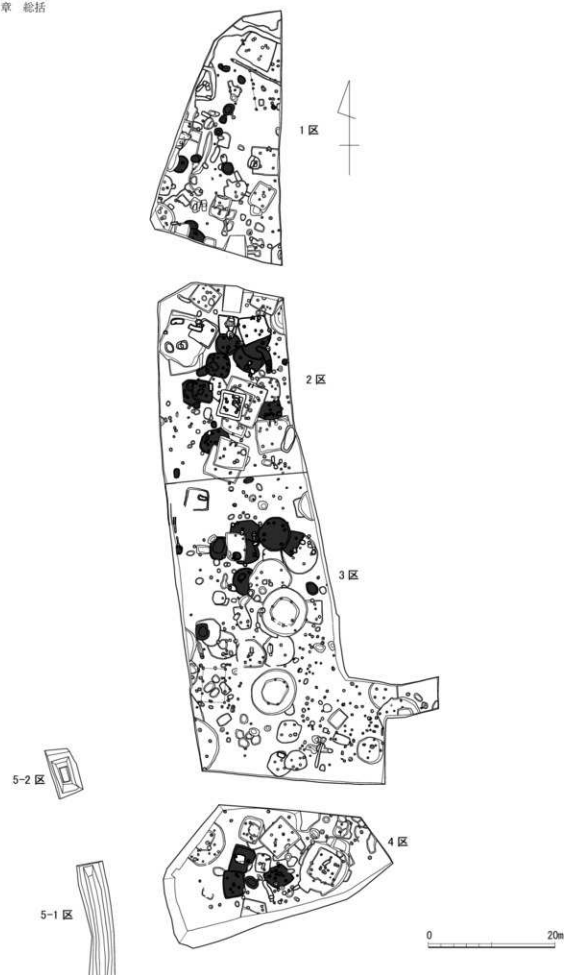
古墳時代前期の遺構分布を第451図に示す。古墳時代の遺構は詳細な時期判定が困難な遺構も多く、竪穴建物を中心に概観する。竪穴建物は１～４区でそれぞれ確認されているが、分布としては１区南半部から２区にかけてまとまった分布を示し、３区・４区では２棟程度の竪穴建物が散発的に分布している。２区では大型の竪穴建物SH896が存在し、このあたりが当該期における集落の中心と考えられる。弥生時代の遺構分布とは対照的な分布状況である。

④古墳時代後期の遺構分布

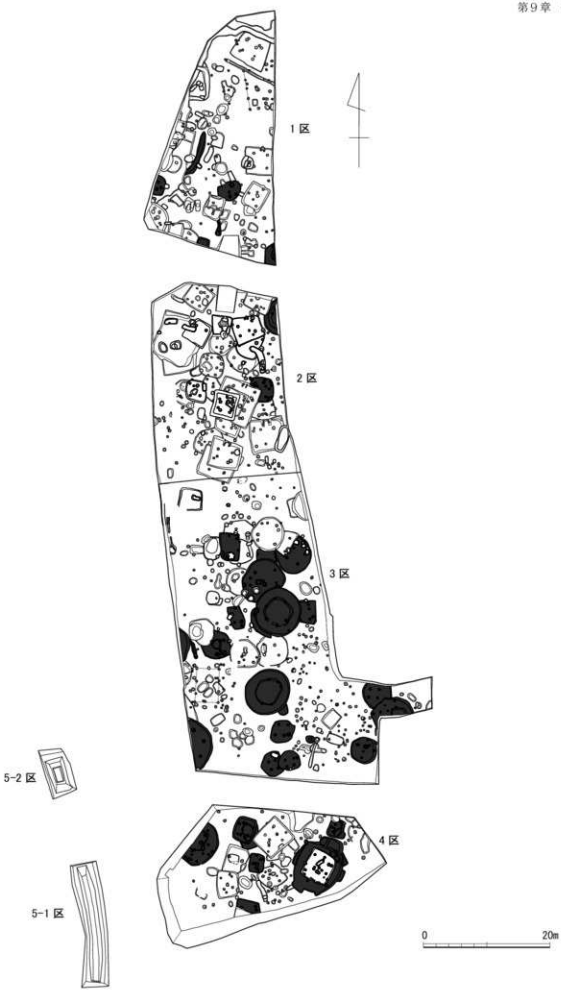
古墳時代後期の遺構分布を第452図に示す。古墳時代後期の竪穴建物は１・２区で確認され、３・４区では全く確認されなかった。竪穴建物以外の土坑等の遺構についても、３区に若干存在するだけで４区では全く確認されていない。従って、集落としては１・２区にほぼ限定されるとみてよい。その中でも２区では竪穴建物の重複が認められるなど、集落の中心は２区にあるとみられる。２区には比較的規模の大きな竪穴建物SH801や、多数の遺物が出土したSH29やSH760等の遺構が存在している。

⑤古代・中世の遺構分布

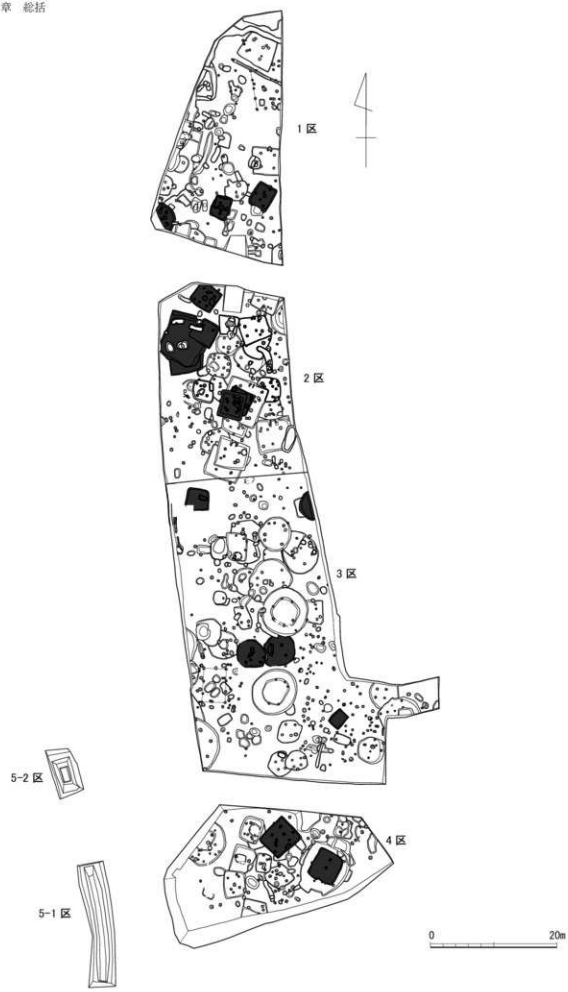
古代・中世の遺構分布を第453図に示す。図では古代と中世の遺構を区別せず一括して表示しているが、そ



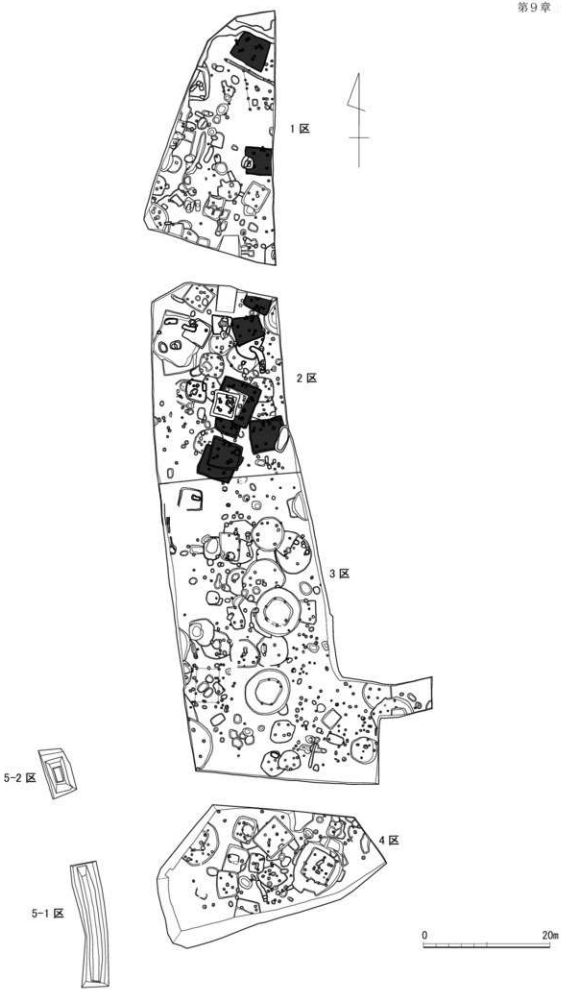
第449図　縄文時代の遺構分布（1/600）



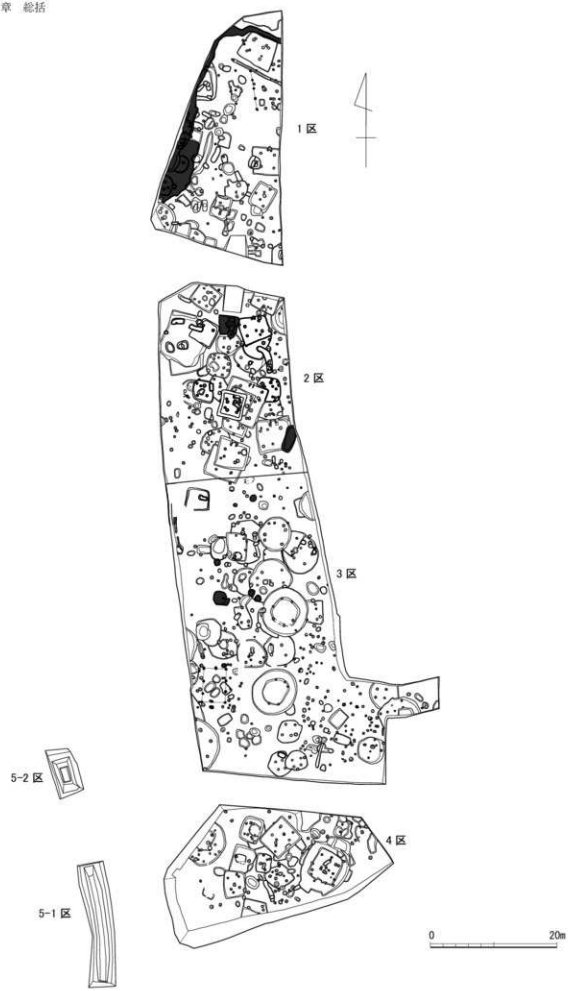
第450図　弥生時代の遺構分布（1/600）



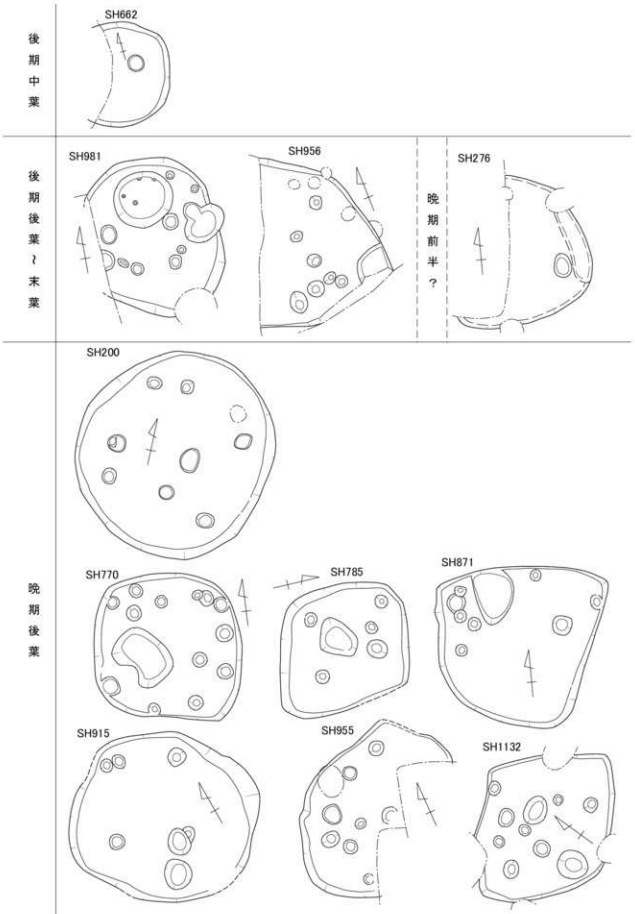
第451図　古墳時代前期の遺構分布（1/600）



第452図　古墳時代後期の遺構分布（1/600）



第453図　古代・中世の遺構分布（1/600）



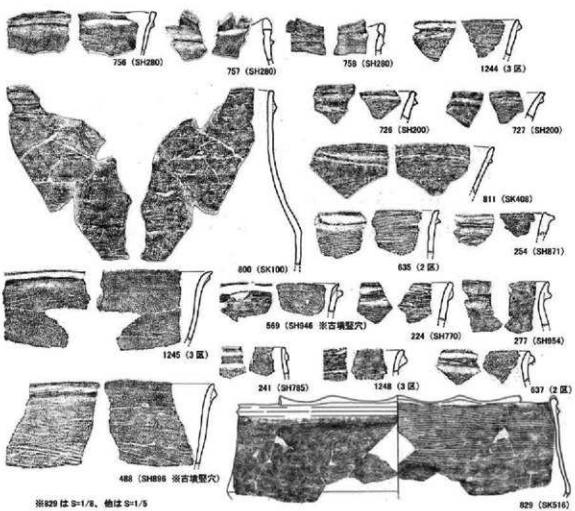
第454図　縄文時代竪穴建物の時期別変遷（1/100）

れでも遺構としては少なく、分布も散漫な状況を示す。古代の遺構としては、１区の竪穴建物SH570、２区のSK940が規模の大きな遺構で、その他は小規模な土坑・ピットがあるに過ぎない。中世の遺構は、掘立柱建物SB1や柵列SA1、その他小規模な土坑・ピットが確認されている。１区の西側では落ち込み状遺構を検出しているが、これは自然地形との関連が考えられるもので、積極的に人為的遺構といえるものではない。また、掘立柱建物や柵列も厳密には時期比定できる遺物がなく、あくまで推定である。しかし、少量ながら遺跡からは中世前半を中心に青磁や白磁といった貿易陶磁器や、在地の土師器小皿・坏類が出土しており、なんらかの生活痕跡があったことは確実である。また、中世後半でも景徳鎮窯の青花や京都系土師器が少ないながら出土している点も注目される。上田原東遺跡とは大辻山を挟んで東には、中世の在地武士である森迫氏の本貫地として森迫氏の居館跡や菩提寺とされる回春庵跡といった遺跡が存在しており、中世にあっては森迫氏との関連が考えられよう。上田原東遺跡の調査地の小字が「辻」であることから、中世にあっても交通の結節点であった可能性は高く、大野川を見下ろす立地と合わせて、三重盆地の北端を押さえる何らかの施設が存在し、それを森迫氏が掌握管理していた可能性もあろう。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

①竪穴建物

縄文時代の遺構としては竪穴建物、貯蔵穴を含む土坑が中心的な遺構である。ここでは竪穴建物を中心に、その特徴を検討する。上田原東遺跡で確認された竪穴建物は全部で18棟あり、そのうち11棟が晩期後葉（上菅生B式）



第455図　上菅生B式の古相を示す可能性のある土器（5/1・1/8）

段階とみられる。他に少ないながら後期後葉～末葉と、晩期前半の可能性があるものが若干ある。

次に、縄文時代の竪穴建物を時期別にみてみる（第454図）。最も古い可能性があるものは後期中葉のSH662である。円形プランを呈するが、炉穴はなく、柱穴等は明確ではない。後期後葉～末葉の竪穴建物は２棟（SH981・SH956）である。SH981は略円形、SH956は楕円形状を呈する。炉穴はなく、主柱穴の配置も明確ではない。晩期前半の可能性がある竪穴建物は１棟（SH276）で、平面形状は隅丸方形気味である。床面の付属施設の状況は明らかではない。晩期後半は７例を示した。SH200は円形状を呈するほかは隅丸方形、歪な方形を呈する。床面の中央ないしはそれに近い位置に土坑が伴うもの（SH200・SH770・SH785・SH1132）、壁際に土坑が伴うもの（SH871）がある。主柱穴は４本のもの（SH785・SH915）、壁沿いにピットが巡るもの（SH770）があるが、その他は不明である。北部九州における縄文時代の竪穴建物を集成した高橋信武の研究によれば、後期末葉に竪穴建物の平面形状が円形から方形に変化するという[8]。上田原東遺跡の竪穴建物についても、若干の例外はあるものの概ね晩期後葉の建物は方形で占められており、この見解と整合的である。

②縄文土器

次に縄文土器について、遺跡の中心的時期である晩期後葉を中心にみてみたい。晩期後葉の土器の中で主体となるのは、無刻目凸帯文土器―大分県では上菅生B式土器として編年されるものである。上菅生B式土器は大分平野では刻目凸帯文土器である下黒野式と混在して出土しており、上菅生B式土器が単純に出土する遺跡は上菅生B遺跡などごく少数しかない。今回の上田原東遺跡の発掘調査では、下黒野式とみられる土器は数点あるだけで、ほぼ上菅生B式の単純期の遺跡とみてよい。したがって、上菅生B式の組成や成立、変遷を考えるうえで重要なポイントとなる遺跡であることが予想される。しかし、当該期の竪穴建物11棟をはじめとした遺構は縄文時代や後世の遺構と切り合っているものが多く、残念ながら良好な一括資料と呼べるものに乏しい。現状では十分に検討できていないが、出土資料から上菅生B式土器の展開を見通したい。

上菅生B式土器は外面口縁下に断面三角形状の無刻目凸帯を巡らせるものが一般的であるが、上田原東遺跡から出土した上菅生B式にはバリエーションが認められる。その中で古相を示す可能性があるものを第455図に示す。特徴としては、口縁部内面に沈線や段がつくもの、段や沈線の痕跡とみられる内面がわずかに凹むものが挙げられる。これは後期

第15表　上田原東遺跡　縄文時代遺構の石器集計

調査区	遺構名	種別	点数
1区	SH662	打製石斧	1
	SK591	打製石斧	2
	SK595	打製石斧	3
		楔形石器？	1
	SK664	打製石斧	1
	SK666	打製石斧	1
	SK691	叩石・磨石	1
2区	SH770	叩石・磨石	1
		打製石斧	3
	SH871	スクレイパー	1
		打製石斧	2
		磨製石斧	1
		横刃型石器	1
		叩石・磨石	1
		石皿	1
	SH915	打製石斧	2
	SH954	叩石・磨石	1
	SH956	横刃型石器	1
		打製石斧	2
	SH981	打製石斧	1
	SK970	叩石・磨石	1
	SK1000	横刃型石器	1
		打製石斧	1
		十字形石器？	1
	SD774	打製石斧	1
3区	SH200	石鏃	1
		打製石斧	2
		磨製石斧	1
		磨刃型石器	1
		石錘	2
		叩石・磨石	2
	SH276	打製石斧	1
	SH280	石鏃	1
		横刃型石器	1
		打製石斧	1
		石錘	2
		叩石・磨石	2
	SH496	石鏃	1
	SH503	砥石	1
		叩石・磨石	1
	SK100	打製石斧	2
	SK408	叩石・磨石	3
		砥石	1
		石錘	1
	SK499	打製石斧	1
4区	SH1100	叩石・磨石	2
	SH1132	打製石斧	1
合計			64

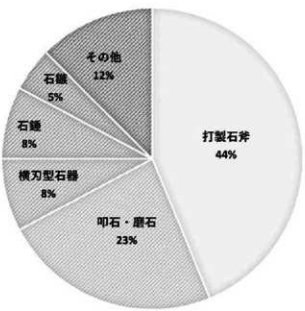
※報告書掲載分を集計、剥片類は除外

8）高橋信武1983「第四節　縄文時代人と生活　二　縄文人の生活（一）住居」「大分県史」先史篇Ⅰ、大分県

後葉～末葉の土器の口縁部内面につく沈線が段になり、それが退化して細沈線が残るものであるが、こうした段や沈線と無刻目凸帯が組み合わさる点は、上菅生B式土器の成立・位置づけを考えるうえでポイントとなる。また、凸帯が口縁に水平に一巡せず、連弧状になるものも特徴的である。晩期前半の波状口縁土器の口縁部に施される沈線が、口縁が平縁化し沈線が凸帯に置換したようにも見ることができる。加えて、凸帯の断面形状にもバリエーションがあり、凸帯が幅広で丸みがあるもの、断面台形状を呈して凸帯が高いもの、凸帯の下端をナデつけて上向きの凸帯となるものなどがある。上菅生B式土器の細分や編年には詳細な分析が必要であるが、ようやく上菅生B式土器単純期のまとまった資料が得られた段階であり、今後の研究の進展を期待したい。

③石器

石器について、主に組成を中心にまとめたい。縄文時代の遺構から出土した石器の組成を第456図に示す。上田原東遺跡の石器組成で特徴的な点として、石鏃の少なさが挙げられる。縄文時代の遺構から出土の石鏃はわずか３点しかなく、その組成は５％に過ぎない。同じく狩猟・解体具である石匙は出土しておらず、スクレイパーを含めてもその数は圧倒的に少ない。生業における狩猟の比重の低さを窺わせる。変わって、粗製の多数を占める石器が打製石斧である。打製石斧は全体の44％を占めており、次いで堅果類等の粉砕・加工具である叩石・磨石類の23％、収穫具である横刃型石器、漁撈具である石錘の各８％と続く。打製石斧はいわゆる扁平打製石器と呼ばれるものがほとんどで、土掘り具、植物栽培に関する農耕具とする見解があり、縄文時代の遺跡が急増する後期以降に多く出土が認められる。以前から縄文農耕論との関わりで注目されてきた石器であるが、近年、土器の表面に残された植物種子や昆虫の圧痕分析により、縄文時代における栽培植物―特にマメ類の存在が明らかになり、その栽培との関連が指摘されている。上田原東遺跡においても１点ではあるが縄文土器からアズキの圧痕が検出されており、上田原東遺跡における生業の一端を示す可能性がある。石器組成からみえる生業としては植物栽培が主で、それを補完する漁撈、狩猟活動ということになろう。



第456図　上田原東遺跡縄文時代遺構の石器組成

第３節　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の竪穴建物は27棟を確認している。建物の平面形状は隅丸方形のものと円形のもの、それに不整形の浅い掘り込みで浅い４本柱穴を持つものが３区で一定数みられた。１区では不整形の竪穴SH687から下黒野式とみられる刻目凸帯文土器が出土しており、弥生時代早期の竪穴建物である可能性が高い。また、３区のSH260は隅丸長方形の竪穴で、口縁部と胴部に２条の刻目凸帯を施す土器が出土しており、前期の竪穴建物の可能性がある。先に述べた整形の浅い掘り込みで浅い４本柱穴を持つ竪穴建物は、３区のSH5・SH6・SH7・SH32が該当する。また、土師器の出土から古墳時代前期の遺構と判断したが、SH25も形態的には酷似している。このタイプの竪穴建物からは下城式甕が出土しており、中期の竪穴建物の可能性がある。円形の竪穴建物は直径７～８ｍで大型で深さも60～70㎝ほどある。SH2やSH10、SH1069など、内部は中心部が楕円形に一段深く掘り下がった二段掘りとなるものである。出土土器から後期初頭頃に比定され、この頃が遺跡としてはピークに達するとみられる。また、４区で検出した花弁形建物SH1062はこの円形建物の周囲に張出部がついたような形状を呈する。

さて、後期初頭頃にピークに達した弥生時代の集落であるが、この直後に遺構の形成はみられなくなり、後期

中葉～末の遺物もみられないことから、遺跡は一旦廃絶したとみられる。おそらくは集団が他所へ移転したものとみられるが、注目されるのは上田原東遺跡の南西約１㎞の中位段丘面にある陣箱遺跡である。陣箱遺跡では中期後半に出現する遺跡で、後期後半から古墳時代初頭にかけて大規模な集落を形成する。さらに同時期の遺構が展開する周辺の折立遺跡や百枝（小学校）遺跡も含めると20ha程の遺跡の広がりが予想されており[9]、段丘面全体が集落となるような県内でも最大級ともいえる巨大な集落が突如として出現している。こうした状況はおそらく周辺の集団をひとつに統合するような何らかの政治的な動きが背景にあったとも考えられ、上田原東遺跡の集団もそれに組み込まれた可能性が高い。

第４節　古墳時代の遺構について

①古墳時代前期の竪穴建物について

古墳時代の竪穴建物は全部で25棟あり、内訳としては前期後半が16棟、後期後半が９棟である。古墳時代の竪穴建物はすべて方形で、主柱穴は前期は２本のものが多く、後期は４本が基本となる。前期の竪穴建物の特徴として、他の時期の竪穴建物に比べ深い点が挙げられる。他時期の竪穴建物が標準土層の第Ⅵ層（縄文時代早期に相当する、黒褐色の硬く締まった層）を床面とするのに対し、古墳時代前期の竪穴建物はそれを掘り抜いて、黄褐色ローム層を床面とするものが多い。大野川上流域では弥生時代後期の竪穴が他地域のものに比べ深いことが指摘されている[10]が、壱岐尾可奈子は同地域を対象に竪穴建物の深さについてまとめており、それによると弥生時代後期から終末期にかけて深さがピークに達するという。そしてそれは弥生時代後期後半～終末期にかけておこった寒冷化現象への対応であると結論付けている[11]。古墳時代前期にあっては地域によって差はあるものの、前期後半に至っても一定の深さを保っている例もあり、上田原東遺跡での古墳時代前期後半の竪穴建物が深くなる点も、寒冷化への適応であったとみることができよう。

さて、古墳時代前期の竪穴建物は出土土器から概ね４世紀後半に位置付けられるものであった。注目されるのはこの年代で、上田原東遺跡の南約500ｍの位置には、全長約65ｍの前方後円墳である立野古墳が所在している。この立野古墳は

第457図　竈廃絶時の祭祀模式図

9）諸岡　郁2018『陣箱遺跡（第３次調査区）』豊後大野市埋蔵文化財発掘調査報告書第３集、豊後大野市教育委員会
10）小柳和宏1988『豊後における弥生時代住居』『おおいた考古』第１集、大分県考古学会
11）壱岐尾可奈子2007「大野川上流域における弥生時代後期竪穴住居跡について」『砂丘形成と寒冷化現象　平成17年度～18年度科学研究費補助金研究成果報告書『考古資料に基づく「寒冷化現象」把握のための基礎的研究』　萌芽研究　課題番号17652074』（研究代表者　甲元眞之）

４世紀後半の築造とされることから、上田原東遺跡とは同時期ということになる。立野古墳と同時期の集落跡を初めて確認することができた点で大きな成果である。立野古墳については、これまで大野川との関係で語られてきたが、立野古墳自体は大野川からは奥まった上位段丘面の最奥に位置しており、古墳から大野川を眺望することはできない。一方、上田原東遺跡は大野川を見下ろす台地上にある。こうした点から、上田原東遺跡は大野川を見下ろし三重盆地の北端を押さえる集団の中核となる集落であり、立野古墳はその集団の奥津城とみる方が理解しやすい。立野古墳がつくられた後、古墳時代中期には集落は一旦途絶する。おそらくは他所への移転であろうが、その理由は明らかではない。

②古墳時代後期の竪穴建物について

古墳時代後期の竪穴建物では、６基で竈の付設がみられた。竈はSH535が西側に、古代のSH570が東側に付く他はすべて北壁中央に付設していた。SH535やSH730は竈の残存状態は良くなかったが、その他は概ね良好で、竈を廃棄した際の祭祀の状況がよく残されている竈もあった。全体として竈の残りは良く、廃棄に際して基本的に袖部も崩されてはいなかった。古代の竪穴建物SH570も含め、ここでは竈の廃棄時の状況をまとめておきたい。竈廃棄時の行為としては、以下のように分類されよう。

・燃焼部に土師器甑や甕を埋置し竈を埋めたもの…SH536
・竈の周囲に土師器甕や甑、鉢等を置いたもの…SH760、SH801
・天井石を床に下ろしたうえで燃焼部に土器を埋置し竈を埋めたもの…SH570、SH760
・竈を埋めたうえで安山岩の板石を置いて封じたもの…SH570、SH750

これをもとに、竈の残りが最も良いSH760を例に、竈廃棄時の状況を整理したい（第457図）。SH570やSH760では方柱状の凝灰岩が竈の前面に置かれていた。これは袖部の上に渡して天井部を構成していた石材とみられ、まずこの天井材を下ろしたものとみられる。そして、上部が空いて燃焼部が広く露出した状態で、ここに完形の土師器甕や甑を据えて、祭祀行為を行ったものとみられる。また、SH760やSH801のように竈の周囲にも完形やそれに近い土器個体が出土していることから、竈周囲にもいくらか土器を置いた可能性もある。祭祀後に、竈の袖部を崩すことなく、竈全体を土で覆って埋めている。SH570やSH750のように、この上に巨大な安山岩の板石を置いて封じたものもあった。

第５節　遺跡の評価

上田原東遺跡の発掘調査は、上記のように大きな成果を挙げることができたが、遺跡としては①縄文時代後期後葉～晩期後葉、②弥生時代、③古墳時代前期後半、④古墳時代後期後半、の４時期が中心的な位置を占める。発掘調査の要点を以下に列記し、まとめとしたい。

①上田原東遺跡は豊後大野市三重町の北端部、大辻山山塊から西側へ張り出す台地上に立地する。大野川の蛇行部を見下ろし、三重盆地の北端を扼する要衝に位置する。

②縄文時代の遺構は後期中葉～晩期後葉に属するが、中心となるのは晩期後葉（上菅生B式段階）である。当該期の竪穴建物11棟とまとまった集落の調査例は県内でも類例がなく、初の事例となった。

③縄文時代晩期後葉の上菅生Bはこれまで単純遺跡に恵まれなかったが、上田原東遺跡では刻目凸帯文土器（下黒野式）を含まない、上菅生B式の単純期の様相を示す。晩期後葉の土器研究のうえでも重要な資料となるとみられる。

④縄文時代の石器組成では打製石斧（扁平打製石器）がその半数を占める。扁平打製石器は植物栽培との関連が指摘されており、また１点ではあるがアズキの圧痕のある土器が出土しており、上田原東遺跡の生業を窺うことができる。

⑤弥生時代は竪穴建物27棟を確認している。遺跡の中心となるのは中期～後期初頭で、後期初頭にピークを迎える。竪穴建物には大型の円形建物や花弁形建物も含まれる。後期初頭にピークに達した弥生集落は、その後突

如として姿を消している。

⑥古墳時代前期は16棟の竪穴建物を検出している。竪穴建物の時期は４世紀後半で、遺跡の南約500mに位置する前方後円墳である立野古墳とほぼ同時期の集落を初めて確認することができた。古墳時代前期における上田原東遺跡の集落は大野川を押さえる集団の拠点的な集落で、立野古墳はその奥津城という関係で理解できる。

⑦古墳時代前期の竪穴建物は他の時期のものに比べて深いという特徴がある。こうした現象は大野川上流域において弥生時代後期～古墳時代初頭頃に認められ、寒冷化現象への適応の結果として理解される。上田原東遺跡の当該期竪穴建物の深さもその延長にあるものと考えられる。

⑧古墳時代後期は竪穴建物９棟を検出している。うち６棟で竈が付設されており、竈廃絶時の祭祀状態や竈封じの状況を良好に残す事例がみられた。

⑨古代・中世は散漫ながら遺構・遺物の出土が認められる。古代は竪穴建物１棟を検出している。中世の遺構は掘立柱建物や柵列、土坑等があり、また遺物では少量ながら青磁や白磁、青花といった中国産陶磁器や、京都系土師器が出土している。これら遺物は大辻山東麓を本貫地とする中世武士の森迫氏との関連が想定される。

⑩上田原東遺跡の発掘調査では、これまで周辺の調査では様相が分かっていなかった時期―特に縄文時代後期中葉～晩期後葉、古墳時代前期後葉といった時期の成果を挙げることができた。しかし、本報告だけでは十分とはいえず、今後の地域研究の進展により、地域の歴史の解明に繋がることが期待される。

遺物観察表

第16表　上田原東遺跡（４区）　遺物観察表（土器・陶磁器）

掲図番号	遺構	器種			口径（現存幅）	器高（現存高）	底部径	文様・調整 外面	文様・調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃	胎土 長石	胎土 石英	胎土 その他	備考
第396図	1400 SH100	縄文土器	深鉢			3.6+α		ミガキ	ミガキ	茶褐色	淡赤褐色	多	少	少		
	1401 SH100	縄文土器	深鉢			2.3+α		波線木葉文	ナデ	茶褐色	茶褐色	多	多	多		
	1402 SH100	縄文土器	浅鉢			3.1+α		ヨコナデ・貼付突帯・条痕	ヨコナデ・条痕	黒灰色	淡茶褐色	多	多	多		
第398図	1405 SH132	縄文土器	深鉢			5.7+α		ミガキ・貼付突帯・条痕	ナデ・ミガキ	黒灰色	茶灰色	多	多	多		
	1406 SH132	縄文土器	浅鉢			2.1+α		ヨコナデ・ナデ・貼付突帯	条痕	灰褐色	黒灰色	少	少	少		
第400図	1408 SH146	縄文土器	深鉢			4.7+α		条痕・貼付突帯	条痕	黒灰色	黒灰色	多	多	多		
	1409 SH146	縄文土器	深鉢			7.0+α		ナデ・貼付突帯・条痕	ナデ	淡赤褐色	茶褐色	多	少	多	多	
第402図	1410 SK1120	縄文土器	浅鉢			2.5+α		ミガキ	ミガキ・沈線	褐色	褐色	少	少	少		
第405図	1411 SH1062-1	縄文土器	深鉢			5.3+α		ヨコナデ・貼付突帯・条痕	ヨコナデ・ナデ	淡赤褐色	淡褐色	多	少	少	多	
	1412 SH1062	縄文土器	深鉢			3.6+α		ヨコナデ・条痕	条痕	黒褐色	黒褐色	少	多	多	多	
	1413 SH1062	弥生土器	壺			2.2+α		ヨコナデ・ナデ・櫛描状文・浮文	ナデ・ヨコナデ	褐褐色	褐褐色	少	少	少	多	
	1414 SH1062-2	弥生土器	壺		(15.4)	9.1+α		ヨコナデ・タテハケ・ナナメ方向のハケ・貼付突帯・浮文・櫛描状文	ヨコナデ・ヨコハケ	灰白色	灰白色	少	少	少	少	
	1415 SH1062	弥生土器	甕			2.5+α		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	褐褐色	褐褐色	多	少			
	1416 SH1062	弥生土器	甕			5.4+α		ヨコナデ・条痕	ヨコナデ・ナデ	黒褐色	明褐色	多	多	多	多	内外面スス付着
	1417 SH1062 SH1062-6	弥生土器	甕			16.3		ヨコナデ・貼付突帯	ヨコナデ・ハケ後ナデ	淡灰褐色	淡灰褐色	多	多	少	多	
	1418 SH1062	弥生土器	壺			7.3+α	4.6	タテハケ・ヨコナデ・ナデ	ヘラケズリ・指圧痕	淡赤褐色～黒褐色	淡赤褐色～黒褐色	多	多	多	多	赤彩、内外面底部黒斑
	1419 SH1062-5	弥生土器	甕			5.9+α	(5.2)	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	淡褐褐色	茶褐色	多	多	多	少	
	1420 SH1062	ミニチュア土器			2.8	2.5	2.6	ナデ	ナデ	淡赤褐色	淡褐色	少	少	少	多	
第409図	1443 SH1066	縄文土器	深鉢			4.1+α		ナデ・条痕文	ナデ・条痕文	茶褐色	茶褐色	多	多	多	多	
	1444 SH1066	縄文土器	深鉢			6.0+α		条痕文	条痕文	茶褐色	茶褐色	多	多	多		
第411図	1445 SH1067	弥生土器	甕			5.4+α		ヨコナデ・タテハケメ・刻目突帯	ハケメ・ナデ・指圧痕	にぶい褐色	にぶい褐色		少	少		
	1446 SH1067	弥生土器	甕			5.0+α		ヨコナデ・刻目突帯・ハケメ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	少	少			
	1447 SH1067	弥生土器	甕			3.0+α		ヨコナデ・三角突帯	ナデ・指圧痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		少			
	1448 SH1067	弥生土器	甕			2.7+α		ヨコナデ	ヨコナデ	褐褐色	褐褐色	少	多			
	1449 SH1067	弥生土器	甕			4.5+α		ナデ・ヨコナデ	ナデ	褐褐色	にぶい橙色	少	多			
	1450 SH1067	弥生土器	壺			10.5+α		ナデ・三角突帯	ナデ	褐褐色	にぶい褐色	少	多			
	1451 SH1067	弥生土器	壺			3.5+α		ナデ・沈線	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄色		少			
	1452 SH1067	弥生土器	甕			6.0		ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黒褐色	少	少			
	1453 SH1067	弥生土器	甕			5.0+α		ナデ	工具ナデ	褐褐色	褐褐色	少	少			
第415図	1476 SH1068A	弥生土器	甕			2.2+α		ヨコナデ	摩滅	暗褐褐色	暗褐褐色	多	多		多	
	1477 SH1068A	弥生土器	壺			2.5+α		ヨコナデ	ナデ	黒褐色	黄褐色		多		多	
	1478 SH1068B	弥生土器	甕			1.4+α		タテハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	茶褐色	茶褐色		多	多	多	
	1479 SH1068B	弥生土器	壺			3.1+α		ヨコナデ・ナデ後ミガキ	ナデ	褐褐色	褐褐色		多		少	
第417図	1482 SH1069	弥生土器	甕			4.0+α		タテハケ後ヨコナデ・刻目	ヨコナデ	黒褐色	黒褐色		多	少		
	1483 SH1069	弥生土器	甕			8.6+α	4.6	タテハケ・ナナメハケ後ヨコナデ	ナデ・工具ナデ	暗黄褐色～橙色	褐褐色	少	多	多	多	
	1484 SH1069	弥生土器	壺			1.3+α		ヨコハケ	ヘラミガキ	赤褐色	赤褐色		多	多	少	外面赤彩
	1485 SH1069	弥生土器	壺			2.9+α		ナデ後沈線	指圧痕・ナデ	淡褐色	淡褐色		少	少	少	
第425図	1504 SK1202上部集中	弥生土器	甕		(24.8)	10.6+α		タテハケメ・ヨコハケメ・刻目三角突帯	ヨコハケメ・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少	少			内外面スス付着、外面に種子圧痕
	1505 SK1202上部集中	弥生土器	甕			14.1+α		タテハケメ・ヨコナデ・刻目三角突帯	ナデ	にぶい黄褐色	褐褐色	少	少			外面スス付着
	1506 SK1202上部集中	弥生土器	壺		(16.2)	5.2+α		タテハケ・ヨコナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヨコナデ・ヘラミガキ	橙褐色	黄褐色	少	少	少	少	口縁部に指頭文
	1507 SK1202上部集中 4区検出	弥生土器	壺		(15.2)	10.0+α		ナデ後ヘラミガキ	指圧痕・ナデ後ヘラミガキ	黄褐色	黄褐色		多	多	多	
	1508 SK1202上部集中	弥生土器	壺			4.0+α		ナナメハケ・沈線後ヘラミガキ	指圧痕・ナデ・ヘラミガキ	褐褐色	暗黄褐色			少	少	下城式土器
	1509 SK1202上部集中	弥生土器	壺			5.1+α		ナデ後沈線・ヘラミガキ	指圧痕・ハケナデ・ヘラミガキ	暗褐色	暗褐色				少	下城式土器
	1510 SK1202上部集中	弥生土器	壺			7.2+α		ヨコハケ・沈線後ヘラミガキ	ハケナデ後ヘラミガキ	黄褐色～橙色	黄橙褐色		少		少	下城式土器
	1511 SK1202上部集中	弥生土器	壺			8.5+α		タテ・ナナメハケ・沈線後ヘラミガキ	ハケナデ後ヘラミガキ	黄褐色～淡橙褐色	暗黄褐色		少	少	少	下城式土器
	1512 SK1202上部集中	弥生土器	壺			14.1+α		タテハケ・ナナメハケ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	暗褐褐色	黒褐色		少		多	下城式土器
第427図	1513 SH1061	弥生土器	甕			7.6+α		ナデ・ヨコナデ・刻目三角突帯	ナデ	灰褐色	にぶい黄橙色	少	少			下城式土器
	1514 SH1061 4区検出	弥生土器	甕			7.0+α	(7.0)	タテハケメ・ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい褐色	少	少		少	底部に葉脈圧痕
	1515 SH1061	弥生土器	壺			4.1+α		ナデ・三角突帯文・楕円形浮文・ナナメ方向のハケ	ナデ・指押さえ	橙色	灰色	少	少			

掲図番号		遺構	器種		口径（残存幅）	器高（残存高）	底部径	文様・調整 外面	文様・調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 長石	胎土 石英	胎土 その他	備考
第427図	1516	SH1061	弥生土器	壺		8.2+α		ナデ・三角突帯・ナナメ方向のハケ・浮文	ナデ・指押え	灰褐色	灰褐色	少	少		少	
	1517	SH1061	弥生土器	壺	(18.0)	4.1+α		ナデ・沿文・逆「ハ」字文か・ナナメ方向のハケ	ナデ・ナナメ方向のハケ	褐色	浅黄橙色	少	少		少	
	1518	SH1061	弥生土器	壺		2.0		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色				少	浮文、口縁部に文様
	1519	SH1061	弥生土器	壺		2.4+α		ナデ・沿文「ハ」の字文様・ナナメ方向のハケ	ナデ	黄橙色	黄橙色	少	少		少	
	1520	SH1061	弥生土器	鉢		6.1+α		ナデ・タテナナメ方向のハケ・ヨコ方向のハケ	ナデ	淡黄色	にぶい橙色	少	少		少	穿孔
	1521	SH1061	弥生土器	鉢		6.0+α		ヨコナデ・タテハケメ	ナデ・指圧痕	にぶい橙色	にぶい黄褐色	少	少			
	1522	1-1061c 4区検出	弥生土器	高坏		8.7+α	(13.5)	ナデ・ナナメ方向のハケ・ヨコナデ	ナデ・ナナメ方向のハケ	にぶい橙色	にぶい橙色	少	少		少	
	1523	SH1061 4区検出	土師器	壺	(9.1)	7.5+α		ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	淡黄色	褐色	多	少		少	外面黒斑
	1524	SH1061	土師器	壺	(15.2)	5.6+α		ヨコナデ・ヨコナデ後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色	にぶい褐色	少				
	1525	SH1061	土師器	甕	(19.2)	7.5+α		ヨコナデ・ハケメ	粗いナデ・ナデ・指圧痕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少			少	内外面スス付着
	1526	SH1061	土師器	甕	(15.6)	11.4+α		ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙色	少	少			外面スス付着
	1527	SH1061	土師器	甕		7.1+α		ヨコナデ・ナナメ方向のハケ	ヨコナデ・ナナメ方向のハケ・ナデ・指圧痕	淡黄橙色	淡黄色	少	少			
	1528	SH1061	土師器	甕		4.7+α		ヨコナデ・ハケメ	ハケ後ナデ・ナデ・指圧痕	明赤褐色	明赤褐色	少	少			
第428図	1529	SH1061	土師器	壺	(10.0)	12.9+α		ヨコナデ・ナデ・ナナメ方向のハケ	ヨコナデ・ミガキ・ナデ	黄橙色	褐色	少	少		少	内外面黒斑あり
	1530	SH1061	土師器	甕	(10.7)	5.5+α		ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ	橙色・黄橙色	にぶい橙色	少	少			外面黒斑あり
	1531	SH1061	土師器	甕	17.4	17.4+α		ナデ・ナナメ方向のハケ	ナデ	褐色・橙色	橙色	少	少			外面黒斑あり
	1532	SH1061	土師器	壺	13.4	9.8+α		ハケメ後ナデ・ヨコナデ・ナデ	ナデ	橙色	橙色	少	少			外面スス付着か
	1533	SH1061	土師器	壺		8.6+α		ナデ	ナデ	橙色	橙色	少	少		少	
	1534	SH1061	土師器	壺		7.0+α		ナナメ方向のハケ	工具ナデ・指圧痕	淡黄色	橙色	少	少		少	内外面黒斑あり
	1535	SH1061	土師器	壺		7.5+α		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・工具ナデ	黒褐色	黒褐色	少	少			
	1536	SH1061 SH1062	土師器	壺		6.3+α		ナデ	ナデ・ヘラケズリ・指圧痕	淡橙褐色	淡橙褐色	少	多	少	多	
	1537	SH1061 4区表土	土師器	高坏	20.8	14.7	(13.1)	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	黄橙色	にぶい橙色	少	少		多	円盤充填
	1538	SH1061	土師器	高坏	(17.0)	12.5		ヨコナデ・丁寧なナデ	ナデ・ヨコナデ・しぼり痕	にぶい赤褐色	にぶい褐色	少	多			
	1539	SH1061	土師器	高坏	(20.0)	6.1+α		ヨコナデ・ナナメ方向のハケ	ヨコ方向のハケ・ナデ	淡黄色	褐色	多	少			円盤充填
	1540	SH1061	土師器	高坏	(20.3)	6.1+α		ヨコナデ・ナナメ方向のハケ	ヨコナデ・ナデ	橙色	橙色	少	少		多	
	1541	SH1061	土師器	高坏	2.0	5.1+α		ヨコナデ・ナデ・ナナメ方向のハケ	ヨコナデ・ナデ	橙色	橙色	少	少			円盤充填
	1542	SH1061	土師器	高坏	24.0	5.1+α		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	橙色・淡黄色	橙色	多	多			外面黒斑
	1543	SH1061	土師器	高坏		5.3+α	9.8	丁寧なナデ・ミガキ・ヨコナデ	丁寧なナデ・ヨコナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少	少		多	
	1544	SH1061	土師器	高坏		8.9+α	(14.8)	ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	褐色・橙色	褐色～橙色	少	少		少	外面黒斑
	1545	SH1061	土師器	高坏		9.15+α	11.8	ハケメ・ナデ・ヨコナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ヨコナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少	少			内外面黒斑
第433図	1571	SI1065	弥生土器	甕		5.7+α		刻目突帯・ヨコナデ・ナデ	ナデ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	多	
	1572	S-1065c	弥生土器	甕		5.0+α		ヨコナデ・ナデ・刻目突帯	ナデ	淡茶褐色	淡褐色	多	少	多	少	
	1573	S-1065b	弥生土器	甕		7.0+α		ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・工具でのナデ	淡橙褐色	淡褐色	少	少	少	少	
	1574	S-1065	弥生土器	壺		3.0+α		ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ	淡褐色	淡褐色	少	少	少	少	
	1575	S-1065	弥生土器	壺		3.8+α		ヨコナデ・ナデ・刻目突帯	ナデ	茶褐色	茶褐色	少	少	少	少	
	1576	S-1065	土師器	鉢	7.3	4.9		ナデ・ヨコナデ	ナデ・ヨコナデ	暗黄褐色～黒褐色	暗黄褐色～黒褐色		多		少	
	1577	S-1065	土師器	甕	(12.6)	13.5		ケズリ後タタハケ・ヨコナデ・ヨコハケ	指圧痕・ヘラケズリ・ナデ・ヨコナデ	褐褐色	暗褐色	多	少	多	多	外面スス付着
	1578	S-1065	土師器	甕		11.1+α		タテハケ・ナナメハケ後ミガキ	指圧痕・ナデ	淡黄褐色～灰黄色	淡黄褐色		少	少	少	外面黒斑あり
	1579	S-1065	土師器	甕	(16.4)	18.7+α		工具ナデ（ナナメハケ残る）・ヨコナデ	工具ナデ・ヨコナデ	暗褐褐色	暗褐色	多	多		少	外面スス付着
	1580	S-1065	土師器	甕		18.3+α		タテハケ・ヨコナデ	指圧痕・ヘラケズリ・ナナメハケ・ヨコナデ	暗褐色	暗褐色	少	少	多	多	外面スス付着
	1581	S-1065	土師器	甕	15.1	30.2		タタキ・タテハケ後ナデ・ヨコナデ・ミガキ	指圧痕・ヨコハケ後ヨコナデ・ナデ	黄褐色～橙褐色	黄褐色～橙褐色	少	少	多	多	外面スス付着
	1582	S-1065	土師器	壺	10.0	14.0+α		ヨコナデ・ナデ後ミガキ	ハケナデ	橙色	橙色	少		多		
第434図	1583	SH1065 SH1065土柱穴1	土師器	壺		12.9		ナデ・貼付突帯・ヨコハケ	ナデ・ハケ後ケズリ	淡灰褐色	淡褐色	多	少	多	多	
第438図	1596	SP1070	土師器	皿	(8.4)	1.5	(7.0)	ヨコナデ・糸切痕	ヨコナデ・ナデ	淡赤褐色	淡赤褐色	多	多	多	多	
第440図	1597	SP1094	縄文土器	深鉢		8.8+α		条痕	条痕	茶褐色	茶褐色	多	多	多	多	
第441図	1599	4区検出	縄文土器	浅鉢		3.9+α		ミガキ	ミガキ	淡褐色	暗褐色	少	少	少		
	1600	検出時	縄文土器	浅鉢		4.1+α		ミガキ	ミガキ	暗褐色	暗褐色	少	少	少		
	1601	0-5検出時	縄文土器	浅鉢		4.2+α		ミガキ	ミガキ	暗褐色	暗褐色	少	少	少		
	1602	検出時	弥生土器	甕		10.4+α		ヨコナデ・刻目突帯・ハケ	ナデ	淡褐色	淡褐色	少	多	多	多	
	1603	表土	弥生土器	壺		4.7+α		ナデ・刻目突帯	ミガキ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	少	少			
	1606	表土	白磁	碗	(17.0)	2.7+α		施釉	施釉	灰白色	灰白色				少	

第17表　上田原東遺跡（４区）遺物観察表（石器）

掲図番号		区域	遺構	種類	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考
第396図	1403	4区	SH100	敲石	砂岩	6.5	4.5+α	3.4+α	133.4	
	1404	4区	SH100	磨石	安山岩	6.1	4.4	2.8	109.1	
第398図	1407	4区	SH132	打製石斧	安山岩	9.9+α	6.9	2.2	213.7	
第405図	1425	4区	SH132	敲石・磨石	砂岩	6.5	6.9	3.5	224.7	
	1426	4区	SH062	敲石・磨石	砂岩	9.7+α	9.0	6.8	800.0	
第406図	1427	4区	SH062	磨製石鏃	粘板岩	2.0+α	1.1	0.15	0.4	
	1428	4区	SH062	磨製石鏃	粘板岩	2.7+α	1.2	0.25	0.9	
	1429	4区	SH062	磨製石鏃	粘板岩	2.4	2.3	0.2	2.2	未成品
	1430	4区	SH062-7	磨製石鏃	粘板岩	3.0	1.4	0.4	1.0	未成品
	1431	4区	SH062	磨製石鏃	粘板岩	3.8	1.7	0.6	2.7	未成品
	1432	4区	SH062	楔形石器	頁岩	2.6	4.0	1.1	10.2	
	1433	4区	SH062-1	スクレイパー	粘板岩	4.5	7.2	0.9	20.2	
	1434	4区	SH062	石核	粘板岩	9.8	8.1	2.2	116.5	
	1435	4区	SH062	石核	安山岩	18.2	5.1	2.0	240.8	
第407図	1436	4区	SH062	石剣	粘板岩	16.6	14.7	1.0	80.2	
	1437	4区	SH062	磨石	流紋岩	13.4	3.6	2.8	213.0	
	1438	4区	SH062	磨石	流紋岩	10.6	3.5	2.5	160.1	
	1439	4区	SH062ピット	�abc石	輝石	4.0	2.1	1.0	6.1	平円形
	1440	4区	SH062	凹石	凝灰岩か	5.2	2.9	2.0	28.6	平円形
	1441	4区	SH062	凹石	砂岩	13.6+α	7.2+α	6.9	7100.0	
	1442	4区	SH062-1	台石	安山岩	15.8	19.4	9.9	4270.0	
第411図	1455	4区	SH067	石鏃	姫島産黒曜石	1.8	1.7	0.25	0.5	
	1456	4区	SH067	石鏃	金山産サヌカイト	2.7	1.7	0.4	1.9	
	1457	4区	SH067	磨製石鏃	結晶片岩	2.5+α	1.9	0.2	1.6	
	1458	4区	SH067土坑	磨製石鏃	粘板岩	2.7+α	1.3	0.4	2.0	未成品
	1459	4区	SH067	磨製石鏃	粘板岩	3.7	1.95	0.55	4.7	未成品
	1460	4区	SH067土坑	磨製石鏃	粘板岩	2.6	1.7	0.4	1.0	未成品
	1461	4区	SH067土坑	磨製石鏃	粘板岩	2.9+α	1.7+α	0.4	1.4	未成品
	1462	4区	SH067	磨製石鏃	粘板岩	4.8+α	3.1	2.0	5.9	未成品
	1463	4区	SH067土坑	磨製石鏃	粘板岩	2.8+α	1.9	0.6	3.4	未成品
第412図	1464	4区	SH067	打製石斧	安山岩	10.15+α	6.5	1.45	174.3	
	1465	4区	SH067	打製石斧	砂岩	3.5+α	4.9	0.9	23.3	
	1466	4区	SH067	剥片	粘板岩	4.15	4.4	0.5	8.7	裏面一部ミガキ
	1467	4区	SH067	打欠石錘	安山岩	5.5+α	4.5	3.0	105.9	縄掛部を敲打整形
	1468	4区	SH067	敲石	凝灰岩質砂岩	6.0+α	8.5	2.9	206.5	
	1469	4区	SH067	敲石・磨石	砂岩	9.9	8.4	5.0	610.0	
	1470	4区	SH067	敲石・磨石	砂岩	6.2	4.7	2.3	99.3	
	1471	4区	SH067	敲石・磨石	砂岩	9.9+α	8.5+α	7.3	780.0	
第413図	1472	4区	SH067	敲石・磨石	安山岩	11.2	11.2	6.0	1110.0	被熱あり
	1473	4区	SH067	磨石・敲石	砂岩	5.3+α	7.7+α	2.55	132.5	
	1474	4区	SH067	磨石	砂岩	4.0+α	6.8	3.25	132.5	
	1475	4区	SH067	台石	砂岩	22.8	28.3	9.4	8000.0	
第415図	1480	4区	SH068	台石	安山岩	18.7+α	23.0	9.7	6950.0	被熱あり
第417図	1493	4区	SH069	磨石・敲石	安山岩	6.0+α	6.6	2.05	117.7	
	1494	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	4.4+α	2.7	0.7	7.1	未成品
	1495	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	4.5+α	2.9	0.4	4.4	未成品
	1496	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	4.4	2.6	0.7	6.0	未成品
	1497	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	4.3	3.2	0.6	7.7	未成品
第418図	1498	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	4.1	2.8	0.6	5.5	未成品
	1499	4区	SH069	磨製石鏃	粘板岩	5.4+α	2.8	0.5	3.8	未成品
	1500	4区	SH069	二次加工剥片	安山岩	6.3	8.9	1.4	89.5	正面被熱あり
	1501	4区	SH069	打製石斧	安山岩	9.4	5.3	2.0	92.9	表裏面一部擦痕
第421図	1502	4区	SK1117	スクレイパーか	金山産サヌカイト	5.3	5.9+α	1.4	58.3	
第423図	1503	4区	SK1192	磨製石鏃	粘板岩	3.1	2.0	0.3	2.0	
第429図	1548	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	2.2+α	1.1+α	0.4	1.0	
	1549	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	5.6	2.0	0.6	8.1	未成品
	1550	4区	SH061	磨製石鏃	結晶片岩	5.0+α	1.4	0.3	3.9	未成品
	1551	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	2.4	1.7	0.4	1.1	未成品
	1552	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	2.7+α	1.6	0.5	1.8	未成品
	1553	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	3.5	2.4	0.9	6.4	未成品
	1554	4区	SH061	磨製石鏃	粘板岩	6.7	1.3	0.4	7.5	未成品
	1555	4区	SH061	石核	粘板岩	7.1	8.0	1.8	88.2	
	1556	4区	SH061	礫器	安山岩	14.2+α	5.6+α	4.0+α	400.0	被熱により赤変
第430図	1557	4区	SH061	磨製石斧	泥岩か	8.0+α	5.1+α	1.6	47.9	破片
	1558	4区	SH061	石ノミ	蛇紋岩か	6.3	3.3	1.0	29.2	
	1559	4区	SH061	敲石・磨石	凝灰質砂岩	7.6+α	11.6	5.2+α	510.0	
	1560	4区	SH061	凹石	砂岩	10.1+α	10.8+α	2.3	339.8	敲石に転用か
	1561	4区	SH061	凹石	砂岩	12.4	10.6+α	5.5+α	820.0	
	1562	4区	SH061	凹石	砂岩	12.9+α	6.6+α	9.0	600.0	
	1563	4区	SH061	凹石	砂岩	11.6	8.5	6.3	840.0	
	1564	4区	SH061	凹石	砂岩	14.9+α	17.1+α	6.7+α	2090	
第431図	1565	4区	SH061	凹石	砂岩	5.5+α	7.2+α	4.2+α	217.2	
	1566	4区	SH061	凹石	砂岩	7.3+α	5.9+α	4.2+α	177.2	
	1567	4区	SH061	凹石	砂岩	4.4+α	7.15+α	2.7	82.0	
	1568	4区	SH061	台石	安山岩	14.9+α	24.3+α	7.4	3000.0	被熱あり
	1569	4区	SH061	台石	安山岩	21.3	23.5	8.4	4860.0	正面被熱あり
	1570	4区	SH061	台石	砂岩	17.0	23.6	10.0	5500.0	

掲図番号		区域	道構	種類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第434図	1589	4区	S-1065	磨石・敲石	安山岩	10.85	11.1	7.5	1240.0	被熱あり
	1590	4区	S-1065	敲石	安山岩	8.4	8.2	2.7	278.6	
	1591	4区	S-1065	敲石	砂岩	19.3+α	7.4	6.5	1020.0	ノミ痕あり
第435図	1592	4区	S-1065	敲石	砂岩	12.9+α	14.7+α	7.4	1040.0	
	1593	4区	S-1065	台石	砂岩	21.05	16.25	9.3	3390.0	
	1594	4区	S-1065	打製石斧	安山岩	13.05	4.5	2.0	187.4	
	1595	4区	S-1065c	二次加工剥片	安山岩	5.7	4.5	1.45	44.6	
第440図	1598	4区	SP1190	磨製石鏃	粘板岩	3.2+α	1.9	0.5	3.3	未成品
第441図	1607	4区	表土	敲石	砂岩	9.9	9.7	5.1	708.0	
第442図	1608	4区	検出	石鏃	姫島産黒曜石	1.6	1.4	0.3	0.6	
	1609	4区	検出	石鏃	姫島産黒曜石	3.1	1.9	0.4	1.5	
	1610	4区	検出	磨製石鏃	粘板岩	3.5+α	2.4	3.0	2.6	未成品
	1611	4区	0-5 検出	磨製石鏃	粘板岩	2.85+α	1.65	0.3	2.1	
	1612	4区	検出	磨製石鏃	結晶片岩	3.05+α	1.7	0.25	3.1	
	1613	4区	検出	磨製石斧	千枚岩か	8.9+α	5.6	1.0	66.0	表裏面一部ミガキ

第18表　上田原東遺跡（４区）　遺物観察表（土製品）

掲図番号		区域	道構	種類	素材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第405図	1421	4区	SH1062	平円形状土製品	土器	2.8	1.9	0.8	6.0	
	1422	4区	SH1062	平円形状土製品	土器	3.9	2.3	0.9	10.9	
	1423	4区	SH1062	平円形状土製品	土器	6.2	3.7	0.85	19.5	甕の転用
	1424	4区	SH1062-1	平円形状土製品	土器	4.8	3.4	0.85	16.8	甕の転用
第411図	1454	4区	SH1067	平円形状土製品	土器	13.5	2.7	0.85	8.6	弥生土器の転用
第417図	1486	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	5.4	3.2	0.7	15.2	甕の転用
	1487	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	5.0	3.7	1.1	24.6	弥生甕の転用
	1488	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	4.0	2.4	0.8	9.0	甕の転用
	1489	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	4.6	2.8	1.2	15.9	弥生土器壺の転用
	1490	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	4.8	3.2	1.15	13.4	甕の転用
	1491	4区	SH1069	平円形状土製品	土器	3.9	2.4	0.55	6.7	甕の転用
	1492	4区	SH1069	土製円盤	土	3.45	3.0	6.5	77	円盤か
第428図	1546	4区	SH1061	平円形状土製品	土器	3.9	3.1	0.95	9.7	高杯脚部の転用か
	1547	4区	SH1061	平円形状土製品	土器	4.9	3.4	0.95	18.7	甕か壺の転用か
第434図	1584	4区	SH1065	平円形状土製品	土器	4.1	2.4	0.95	10.9	弥生土器壺の転用
	1585	4区	SH1065	平円形状土製品	土器	3.4	2.3	1.0	7.9	弥生土器の転用
	1586	4区	SH1065	平円形状土製品	土器	3.8	2.85	0.65	6.9	土師器小型丸底壺の転用
	1587	4区	SH1065	平円形状土製品	土器	4.8	3.4	0.55	10.6	土師器の転用
	1588	4区	SH1065	平円形状土製品	土器	4.4	3.0	0.7	9.7	土師器高杯の転用
第441図	1604	4区	0-6検出	平円形状土製品	土器	3.3	2.5	1.2	9.0	弥生下城式甕の転用
	1605	4区	検出	平円形状土製品	土器	3.7	3.3	0.8	12.6	

第19表　上田原東遺跡（４区）　遺物観察表（金属製品）

掲図番号		区域	道構	種類	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第415図	1481	4区	SH1068B	板状鉄製品	鉄	3.3+α	3.3+α	0.5	7.2	

第20表　上田原東遺跡（５区）　遺物観察表（陶磁器）

掲図番号		区域	道構	器種	口径（残存幅）	器高（残存高）	底部径（最大径）	文様・調整 外面	文様・調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 角閃石	胎土 長石	胎土 石英	胎土 その他	備考
第446図	1614	5-1区	表土	磁器	碗 (7.4)	4.5+α		施釉	施釉	明黄褐色	灰白色				少	

遺構一覧表

第21表　上田原東遺跡遺構一覧表

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0001	SH1	竪穴建物	3区	M4・M5・N5	縄文土器、弥生土器、土師、磨製石鏃、打製石斧、剥片、磨石・叩石	弥生後期初頭		
S-0002	SH2	竪穴建物	3区	L5・L6・M5・M6	縄文土器、弥生土器、平円形土製品、土製玉類、打製石鏃、磨製石鏃、スクレイパー、磨製石斧、打製石斧、石核、石錘、叩石、磨石、砥石、石皿、鉄刀子	弥生後期初頭	SK106→SH2	
S-0003	SH3	竪穴建物	3区	M7	弥生土器、白磁、青磁、磨製石鏃、横刃型石器、砥石、石皿	弥生後期初頭		縄文早期層を床面とする
S-0004	SK4	土坑	3区	M6・M7	縄文土器、土師器、磨製石鏃、磨製石斧、叩石・磨石	古墳前期		竪穴の可能性あるがやや柱穴等床面遺構なし
S-0005	SH5	竪穴建物	3区	L7・L8・M7	縄文土器、土師器、土器片	弥生中期か	SH315→SH5	
S-0006	SH6	竪穴建物	3区	M6・N6	弥生土器、土師器、磨製石鏃未成品	弥生中期か	SH7→SH6	
S-0007	SH7	竪穴建物	3区	M6・N6	縄文土器、土師器	弥生中期か	SH7→SH6	
S-0008	—	欠番	—		縄文土器、弥生土器、土師器			
S-0009	—	欠番	—		縄文土器、弥生土器			
S-0010	SH10	竪穴建物	3区	K5・K6	縄文土器、弥生土器、平円形土製品、磨製石鏃、削器、RF、打製石斧、砥石、石錘、流紋岩原石、勾玉、鉄製品	弥生後期初頭		
S-0011	SK11	土坑	3区	K5	須恵器、土器片、横刃型石器	古墳後期以降	SK443・SP395→SK11	
S-0012	SH12	竪穴建物	3区	K4・L4	縄文土器、弥生土器、土師器、平円形土製品	弥生？		円形建物
S-0013	SB1(SP13)	掘立柱建物	3区	L4・L5		中世か		
S-0014	SB1(SP14)	掘立柱建物	3区	L5	土器片	中世か		
S-0015	SB1(SP15)	掘立柱建物	3区	L5	土器片	中世か		
S-0016	SB1(SP16)	掘立柱建物	3区	L5		中世か		
S-0017	SB1(SP17)	掘立柱建物	3区	L5	土器片	中世か	SK412→SP17	
S-0018	SB1(SP18)	掘立柱建物	3区	L5	土器片	中世か		
S-0019	SB1(SP19)	掘立柱建物	3区	L5		中世か	SK80→SP19	
S-0020	—	欠番	—					
S-0021	SB1(SP21)	掘立柱建物	3区	L4	土器片	中世か		
S-0022	SK22	土坑	3区	L4・L5・M4・M5				
S-0023	SB1(SP23)	掘立柱建物	3区	L4・L5		中世か		
S-0024	SB1(SP24)	掘立柱建物	3区	L4・L5	弥生土器	中世か		
S-0025	SH25	竪穴建物	3区	K6・L6	縄文土器、土師器、土器片	古墳前期		形態は弥生か？
S-0026	SK26	土坑	3区	M5	土師器、土器片	古墳		全体に掘り過ぎ
S-0027	SK27	土坑	3区	K4・K5・L4・L5	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧	中世か	SK27→SP285	
S-0028	SH28	竪穴建物	3区	J5・J6・K5・K6	縄文土器、弥生土器、土師器、白磁、土錘	弥生		SH10と接合関係あり
S-0029	SH29	竪穴建物	2・3区	H5・I5	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、紡錘車、打製石斧、石錘、石皿、軽石、鉄製品	古墳後期	SH29→SH760	SK812出土打製石斧と接合関係あり
S-0030	SH30	竪穴建物	3区	K5・L5	縄文土器、弥生土器、土師器、砥石、石皿	古墳前期	SH30→SP371	
S-0031	—	欠番			縄文土器、弥生土器、土師器			
S-0032	SH32	竪穴建物	3区	M6	縄文土器、弥生土器、土師器、土器片	弥生中期か		
S-0033	SK33	土坑	3区	M6	弥生土器、土器片			
S-0034	SX34	焼土	3区	M6	縄文土器、弥生土器、土器片			
S-0035	SK35	土坑	3区	M6				
S-0036	SK36	土坑	3区	M6	縄文土器、土器片			
S-0037	SP37	ピット	3区	M6・N6				
S-0038	SK38	土坑	3区	M6・N6				
S-0039	SP39	ピット	3区	M7			SK3→SP39	
S-0040	—	欠番						
S-0041	SP41	ピット	3区	M7	土師器			
S-0042	SP42	ピット	3区	M7	土器片、砥石			
S-0043	SP43	ピット	3区	M7				
S-0044	SP44	ピット	3区	M7	土器片			
S-0045	SP45	ピット	3区	M7				
S-0046	SP46	ピット	3区	M7				
S-0047	SP47	ピット	3区	M7		SK50→SP47		
S-0048	SP48	ピット	3区	M7				
S-0049	—	欠番						
S-0050	SK50	土坑	3区	M7		SP301→SK50→SP47		
S-0051	SP51	ピット	3区	M7				
S-0052	SP52	ピット	3区	M7				
S-0053	SP53	ピット	3区	M7	土師器			
S-0054	SK54	土坑	3区	M6	弥生土器、土器片		SK55→SK54	
S-0055	SK55	土坑	3区	M6	縄文土器、弥生土器、磨石・叩石	弥生？	SK55→SK54	
S-0056	SK56	土坑	3区	M7				ピット2基の重複か
S-0057	SP57	ピット	3区	M6				
S-0058	SP58	ピット	3区	M6				
S-0059	SP59	ピット	3区	M6				
S-0060	—	欠番						

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0061	SP61	ピット	31区	M6				
S-0062	SP62	ピット	31区	M6				
S-0063	SK63	土坑	31区	M6				
S-0064	SP64	ピット	31区	M6				
S-0065	SP65	ピット	31区	M6	縄文土器、土器片			
S-0066	—	欠番						
S-0067	SP67	ピット	31区	M6			SH32→SP67	
S-0068	SP68	ピット	31区	M6				
S-0069	SK69	土坑	31区	L6				
S-0070	SK70	土坑	31区	L6・L7・M6・M7				
S-0071	SP71	ピット	31区	L7	土器片			
S-0072	—	欠番						
S-0073	SP73	ピット	31区	L6				
S-0074	—	欠番						
S-0075	SK75	土坑	31区	L8・M8				
S-0076	SP76	ピット	31区	M8				
S-0077	SP77	ピット	31区	M6				
S-0078	SP78	ピット	31区	M6				
S-0079	SP79	ピット	31区	M6				
S-0080	SP80	ピット	31区	L5	土器片		SP80→SP19	
S-0081	SK81	土坑	31区	M5	土師器、東播系須恵器	中世		
S-0082	SK82	土坑	31区	L4・M4・M5	弥生土器		SK82→SH1	
S-0083	SP83	ピット	31区	M4			SK82→SP83	
S-0084	SK84	土坑	31区	M5	弥生土器、土器片		SK86→SK84→SP85	
S-0085	SP85	ピット	31区	M5			SK84→SP85	
S-0086	SK86	土坑	31区	M5	縄文土器、土器片		SK86→SK84	
S-0087	SK87	土坑	31区	M5	縄文土器、土師器	古墳	SK89→SK88→SK87	
S-0088	SK88	土坑	31区	M5	縄文土器、土器片		SK89→SK88→SK87	
S-0089	SK89	土坑	31区	M5	土器片		SK89→SK88→SK87	
S-0090	SK90	土坑	31区	M5	土器片			
S-0091	SP91	ピット	31区	M5				
S-0092	SP92	ピット	31区	M5	土器片			
S-0093	SP93	ピット	31区	M5				
S-0094	SK094	土坑	31区	M5				
S-0095	—	欠番			弥生土器			
S-0096	—	欠番						
S-0097	—	欠番						
S-0098	SK98	土坑	31区	M5				
S-0099	—	欠番						
S-0100	SK100	土坑	31区	K4・K5・L5	縄文土器、石製石斧	縄文		西和田式、下茶野式?
S-0101	SP101	ピット	31区	M5				
S-0102	—	欠番						
S-0103	SP103	ピット	31区	M6				
S-0104	SP104	ピット	31区	M6				
S-0105	SK105	土坑	31区	M5・M6				
S-0106	SK106	土坑	31区	L6・M6	弥生土器	弥生中期	SK106→SH2	
S-0107	—	—						
S-0108	—	欠番						
S-0109	SP109	ピット	31区	L5				
S-0110	SK110	土坑	31区	L4	縄文土器、土器片	弥生以前	SK110→SH12	
S-0111	SP111	ピット	31区	L4			SK110→SH12・SP111	
S-0112	SP112	ピット	31区	L4	縄文土器			
S-0113	SP113	ピット	31区	L4				
S-0114	—	欠番			土師器			
S-0115	SP115	ピット	31区	L4	縄文土器、土器片			
S-0116	SP116	ピット	31区	L4	土師器			
S-0117	SP117	ピット	31区	L4				
S-0118	SP118	ピット	31区	L4	叩石			
S-0119	SP119	ピット	31区	L5				
S-0120	—	欠番						
S-0121	—	欠番						
S-0122		SH367床面遺構	31区					
S-0123		SH367床面遺構	31区					
S-0124		SH367床面遺構	31区					
S-0125		SH367床面遺構	31区					
S-0126		SH367床面遺構	31区					
S-0127	—	欠番						
S-0128	—	欠番						
S-0129	—	欠番						
S-0130	—	欠番						

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0131	－	欠番						
S-0132	－	欠番						
S-0133	－	欠番						
S-0134	－	欠番						
S-0135	－	欠番						
S-0136	－	欠番						
S-0137	－	欠番						
S-0138	－	欠番						
S-0139	－	欠番						
S-0140	－	欠番						
S-0141	－	欠番						
S-0142	－	欠番						
S-0143	－	欠番						
S-0144	－	欠番						
S-0145	－	欠番						
S-0146	－	欠番						
S-0147	－	欠番						
S-0148		SH238床面遺構	3区					
S-0149		SH238床面遺構	3区					
S-0150		SH238床面遺構	3区					
S-0151		SH238床面遺構	3区					
S-0152		SH238床面遺構	3区					
S-0153	－	欠番						
S-0154	－	欠番						
S-0155	－	欠番						
S-0156	－	欠番						
S-0157	－	欠番						
S-0158	－	欠番						
S-0159	－	欠番						
S-0160	－	欠番						
S-0161	－	欠番						
S-0162	－	欠番						
S-0163	－	欠番						
S-0164	－	欠番						
S-0165	－	欠番						
S-0166	－	欠番						
S-0167	－	欠番						
S-0168	－	欠番						
S-0169	－	欠番						
S-0170	－	欠番						
S-0171	－	欠番						
S-0172	－	欠番						
S-0173	－	欠番						
S-0174	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0175	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0176	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0177	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0178	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0179	－	欠番						
S-0180	－	欠番						
S-0181	－	欠番						
S-0182	－	欠番						
S-0183	－	欠番						
S-0184	－	欠番						
S-0185	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0186	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0187	SH2	SH2柱穴	3区					
S-0188	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0189	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0190	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0191	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0192	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0193	SH10	SH10柱穴	3区					
S-0194		SH496床面遺構	3区					
S-0195		SH496床面遺構	3区					
S-0196	－	欠番						
S-0197	－	欠番						
S-0198	－	欠番						
S-0199	－	欠番						
S-0200	SH200	竪穴建物	3区	J5	縄文土器、弥生土器、土師器	縄文か	SH496・SH503→SH200→SH423	

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0201	SP201	ピット	3区	L4・L5	土器片		SD427→SP426→SP201	
S-0202	SK202	土坑	3区	L5	土師器、陶器（常滑）	中世		
S-0203	SP203	ピット	3区	L5	縄文土器、弥生土器	弥生以降	SH430→SP203	
S-0204	SP204	ピット	3区	J4				
S-0205	SK205	土坑	3区	L5				
S-0206	—	欠番						
S-0207	SP207	ピット	3区	M7				
S-0208	SP208	ピット	3区	L6				
S-0209	SP209	ピット	3区	L6				
S-0210	SK210	土坑	3区	L6	縄文土器、弥生土器、土師器、板状鉄製品	古墳		
S-0211	SP211	ピット	3区	L6				
S-0212	SP212	ピット	3区	L6				
S-0213	SP213	ピット	3区	L6	土器片			
S-0214	SP214	ピット	3区	L6	土師器			
S-0215	SK215	土坑	3区	L6	土師器			内部西壁際にピット3基
S-0216	SP216	ピット	3区	L6	土師器、土器片	中世		土師器皿
S-0217	SP217	ピット	3区	L6				
S-0218	SP218	ピット	3区	L6	縄文土器			
S-0219	SP219	ピット	3区	L6	縄文土器			
S-0220	SK220	土坑	3区	L7	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳以降		
S-0221	SP221	ピット	3区	L6				
S-0222	SP222	ピット	3区	L6				
S-0223	SP223	ピット	3区	L6				
S-0224	SP224	ピット	3区	K6・L6	土師器、土器片			
S-0225	SK225	土坑	3区	J5	土器片		SH276→SK225	
S-0226	SP226	ピット	3区	K6	土器片			
S-0227	SP227	ピット	3区	K6				
S-0228	SP228	ピット	3区	K6	土器片、叩石			
S-0229	SK229	土坑	3区	K6				
S-0230	SK230	土坑	3区	K6	弥生土器			
S-0231	SP231	ピット	3区	J6			SH423→SP232→SP231	
S-0232	SP232	ピット	3区	J6	土器片		SH423→SP232→SP231	
S-0233	SK233	土坑	3区	J6	土器片		SH496→SH423→SK233	
S-0234	SP234	ピット	3区	J6				
S-0235	—	欠番	3区					
S-0236	SP236	ピット	3区	J6	土師器、土器片	古代	SH200→SP236	古代土師器坏
S-0237	SP237	ピット	3区	I6				
S-0238	—	欠番						
S-0239	SK239	土坑	3区	I6・J6	縄文土器、土器片	古墳前期以前	SK239→SH240	
S-0240	SH240	竪穴建物	3区	I6・J6	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳前期		黄色ローム層を床面とする竪穴
S-0241	SP241	ピット	3区	I6	土師器			
S-0242	SK242	土坑	3区	I6				
S-0243	SP243	ピット	3区	I6	土師器	中世		土師器皿
S-0244	SP244	ピット	3区	I5	土師器、土器片			
S-0245	SK245	土坑	3区	I5・J6	縄文土器、弥生土器?、土師器、打製石斧、石錘	古墳		
S-0246	SK246	土坑	3区	I5	土師器、白磁、土器片	中世		
S-0247	—	欠番						
S-0248	SP248	ピット	3区	I6				
S-0249	—	欠番						
S-0250	SX250	デポ?	3区	I5	縄文土器、土師器	縄文		
S-0251	—	欠番			弥生土器、土器片			
S-0252	SP252	ピット	3区	J5	土器片			
S-0253	SP253	ピット	3区	J5	土師器?		SH503→SP254→SP253	
S-0254	SP254	ピット	3区	J5	土器片		SH503→SP254→SP253	
S-0255	SP255	ピット	3区	J5			SH503→SP255	
S-0256	SK256	土坑	3区	J5	縄文土器、土器片		SH276→SK499→SK256	
S-0257	SP257	ピット	3区	J5	縄文土器、土師器	中世か	SH503→SP257	糸切底土師器
S-0258	SX258	攪乱	3区	J4				
S-0259	—	欠番						
S-0260	SH260	竪穴建物?	3区	I5	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧、横刃型石器、磨石・叩石	弥生前期か	SH276・SH280・SH503→SH260	S280と接合（浅鉢）
S-0261	SP261	ピット	3区	K5				
S-0262	SP262	ピット	3区	K4				
S-0263	SP263	ピット	3区	K5	弥生土器			
S-0264	SP264	ピット	3区	K5				
S-0265	SK265	土坑	3区	K5	縄文土器			
S-0266	SP266	ピット	3区	K5	弥生土器		SK443→SP266	
S-0267	SK267	土坑	3区	K5	土師器	古墳か	SH268→SK267	

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0268	SH268	竪穴建物か	31区	K5・K6	打製石斧、横刃型石器	弥生	SH268→SH10・SK267・SK269	石器のデポあり
S-0269	SK269	土坑	31区	K5	縄文土器、土師器、土器片	古墳か	SH268→SH10→SK269	
S-0270	SK270	土坑	31区	J4・J5・K4・K5	土器片			
S-0271	SP271	ピット	31区	J4	土器片			
S-0272	SK272	土坑	31区	J4				
S-0273	SP273	ピット	31区	J5	土師器、土器片			
S-0274	SP274	ピット	31区	J5			SK287→SP274	
S-0275	SK275	土坑	31区	J5	弥生土器、土師器、土器片	古代	SH280→SK275	古代の土師器
S-0276	SH276	竪穴建物?	31区	J5	縄文土器	縄文	SH276→SK498・SK499→SK256	
S-0277	SP277	ピット	31区	K5	縄文土器		SH530→SK28→SP277	
S-0278	SP278	ピット	31区	I5				
S-0279	SX279	攪乱	31区	J4	土器片			
S-0280	SH280	竪穴建物	31区	J5	縄文土器、土師器	縄文		縄文主体
S-0281	SP281	ピット	31区	M7			SH3→SP299→SP281	
S-0282	SP282	ピット	31区	I5	土師器			
S-0283	－	欠番						
S-0284	SX284	攪乱	31区	J4				
S-0285	SP285	ピット	31区	K5	土師器、土器片	中世	SK27→SP285	糸切底土師器皿
S-0286	SX286	攪乱	31区	K4・L4			SH12→SX286	
S-0287	SK287	土坑	31区	J5			SK287→SP274	
S-0288	SP288	ピット	31区	K5	土器片			
S-0289	－	欠番						
S-0290	－	欠番			縄文土器、土器片			
S-0291	SP291	ピット	31区	L5				
S-0292	－	欠番						
S-0293	－	欠番						
S-0294	SP294	ピット	31区	M7			SH3→SP294	
S-0295	SP295	ピット	31区	M7			SH3→SP295	
S-0296	SP296	ピット	31区	M7	土器片		SH3→SP296	
S-0297	SP297	ピット	31区	M7			SH3→SP297	
S-0298	SP298	ピット	31区	M7			SH3→SP298	
S-0299	SP299	ピット	31区	M7			SH3→SP299→SP281	
S-0300	SK300	竪穴状遺構	31区	I4・I5	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧、磨石・凹石、石皿	古墳?		
S-0301	SP301	ピット	31区	M7			SP301→SK50	
S-0302		SH5柱穴	31区					
S-0303		SH5柱穴	31区					
S-0304		SH5柱穴	31区					
S-0305		SH5柱穴	31区					
S-0306	SP306	ピット	31区	K5				
S-0307	SP307	ピット	31区	J6	土師器	古代か	SH423→SP307	SP327と土器接合
S-0308	SK308	土坑	31区	J6			SH423→SK308	
S-0309	SP309	ピット	31区	L7	縄文土器、土師器			
S-0310	－	欠番			縄文土器、土師器	縄文		縄文主体
S-0311	SP311	ピット	31区	L7	縄文土器、土師器			
S-0312	SK312	土坑	31区	L6	打製石斧、横刃型石器	弥生?		デポあり
S-0313		SH315床面遺構	31区		土師器			
S-0314	SK314	土坑	31区	M8	土師器	古墳以降	SH315→SK314	
S-0315	SH315	竪穴建物	31区	L7・L8・M7・M8	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦器、磨製石鏃未成品、鉄斧	弥生中期	SH315→SK314	
S-0316	SP316	ピット	31区	M7	土器片			
S-0317	SP317	ピット	31区	M7				
S-0318	SP318	ピット	31区	M7				
S-0319	SP319	ピット	31区	M7	土器片			
S-0320	SK320	土坑	31区	M7				
S-0321	SP321	ピット	31区	M7	土師器、土器片	中世		糸切底土師器皿
S-0322	SP322	ピット	31区	M7	土器片			
S-0323	SP323	ピット	31区	M7	土師器	中世	SP324→SP323	糸切底土師器皿
S-0324	SP324	ピット	31区	M7			SP324→SP323	
S-0325	SP325	ピット	31区	M7				
S-0326	SP326	ピット	31区	M7	土師器			
S-0327	SP327	ピット	31区	M7	土師器	古代～中世		S-307と土器接合
S-0328	SP328	ピット	31区	M7	土器片			
S-0329	SP329	ピット	31区	M7				
S-0330	SP330	ピット	31区	M7	土師器	中世		糸切底土師器坏
S-0331	SP331	ピット	31区	L7				
S-0332	SP332	ピット	31区	L7				
S-0333	SP333	ピット	31区	L7	土器片			
S-0334	SP334	ピット	31区	L7				
S-0335	SP335	ピット	31区	L7・N7				

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0336	SP336	ピット	3区	M7	土器片	弥生以降		
S-0337	SP337	ピット	3区	M6				
S-0338	SP338	ピット	3区	M6				
S-0339	SP339	ピット	3区	M6				
S-0340	SP340	ピット	3区	M6				
S-0341	SP340	ピット	3区	M6	縄文土器?			
S-0342	SP342	ピット	3区	L6				
S-0343	SP343	ピット	3区	L6				
S-0344	SP344	ピット	3区	K6				
S-0345	SK345	土坑	3区	L6			SP394→SK	
S-0346	SP346	ピット	3区	K6			S367→SP346	
S-0347	–	欠番						
S-0348		SH32柱穴	3区					
S-0349		SH32柱穴	3区					
S-0350	–	欠番						
S-0351		SH32柱穴	3区					
S-0352		SH32柱穴	3区					
S-0353	–	欠番						
S-0354		SH6柱穴	3区					
S-0355		SH6柱穴	3区					
S-0356		SH6柱穴	3区					
S-0357		SH6柱穴	3区					
S-0358		SH7柱穴	3区					
S-0359		SH7柱穴	3区					
S-0360		SH7柱穴	3区					
S-0361		SH7柱穴	3区					
S-0362	SK362	土坑	3区	K6	縄文土器、打製石斧、磨石・叩石	縄文?		
S-0363	SH1	SH1柱穴	3区					SH1の主柱穴
S-0364	SH1	SH1柱穴	3区					SH1の主柱穴
S-0365	SH1	SH1柱穴	3区					SH1の主柱穴
S-0366	SX366	攪乱	3区					
S-0367	SH367	竪穴建物	3区	K6	縄文土器、弥生土器、土師器、磨製石斧	弥生	SH367→SH10	
S-0368	–	欠番						
S-0369		SH10床面遺構	3区		土器片			
S-0370	SK370	土坑	3区	L6	土器片			
S-0371	SP371	ピット	3区	L5		古墳前期以前	SP371→SH30	
S-0372		SH30床面遺構	3区					
S-0373	–	欠番						
S-0374	–	欠番						
S-0375	–	欠番						
S-0376		SH30床面遺構	3区					SH30の床面遺構
S-0377		SH30床面遺構	3区					
S-0378		SH30床面遺構	3区					SH30の床面遺構
S-0379	SP379	ピット	3区	K5・L5			SH430→SP379	
S-0380	–	欠番						
S-0381	–	欠番						
S-0382	–	欠番						
S-0383	–	欠番						
S-0384	–	欠番						
S-0385	–	欠番						
S-0386	–	欠番						
S-0387	SP387	ピット	3区	L5				
S-0388	SP388	ピット	3区	L5				
S-0389	–	欠番						
S-0390	–	欠番						
S-0391	–	欠番						
S-0392		SH30主柱穴	3区					SH30の主柱穴
S-0393		SH30土坑（炉跡）	3区					SH30の炉跡
S-0394	SP394	ピット	3区	L6			SP394→SK345	SK345の床面で検出
S-0395	SP395	ピット	3区	K5			SP395→SK11	SK11の床面で検出
S-0396		SH30床面遺構	3区		土器片			
S-0397	SP397	ピット	3区	J5			SH503→SP397	
S-0398	SK398	土坑	3区	I5・J5	土師器			
S-0399	SP399	ピット	3区	I5	土師器			
S-0400	SK400	土坑	3区	I5・J5	弥生土器			
S-0401	SP401	ピット	3区	I5・J5	土師器			
S-0402	SP402	ピット	3区	I5・J5				
S-0403	SP403	ピット	3区	I5	土師器	中世		糸切底土師器坏
S-0404	–	欠番						
S-0405	–	欠番						

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0406	SP406	ピット	3区	J4				
S-0407	—	欠番			縄文土器、弥生土器			
S-0408	SK408	土坑	3区	J4	縄文土器	縄文	SK408→SX279	貯蔵穴
S-0409	SK409	土坑	3区	L5				
S-0410	SK410	土坑	3区	L5	縄文土器、土師器			
S-0411	SK411	土坑	3区	L5	土師器?			
S-0412	SK412	土坑	3区	L5	土師器	古墳前期	SP483→SK412→SP17	
S-0413	SK413	土坑	3区	L5	弥生土器、土師器	古墳前期		
S-0414	SP414	ピット	3区	L5				
S-0415	SP415	ピット	3区	L4	土器片、打製石斧			
S-0416	SP416	ピット	3区	K5	土器片			
S-0417	SP417	ピット	3区	K5	土器片	弥生以降	SK443→SP417	
S-0418	SX418	焼土	3区	J4				
S-0419	—	欠番				古墳前期		SH30と同一
S-0420	—	欠番						欠番
S-0421	SK421	土坑	3区	K6	縄文土器			
S-0422	SP422	ピット	3区	J6	縄文土器			
S-0423	SH423	竪穴建物	3区	J6	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧、石錘、石皿	弥生	SH496→SH423→SK233・SK308・SP231・SP232・SP307	
S-0424		SH260床面遺構	3区		土器片			
S-0425		SH30主柱穴	3区					SH30の主柱、2基の重複か
S-0426	SP426	ピット	3区	L4・L5			SP426→SP201	
S-0427	SD427	溝	3区	K4・L4・L5	縄文土器	弥生か	SD427→SH12・SP201	
S-0428	SK428	土坑	3区	K5	縄文土器、土師器	中世	SH28→SK428	系列底の土師器坏
S-0429	SK429	土坑	3区	K5・K6	縄文土器?、弥生土器、土師器、打製石斧	古墳?	SH28→SK429	
S-0430	SH430	竪穴建物	3区	K5・L5	縄文土器、弥生土器、土師器	弥生か	(SK100→) SH430→SH30	
S-0431	SK431	土坑	3区	K5	縄文土器、白磁、土器片	中世	SH530→SH28→SK497→SK431	
S-0432		SH260床面遺構	3区					
S-0433		SH260床面遺構	3区					
S-0434		SH260床面遺構	3区					
S-0435		SH260床面遺構	3区					
S-0436		SH260床面遺構	3区					
S-0437	SP437	ピット	3区	J5			SH503→SP437→SH260	
S-0438		SH260床面遺構	3区					
S-0439	SP439	ピット	3区	K5				
S-0440	SK440	土坑	3区	J5	縄文土器、弥生土器、土器片		SH530→SK440	
S-0441	SK441	土坑	3区	J5・K5	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧	古墳以降	SH530→SK441→SP442	
S-0442	SP442	ピット	3区	L5・K5	縄文土器、土師器	古墳以降	SH530→SK441→SP442	
S-0443	SK443	土坑	3区	K5	縄文土器、土器片、磨製石鏃、打製石斧	弥生	SK443・SP395→SK11・SK497	
S-0444	SK444	土坑	3区	L6		縄文か		
S-0445	SK445	土坑	3区	K5	弥生土器、土師器?		SH530→SK445	
S-0446	—	欠番						
S-0447	SP447	ピット	3区	K5			SK443→SK497→SP447	
S-0448	SP448	ピット	3区	M6				
S-0449	SP449	ピット	3区	M6				
S-0450		SH38床面遺構	3区					
S-0451	SP451	ピット	3区	M6				
S-0452	SP452	ピット	3区	M6・M7				
S-0453		SH200床面遺構	3区					
S-0454		SH200床面遺構	3区					
S-0455		SH200床面遺構	3区					
S-0456		SH200床面遺構	3区					
S-0457		SH200床面遺構	3区					
S-0458		SH200床面遺構	3区					
S-0459		SH200床面遺構	3区					
S-0460		SH200床面遺構	3区					
S-0461		SH200床面遺構	3区					
S-0462	SK462	土坑	3区	J5・J6・K5・K6	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石鏃、磨製石鏃、砥石・叩石、剥片	弥生	SH200→SK462→SH423・SH28	
S-0463	SP463	ピット	3区	M7	青磁	中世		
S-0464	—	欠番			土師器			
S-0465		SH315床面遺構	3区			弥生以前	SP465→SH315	SH315の床面遺構
S-0466		SH315床面遺構	3区			弥生以前	SP466→SH315	SH315の床面遺構
S-0467		SH315床面遺構	3区					
S-0468		SH315床面遺構	3区					
S-0469	SP469	ピット	3区	L8	土師器			
S-0470	SK470	土坑	3区	L8	弥生土器			

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0471	SK471	土坑	3区	L8・M8				
S-0472	SK472	土坑	3区	K6	縄文土器、土器片	弥生以前（縄文？）	SK472→SH28→SH10	
S-0473	SP473	ピット	3区	L7				
S-0474	SP474	ピット	3区	L5・M5				
S-0475	SP475	ピット	3区	M5				
S-0476	—	欠番						
S-0477		SH25柱穴	3区					
S-0478		SH25柱穴	3区					
S-0479		SH25柱穴	3区					
S-0480		SH25柱穴	3区					
S-0481	SP481	ピット	3区	K6			SH28→SP481	
S-0482	SP482	ピット	3区	K5・K6	土器片		SH28→SP482	
S-0483	SP483	ピット	3区	L5		古墳前期以前	SK483→SK412	
S-0484		SH430床面遺構	3区					
S-0485		SH430床面遺構	3区		弥生土器			
S-0486		SH430床面遺構	3区					
S-0487		SH430床面遺構	3区					
S-0488		SH430床面遺構	3区					
S-0489		SH430床面遺構	3区					
S-0490		SH430床面遺構	3区					
S-0491		SH430床面遺構	3区					
S-0492	SP492	ピット	3区	K5		弥生以前	SP492→SK443	
S-0493	SP493	ピット	3区	L6				
S-0494	SP494	ピット	3区	L6	縄文土器			
S-0495	SK495	土坑	3区	J5・K5	土師器			
S-0496	SH496	竪穴建物	3区	J6	土器片、打製石鏃	縄文？	SH496→SH200・SH423・SP510	遺構の切合い確認（土色確認）
S-0497	SK497	土坑	3区	K5			SK443→SK497	
S-0498	SK498	土坑	3区	J5	土器片		SH276→SK498	
S-0499	SK499	土坑	3区	K5	縄文土器、打製石斧	縄文晩期？	SH276→SK499→SK256	土層断面で切り合いを確認し遺構としたもの
S-0500	—	欠番						
S-0501	SP501	ピット	3区	K5	土器片			
S-0502	SP502	ピット	3区	J5				
S-0503	SH503	竪穴建物	3区	J5	縄文土器、土師器、叩石・磨石、礫石	縄文か	SH503→SH276・SH200・SH260	
S-0504	SP504	ピット	3区	K6	縄文土器			
S-0505	SK505	土坑	3区	J5	土師器、土器片		SH280→SK505	
S-0506	SK506	土坑	3区	J4・J5				
S-0507	SP507	ピット	3区	J5	土師器		SH280→SP507	
S-0508	SP508	ピット	3区	K5	土器片			
S-0509	—	欠番						
S-0510		SH423土坑	3区				SH423・SH496→SP510	
S-0511		SH423柱穴	3区					
S-0512	SP512	ピット	3区	J6			SP512→SH496	
S-0513		SH423柱穴	3区					
S-0514		SH423柱穴	3区					
S-0515		SH423柱穴	3区					
S-0516	SK516	土坑（貯蔵穴）	3区	J5	縄文土器	縄文		流水状文を持つ土器生地式
S-0517	SP517	ピット	3区	J5	土師器		SH530→SP517	
S-0518	SP518	ピット	3区	J5	縄文土器			
S-0519	SP519	ピット	3区	I5				
S-0520	—	欠番						
S-0521		SH503床面遺構	3区					SH503の床面遺構
S-0522	SP522	ピット	3区	M7				
S-0523	SK523	土坑	3区	M6	縄文土器		SK523→SH7	
S-0524	SP524	ピット	3区	M5	土器片		SP525→SP524	
S-0525	SP525	ピット	3区	M5			SP525→SP524	
S-0526	SP526	ピット	3区	L5				
S-0527	SP527	ピット	3区	L5				
S-0528	SP528	ピット	3区	L5		弥生以前	SP528→SH430	
S-0529	SP529	ピット	3区	L5				
S-0530	SH530	竪穴建物	3区	J5・K5	石錘、叩石	縄文？		
S-0531	SP531	ピット	3区	L5				
S-0532	—	欠番						
S-0533	—	欠番			土師器			
S-0534	SX534	落ち込み？	1区	B5・B6	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器			
S-0535	SH535	竪穴建物	1区	B5・B6	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、打製石斧	古墳後期		
S-0536	SH536	竪穴建物	1区	D5・D6	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳後期	SH536→SK597→SK596	

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0537	SH537	竪穴建物	1区	D5・D6・E5・E6	縄文土器、弥生土器、土師器、土製品、打製石斧、平石・磨石、石皿	古墳前期		打製石斧の接合資料（3点接合）
S-0538	—	欠番						
S-0539	SX539	撹乱	1区	C5	土器片			SK579と遺物接合
S-0540	SX540	撹乱	1区	D5	縄文土器、陶器、土器片			
S-0541	SX541	撹乱	1区	D5	弥生土器、土器片			
S-0542	SX542	撹乱	1区	D4	弥生土器、土器片			
S-0543	SX543	撹乱	1区	D4	土師器、土器片			
S-0544	SX544	撹乱	1区	D4	陶器、土器片			
S-0545	トレンチ錘	撹乱	1区	D5・E5	縄文土器、弥生土器、土師器、白磁、土器片			確認調査トレンチ
S-0546	SX546	撹乱	1区	D4	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、青磁			
S-0547	SX547	撹乱	1区	D4	縄文土器、須恵器、土器片			
S-0548	SX548	撹乱	1区	D4	土師器、土器片、平行剥土製品、土錘			
S-0549	SX549	撹乱	1区	E4	須恵器、磁器、土器片、礫石、人形、ガラス	近現代		
S-0550	SX550	撹乱	1区	D5	土師器			
S-0551	SX551	撹乱	1区	E5	須恵器、土師器、陶器、磁器			
S-0552	SX552	撹乱	1区	E5	弥生土器、土器片			
S-0553	SX553	撹乱	1区	E5	弥生土器、陶器、土器片			
S-0554	SD554	溝	1区	B5・C5・C6	土師器、磁器、土器片	近現代	SP623・SP635・SP641→SD554	
S-0555	SX555	撹乱	1区	D4・E4	土器片			
S-0556A	SD556A	溝	1区		土師器	古墳後期以降	SH535→SD556A	古代～中世土器含む
S-0556B	SX556B	落ち込み?	1区		縄文土器、弥生土器、土師器			
S-0557	SK557	土坑	1区	C5	流紋岩剥片		SK571→SK557	
S-0558	SD558	溝	1区	B4・B5・C4・C5	縄文土器、土師器、土器片		SD558→SK826	押型文土器出土
S-0559	SX559	撹乱	1区	C5				
S-0560	SX560	撹乱	1区	C4・D4	土師器、土器片			
S-0561	SX561	撹乱か	1区	C5・D5	縄文土器、弥生土器、土師器、土器片			
S-0562	—	欠番						
S-0563	—	欠番						
S-0564	SP564	ピット	1区	B6				
S-0565	SP565	ピット	1区	B6				
S-0566	—	欠番						
S-0567	SX567	撹乱	1区	C4				
S-0568	SK568	土坑	1区	C5	骨		SK568→S-567	骨出土
S-0569	SP569	ピット	1区	C5			SP569→SK557	
S-0570	SH570	竪穴建物	1区	C4・D4	縄文土器、弥生土器、土師器、土器片、平石、耳環	7C前半		
S-0571	SK571	土坑	1区	C5	縄文土器	縄文?	SK571→SK557	
S-0572	SK572	土坑	1区	C5	土師器、土器片			
S-0573	SK573	土坑	1区	C4				
S-0574	SX574	撹乱	1区	C4				
S-0575	SK575	土坑	1区	C5	弥生土器、土器片		SK823→SK575	
S-0576	SX576	撹乱	1区	C5				
S-0577	SP577	ピット	1区	C6				
S-0578	SK578	土坑	1区	C6				
S-0579	SK579	土坑	1区	C6	縄文土器、弥生土器、土器片			S539と遺物接合
S-0580	SK580	土坑	1区	C6	土器片			
S-0581	SP581	ピット	1区	C6				
S-0582	SX582	撹乱	1区	C5・D5				
S-0583	SX583	撹乱	1区	D6	弥生土器?、土師器、土器片		SH536→SX583	
S-0584	SX584	撹乱	1区	D5	弥生土器、土師器			
S-0585	SX585	撹乱	1区	E5				
S-0586	SX586	撹乱	1区	E5				
S-0587	SX587	撹乱	1区	E5				
S-0588	SX588	撹乱	1区	E5				
S-0589	SD589	溝	1区	C5・D4・D5	縄文土器、弥生土器?	弥生か	SK675→SD589→SX619	
S-0590	SK590	土坑	1区	C5・D5	縄文土器、土器片			
S-0591	SK591	土坑	1区	C5	縄文土器、打製石斧	縄文晩期	SK659→SK591→SK590	
S-0592	SP592	ピット	1区	C5			SK659→SK591→SK590	
S-0593	SP593	ピット	1区	C5				
S-0594	SP594	ピット	1区	C5	土器片			
S-0595	SK595	土坑	1区	D5	縄文土器、土器片、楔形石器、打製石斧	縄文		
S-0596	SK596	土坑	1区	D5	縄文土器、土師器、土器片	古墳後期以降	SH536→SK597→SK596	
S-0597	SK597	土坑	1区	D5	土師器、平行形土製円盤?、土器片	古墳後期以降	SH536→SK597→SK596	
S-0598	—	欠番						
S-0599	SP599	ピット	1区	D5			SH687→SP599	
S-0600	SH600	竪穴建物?	1区	E6	縄文土器、弥生土器、土師器、土器片			
S-0601	SP601	ピット	1区	E6				

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0602	SK602	土坑	1区	E5				
S-0603	SP603	ピット	1区	D5・E5				
S-0604	SK604	土坑	1区	D4	弥生土器、土師器、土器片	古墳前期		
S-0605	SP605	ピット	1区	D4				
S-0606	SP606	ピット	1区	D4				
S-0607	SP607	ピット	1区	D4				
S-0608	SP608	ピット	1区	D4・D5				
S-0609	—	欠番						
S-0610	SH610	竪穴建物	1区	E4	縄文土器、弥生土器、土師器、平円形土製円盤?	古墳前期		円形建物
S-0611	—	欠番						
S-0612	SK612	土坑	1区	E5	土師器、土器片、平円形土製円盤?		SK666→SK612	
S-0613	SP613	ピット	1区	E5				
S-0614	SX614	撹乱	1区	E5	銅銭			
S-0615	SX615	撹乱	1区	E5				
S-0616	SK616	土坑	1区	D5	打製石斧			
S-0617	SK617	土坑	1区	D5				
S-0618	SK618	土坑	1区	C4				
S-0619	SX619	落ち込み?	1区	D4・E4	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧、石錘	中世		中世土器含む
S-0620	SH620	竪穴建物	1区	D5・E5	縄文土器、弥生土器、土師器、平円形土製円盤?、磨製石鏃、石皿、鉄刀子	古墳前期		
S-0621	SP621	ピット	1区	C5				
S-0622	—	欠番						
S-0623	SA1（SP623）	柵列	1区	B5			SP623→SD554	
S-0624	SA1（SP624）	柵列	1区	C5				
S-0625	SP625	ピット	1区	C5				
S-0626	SA1（SP626）	柵列	1区	C5				
S-0627	SA1（SP627）	柵列	1区	C5				
S-0628	SA1（SP628）	柵列	1区	C5	土器片			
S-0629	SP629	ピット	1区	C5				
S-0630	SP630	ピット	1区	C5・C6				
S-0631	SP631	ピット	1区	C6	土器片			
S-0632	SP632	ピット	1区	C6				
S-0633	SP633	ピット	1区	C5・C6	縄文土器、土器片		SP634→SP633	
S-0634	SP634	ピット	1区	C5	土器片		SP634→SP633	
S-0635	SP635	ピット	1区	C6			SP635→SD554	
S-0636	SP636	ピット	1区	B6				
S-0637	SP637	ピット	1区	B6				
S-0638	SX638	撹乱	1区	D5				
S-0639	SX639	撹乱	1区	D5				
S-0640	SK640	土坑	1区	D5	縄文土器		SK640→SK595	
S-0641	SP641	ピット	1区	B5			SP641→SD554	
S-0642	SK642	土坑	1区	B5	叩石		SK651→SK642	
S-0643	SP643	ピット	1区	B5				
S-0644	SP644	ピット	1区	C5				
S-0645	SP645	ピット	1区	C5				
S-0646	SP646	ピット	1区	C5			SP646→SX567	
S-0647	SP647	ピット	1区	C5				
S-0648	SK648	土坑	1区	C5				
S-0649	SP649	ピット	1区	C5				
S-0650	SP650	ピット	1区	C4			SK674→SP650	
S-0651	SK651	土坑	1区	B5	縄文土器、土器片		SK651→SK642	帯状施文の押型文土器出土
S-0652		SH535床面遺構	1区					
S-0653		SH535床面遺構	1区					
S-0654		SH535床面遺構	1区					
S-0655		SH535床面遺構	1区					SH535の主柱穴
S-0656		SH535床面遺構	1区		土器片			
S-0657	SK657	土坑	1区	D5			SK657→SK597	
S-0658	SP658	ピット	1区	C5				
S-0659	SK659	土坑	1区		土師器		SK659→SK591→SK590	縄文SK591より古い
S-0660	SP660	ピット	1区	D5				
S-0661	SP661	ピット	1区	D5			SP661→SK640	
S-0662	SH662	竪穴建物?	1区	D4	縄文土器、土師器?、土器片、打製石斧	縄文か		床面の深さ最大19cm
S-0663	SP663	ピット	1区	E4			SH610→SK663	
S-0664	SK664	土坑	1区	C5	縄文土器、土器片、打製石斧	縄文か		

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0665	SK665	土坑	1区	E5	打製石斧			石斧は検出面から浮いて出土
S-0666	SK666	土坑	1区	E4・E5	縄文土器、打製石斧	縄文	SK691→SK666→SK612	
S-0667	SH667	竪穴建物？	1区	D-4	弥生土器、土師器、土錘片	弥生？	SH667→SK604	
S-0668	SP668	ピット	1区	E6				
S-0669	SP669	ピット	1区	E6				
S-0670	SK670	土坑	1区	E6	弥生土器？			
S-0671		SH600床面遺構	1区					
S-0672		SH600床面遺構	1区					
S-0673	SK673	土坑	1区	D5	土師器、土錘片		SK673→SK595	
S-0674	SK674	土坑	1区	C4	弥生土器、土師器		SK674→SP650・SX556B	
S-0675	SK675	土坑	1区	D4	縄文土器、弥生土器、土錘片、打製石斧		SK675→SD589・SX619	
S-0676	SP676	ピット	1区	D5				
S-0677	SP677	ピット	1区	D5				
S-0678		SK666床面遺構	1区				SP679→SP678→SK666	
S-0679		SK666床面遺構	1区				SP679→SP678→SK666	
S-0680		SK666床面遺構	1区				SP680→SK666	
S-0681		SH536主柱穴	1区					
S-0682		SH536主柱穴	1区					
S-0683		SH536主柱穴	1区					
S-0684		SH536主柱穴	1区		土師器、土錘片			
S-0685		SH570炉	1区		縄文土器、土師器	7C前半		
S-0686	—	欠番						
S-0687	SH687	竪穴建物	1区	D5	縄文土器、弥生土器、土師器、土錘片、横刃型石器	弥生早期か	SH687→SP599	
S-0688		SH535床面遺構	1区		土錘片、平円形土製円盤	古墳後期		
S-0689	SP689	ピット	1区	E5				
S-0690	SD690	溝	1区	E4	弥生土器、土錘片	弥生～古墳前期	SD690→SH620	
S-0691	SK691	土坑	1区	E4	縄文土器、叩石・磨石、剥片	縄文	SK691→SK666	
S-0692	SP692	ピット	1区	F5				
S-0693	SK693	土坑	1区	E5		弥生以降		
S-0694	SP694	ピット	1区	E5・E6				
S-0695	SH667	SH667床面遺構	1区					
S-0696	SH667	SH667床面遺構	1区					
S-0697	SH667	SH667床面遺構	1区					
S-0698	SP698	ピット	1区	D4・E4				
S-0699	SH662	SH662床面遺構	1区					
S-0700	SK700	土坑	1区	C5				
S-0701	SK701	土坑	1区	E5	土師器、土錘片			
S-0702	SK702	土坑	1区	E5				
S-0703		SH535床面遺構	1区					
S-0704		SH535床面遺構	1区					
S-0705		SH535床面遺構	1区					
S-0706		SH687床面遺構	1区		土師器、土錘片、打製石斧		SP706→SH687	
S-0707		SH687床面遺構	1区		縄文土器、土師器		SP707→SH687	
S-0708		SH687床面遺構	1区				SP708→SH687	
S-0709		SH687床面遺構	1区				SP709→SH687	
S-0710	—	欠番						
S-0711	SK711	土坑	1区	E4	土錘片			
S-0712	SP712	ピット	1区	D5	土錘片			
S-0713	SP713	ピット	1区	D5				
S-0714	SP714	ピット	1区	B5・C5				
S-0715		SH620床面遺構	1区					
S-0716		SH620床面遺構	1区					
S-0717		SH620床面遺構	1区					
S-0718		SH620床面遺構	1区					
S-0719		SH620床面遺構	1区					
S-0720		SH620床面遺構	1区					床面土坑（炉跡）
S-0721		SH620床面遺構	1区					
S-0722		SH620床面遺構	1区					
S-0723		SH620床面遺構	1区					
S-0724	SH724	竪穴建物	2区	F5・F6	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳後期？		
S-0725	SK725	土坑	2区	G5	土師器、土錘片、打製石斧	古代？	SH954・SK940→SK725	
S-0726	SH726	竪穴建物	2区	F4・F5	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳後期？		
S-0727	SK727	土坑	2区	F4・G4	土師器	古墳以降	SH773→SK727	
S-0728	SD728	溝状遺構	2区	F4	弥生土器？、叩石・磨石	古墳後期以降	SH726→SD728	
S-0729	SK729	土坑	2区	F5				
S-0730	SH730	竪穴建物	2区	F5・F6・G5・G6	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、平円形土製円盤、石ノミ、打製石斧	古墳後期		

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0731	SH731	竪穴建物	21区	H5	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、壁土、土製品、打製石斧、石皿、管玉、鉄鏃	古墳前期	SH1039→SH731→SH916→SH801	
S-0732	SK732	土坑	21区	F4				
S-0733	SP733	ピット	21区	F5				
S-0734	SP734	ピット	21区	F5				
S-0735	SP735	ピット	21区	F5				
S-0736	SK736	土坑	21区	G5・H5	縄文土器、土器片	古墳以降	SH785→SK933→SK736	
S-0737	SK737	土坑	21区	H4	縄文土器、土師器、打製石斧	古墳?	SP997→SK737	
S-0738	SP738	ピット	21区	H4	縄文土器			
S-0739	SP739	ピット	21区	H4				
S-0740	SK740	土坑	21区	H4				
S-0741	SP741	ピット	21区	H4				
S-0742		SH726床面遺構	21区		土師器			
S-0743		SH726床面遺構	21区		土師器、土器片			
S-0744		SH726床面遺構	21区		土師器			
S-0745		SH726床面遺構	21区		土師器、土器片			
S-0746		SH726床面遺構	21区		弥生土器、土師器、土器片			
S-0747	SK747	土坑	21区	H6	弥生土器、土師器	古墳後期以降	SH750→SK747	
S-0748		SH726床面遺構	21区		土器片			
S-0749	SX749	撹乱	21区	H6	土師器	近現代	SH750→SX749	
S-0750	SH750	竪穴建物	21区	H5・H6	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧、磨石	古墳後期	SH750→SK747	圧痕土器3(縄文、土師器)
S-0751		SH730主柱穴	21区					
S-0752		SH730主柱穴	21区					
S-0753		SH730床面遺構	21区					
S-0754		SH730主柱穴	21区					
S-0755		SH730主柱穴	21区					
S-0756	SK756	土坑	21区	I6				
S-0757	SP757	ピット	21区	I6				
S-0758	SK758	土坑	21区	I6				
S-0759	SP759	ピット	21区	I6	白磁	中世	SP1039→SP759	
S-0760	SH760	竪穴建物	21区	H5・I5	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土錘、平円形土製円盤、打製石斧、磨石、砥石	古墳後期	SH955→SH29→SH760	カマド布設、遺物多量
S-0761	SK761	土坑	21区	H5	土師器、打製石斧	古墳	SH955→SK761	
S-0762		SH730床面遺構	21区		土師器			
S-0763	SP763	ピット	21区	G6				
S-0764	SP764	ピット	21区	G6	縄文土器、土器片			
S-0765	SP765	ピット	21区	G6	土師器			
S-0766	SP766	ピット	21区	G6			SK898→SP766	
S-0767		SH726床面遺構	21区					
S-0768	SP768	ピット	21区	F5	縄文土器?			
S-0769		SH726土坑	21区		土師器			
S-0770	SH770	竪穴建物	21区	G5	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、磨石・叩石、打製石斧、磨製石鏃	縄文	SK812→SH770→SK933	
S-0771	SP771	ピット	21区	F5			SP771→SH730	
S-0772	SP772	ピット	21区	F5			SP772→SH730	
S-0773	SH773	竪穴建物	21区	F4・F5・G4・G5	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳前期以降	SH896・SK842→SH773→SK727	
S-0774	SD774	溝	21区	G5・G6	縄文土器、打製石斧	縄文?	SH871・SH915・SK813・SK814→SD774	
S-0775	—	欠番			土器片			
S-0776	SK776	土坑	21区	G5	土器片、打製石斧	弥生以降	SH860→SK776	
S-0777	SP777	ピット	21区	G6				
S-0778	SP778	ピット	21区	G6	土師器			
S-0779	SP779	ピット	21区	H6				
S-0780	SP780	ピット	21区	H6	縄文土器、土師器		SH956→SP780	
S-0781	SP781	ピット	21区	H4	土器片		SH981→SP781	
S-0782	SK782	土坑	21区	H4	縄文土器、土師器、土器片	縄文後期中葉	SH981→SK782	
S-0783	SK783	土坑	21区	H5	縄文土器、土師器、打製石斧	古墳?	SK948→SK783	
S-0784	SP784	ピット	21区	H5	縄文土器、土器片			
S-0785	SH785	竪穴建物	21区	G4・G5・H4・H5	縄文土器、土師器	縄文後期末～晩期	SH981→SH785→SK933	
S-0786	SP786	ピット	21区	G4				
S-0787		SH785床面遺構	21区					
S-0788	SK788	土坑	21区	G4	縄文土器、弥生土器、土師器		SH896→SK788	
S-0789	SK789	土坑	21区	G4	弥生土器、土師器、磨製石鏃	古墳	SH896→SK789	
S-0790	SK790	土坑	21区		縄文土器、土師器、土器片	古墳以降	SH915→SK790	
S-0791	SK791	土坑	21区	G5	土師器、土器片、打製石斧	古墳以降	SH915・SK1053→SK791	
S-0792	—	欠番						
S-0793		SH770床面遺構	21区				SH770の柱穴	
S-0794		SH770床面遺構	21区				SH770の柱穴	

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0795		SH770床面遺構	21区		縄文土器		SH770の柱穴	
S-0796		SH770床面遺構	21区		土器片			
S-0797		SH770床面遺構	21区		縄文土器、土器片		SH770の柱穴	
S-0798		SH770床面遺構	21区				SH770の柱穴	
S-0799		SH770床面遺構	21区				SH770の柱穴	
S-0800		SH770土坑	21区				SH770の床面土坑	
S-0801	SH801	竪穴建物	21区	G5・H5・H6	縄文土器、弥生土器、土師器、磨製石鏃、打製石斧、鉄鏃	古墳後期	SH956→SH860→SH1049→SH731→SH916・SK933→SH801	
S-0802		SH724床面遺構	21区					
S-0803		SH724床面遺構	21区		土器片			
S-0804		SH724床面遺構	21区					
S-0805		SH724土坑	21区		土師器、土器片			
S-0806		SH724床面遺構	21区					
S-0807		SH785床面遺構	21区					
S-0808		SH785床面遺構	21区					
S-0809		SH785床面遺構	21区		土器片			
S-0810		SH726床面遺構	21区		土師器、土器片			
S-0811		SH726土坑	21区					
S-0812	SK812	土坑	21区	G4・G5	縄文土器、土師器、土器片、打製石斧	縄文か	SK812→SH770	SH29と石斧接合
S-0813	SK813	土坑	21区	G6	土器片	縄文	SK813→SD774	
S-0814	SK814	土坑	21区	G6	土器片	縄文	SK814→SD774	
S-0815	SH815	竪穴建物	21区	F6・G6	縄文土器、弥生土器、白磁、土器片			
S-0816		SH724床面遺構	21区					
S-0817		SH760土柱穴	21区		土器片			
S-0818		SH760土柱穴	21区		土器片			
S-0819		SH760土柱穴	21区					
S-0820		SH760土柱穴	21区					
S-0821		SH760床面遺構	21区					
S-0822		SH785床面遺構	21区					
S-0823	SK823	土坑	11区	C5	土器片		SK823→SK575	
S-0824	SK824	土坑	11区	C4				
S-0825	SD558	溝	11区	B4・B5・C4・C5	土器片			SD558に統合
S-0826	SK826	土坑	11区				SD558→SK826	
S-0827	SP827	ピット	11区	D6				
S-0828		SH537床面遺構	11区					
S-0829		SH537床面遺構	11区					
S-0830		SH537床面遺構	11区					
S-0831		SH537床面遺構	11区					
S-0832		SH537床面遺構	11区					
S-0833		SH537床面遺構	11区					
S-0834	—	欠番			土器片			
S-0835	SP835	ピット	11区	E4	土器片			
S-0836		SH620床面遺構	11区					
S-0837		SH620床面遺構	11区					
S-0838		SH620床面遺構	11区					
S-0839		SH620床面遺構	11区					
S-0840		SH620床面遺構	11区					
S-0841	SP841	ピット	21区	G5			SH915→SP841	
S-0842	SK842	土坑	21区	F4	弥生土器、土師器、土器片		SH896→SK842→SH773	
S-0843		SH770床面遺構	21区					
S-0844		SH770床面遺構	21区					
S-0845		SH770床面遺構	21区					
S-0846		SH773柱穴	21区		土師器、土器片			
S-0847		SH773柱穴	21区					
S-0848	SK848	土坑	21区	G6	縄文土器、土器片			
S-0849	SK849	土坑	21区	G6				
S-0850	SK850	土坑	21区	F4	土師器	古墳前期以降		
S-0851	SK851	土坑	21区	G4	土師器、土器片	古墳前期以降	SH896→SK851	
S-0852	SK852	土坑	21区	H4				
S-0853		SH750床面遺構	21区					
S-0854		SH750床面遺構	21区					
S-0855		SH750床面遺構	21区					
S-0856		SH731土坑	21区		土器片			
S-0857		SH731土坑	21区					
S-0858		SH731床面遺構	21区					
S-0859		SH731床面遺構	21区					
S-0860	SH860	竪穴建物	25区	G5・G6・H5・H6	縄文土器、弥生土器、土師器、磁器、打製石鏃、打製石斧、叩石	弥生	SH860→SH801	
S-0861	SH770	SH770床面遺構	21区					
S-0862		SH731床面遺構	21区					

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0863		SH731土坑	21区					
S-0864		SH731床面遺構	21区					
S-0865		SH731床面遺構	21区					
S-0866		SH731床面遺構	21区					
S-0867		SH731床面遺構	21区					
S-0868		SH731床面遺構	21区					
S-0869		SH785土坑	21区		縄文土器			
S-0870	—	欠番			縄文土器、弥生土器、土師器	古墳前期		
S-0871	SH871	竪穴建物	21区		縄文土器、土師器	縄文		
S-0872	SH770	SH770床面遺構	21区					
S-0873	SH770	SH770床面遺構	21区					
S-0874	SH770	SH770床面遺構	21区					
S-0875	—	欠番			土師器	古墳前期		
S-0876		SH731床面遺構	21区					
S-0877		SH801カマド	21区		土師器			SH801Aのカマド
S-0878		SH860床面遺構	21区		土器片			
S-0879		SH860床面遺構	21区					
S-0880		SH860床面遺構	21区					
S-0881		SH860床面遺構	21区					
S-0882		SH860床面遺構	21区					
S-0883		SH860床面遺構	21区					
S-0884	SK884	土坑	21区	H4	縄文土器?、土器片			
S-0885	SK885	土坑	21区	H4	土器片			
S-0886	SP886	ピット	21区	H4				
S-0887	SP887	ピット	21区	H4	土器片		SK888→SP887	
S-0888	SK888	土坑	21区	H4	縄文土器、土師器、土器片	古墳	SK888→SP887	
S-0889	SP889	ピット	21区	H4	土師器			
S-0890	SP890	ピット	21区	H4	土器片			
S-0891	SP891	ピット	21区	H4				
S-0892		SH750土杯穴	21区					
S-0893		SH871床面遺構	21区					
S-0894		SH871床面遺構	21区					
S-0895		SH871床面遺構	21区					
S-0896	SH896	竪穴建物	21区	F4・G4・G5	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石鏃、磨製石鏃、打製石斧、磨製石斧、叩石、鉄斧、鉄鏃、鉄刀子	古墳前期	SH946・SH896B→SH896→SH773・SK851他	大型竪穴建物
S-0897		HB54床面遺構	21区					
S-0898	SK898	土坑	21区	G6	縄文土器、土器片	縄文	SK898→SP766	
S-0899		SH871床面遺構	21区		土師器、土器片			
S-0900		SH871床面遺構	21区		土師器、土器片			
S-0901	SP901	ピット	21区	G6			SP901→SH730	
S-0902	SP902	ピット	21区	G6				
S-0903	SK903	土坑	21区	G6	土器片		SH871→SK903→SD774	
S-0904		SH860床面遺構	21区		弥生土器、土器片			
S-0905		SH860床面遺構	21区		土器片			
S-0906		SH860床面遺構	21区					
S-0907		SH860床面遺構	21区					
S-0908		SH860床面遺構	21区					
S-0909		SH860床面遺構	21区					
S-0910		SH860床面遺構	21区					
S-0911	SP911	ピット	21区	H6				
S-0912		SH896床面遺構	21区					
S-0913		SH896床面遺構	21区					
S-0914		SH896床面遺構	21区					
S-0915	SH915	竪穴建物	21区		縄文土器、石器、土師器	縄文晩期	SH954→SH915→SH871・SK897	
S-0916	SH916	竪穴建物	21区	H5	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、壁土、打製石斧	古墳後期	SH731→SH916→SH801	
S-0917		SH750床面遺構	21区					
S-0918		SH750床面遺構	21区					
S-0919		SH801床面遺構	21区					
S-0920		SH801床面遺構	21区					
S-0921		SH801床面遺構	21区					
S-0922		SH801床面遺構	21区		土器片			
S-0923		SH801床面遺構	21区		土器片			
S-0924		SH946炉跡?	21区					
S-0925		SH896床面遺構	21区		縄文土器			
S-0926		SH896床面遺構	21区		土器片			
S-0927		SH896床面遺構	21区					
S-0928		SH896土坑1	21区		土師器			
S-0929	—	欠番	21区		土器片			
S-0930		SH915床面遺構	21区		土器片			

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0931		SH915床面遺構	21区		土器片			
S-0932	SP932	ピット	21区	G5	縄文土器			
S-0933	SK933	土坑	21区	G5・H5	縄文土器、土師器、土器片、磨製石斧、石鏃未成品	古墳か	SH770・SH785→SK933	
S-0934		SH896床面遺構	21区					
S-0935		SH896床面遺構	21区		須恵器			
S-0936		SH896床面遺構	21区					
S-0937		SH896床面遺構	21区					
S-0938		SH896床面遺構	21区					
S-0939		SH896床面遺構	21区					
S-0940	SK940	竪穴状遺構	21区	F5・G5	弥生土器、土師器、砥石、礫器	古代	SH730→SK940→SK725	
S-0941		SH915床面遺構	21区					
S-0942		SH915床面遺構	21区		土器片			
S-0943		SK933床面遺構	21区					
S-0944		SK933床面遺構	21区					
S-0945		SK933床面遺構	21区					
S-0946	SH946	竪穴建物	21区	G4	縄文土器、弥生土器、土師器	古墳前期	SH946→SH896	
S-0947	SP947	ピット	21区	G6	土器片			
S-0948	SK948	土坑	21区	H5	縄文土器、土師器?		SK948→SK783	
S-0949	SP949	ピット	21区	H5	土器片			
S-0950	SK950	土坑	21区	H5	縄文土器、土器片	縄文?		
S-0951		SH750床面遺構	21区					
S-0952	SP952	ピット	21区	G6				
S-0953	SK953	土坑	21区	F5・G5	土師器			
S-0954	SH954	竪穴建物	21区	G5	縄文土器、土師器、土器片、叩石	縄文	SH954→SH915→SK897・SK725	
S-0955	SH955	竪穴建物	21区	H4・H5・I5	縄文土器、弥生土器、土師器	縄文晩期		埋甕を伴う?
S-0956	SH956	竪穴建物	21区	H5・H6	縄文土器、土師器、打製石斧、削器	縄文	SH956→SH860→SH801→SH750	
S-0957		SK933床面遺構	21区					
S-0958		SK933床面遺構	21区					
S-0959	SP959	ピット	21区	H4				
S-0960	SP960	ピット	21区	H4				
S-0961	SP961	ピット	21区	H4	縄文土器			
S-0962	SP962	ピット	21区	H4				
S-0963		SH916床面遺構	21区					
S-0964		SH916床面遺構	21区					
S-0965		SH916床面遺構	21区					
S-0966		SH916床面遺構	21区					
S-0967		SH916床面遺構	21区					
S-0968	SK968	土坑	21区	H5	土師器	古墳後期以前	SK968→SH916	
S-0969	SP969	ピット	21区	H5				
S-0970	SK970	土坑	21区	H	縄文土器	縄文		
S-0971	SP971	ピット	21区	H	土器片			
S-0972	—	欠番						
S-0973	SP973	ピット	21区	G5			SP973→SK725	
S-0974		SH954床面遺構	21区					
S-0975		SH954床面遺構	21区					
S-0976		SH954床面遺構	21区		土器片			
S-0977		SH954床面遺構	21区					
S-0978		SH954床面遺構	21区					
S-0979		SH954床面遺構	21区					
S-0980		SH954床面遺構	21区					
S-0981	SH981	竪穴建物	21区	G4・H4	縄文土器、打製石斧	縄文後期末	SK1000→SH981→SH785・SK782	
S-0982		SH955床面遺構	21区		土器片			
S-0983		SH955床面遺構	21区					
S-0984		SH955床面遺構	21区					
S-0985		SH955床面遺構	21区					
S-0986		SH955床面遺構	21区		土器片			
S-0987		SH955床面遺構	21区					
S-0988	SP988	ピット	2・3区	I5	土器片			
S-0989	SP989	ピット	21区	H4・H5・I4・I5	台石	縄文?		
S-0990		SH955床面遺構	21区					
S-0991		SH801床面遺構	21区		弥生土器?			
S-0992		SH916床面遺構	21区		土器片			
S-0993		SH916床面遺構	21区					
S-0994		SH801床面遺構	21区		土器片			
S-0995		SH801床面遺構	21区					
S-0996		SH801床面遺構	21区					
S-0997	SK997	土坑	21区	H4			SK997→SK737	
S-0998		SH981床面遺構	21区					

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-0999		SH981床面遺構	21区					
S-1000	SK1000	土坑(貯蔵穴)	21区	G4	縄文土器、打製石斧、十字形石器?、二次加工剥片	縄文後期末	SK1000→SH981	SH981とほぼ同時期
S-1001		SH981床面遺構	21区					
S-1002		SH981床面遺構	21区					
S-1003		SK933床面遺構	21区					
S-1004		SK933床面遺構	21区					
S-1005		SH956床面遺構	21区					
S-1006		SH956床面遺構	21区		土器片			
S-1007		SH956床面遺構	21区					
S-1008		SH956床面遺構	21区		土器片			
S-1009		SH956床面遺構	21区					
S-1010		SH956床面遺構	21区					
S-1011		SH956床面遺構	21区					
S-1012		SH896床面遺構	21区					
S-1013		SH896床面遺構	21区					
S-1014		SH896床面遺構	21区					
S-1015		SH896床面遺構	21区		土師器			
S-1016		SH896床面遺構	21区					
S-1017		SH896床面遺構	21区					
S-1018		SH896床面遺構	21区					
S-1019		SH896床面遺構	21区					
S-1020		SH896床面遺構	21区					
S-1021		SH896床面遺構	21区					
S-1022		SH896床面遺構	21区					
S-1023		SH896床面遺構	21区					
S-1024		SH896床面遺構	21区					
S-1025		SH896床面遺構	21区					
S-1026		SH896床面遺構	21区					
S-1027		SH896床面遺構	21区					
S-1028		SH896床面遺構	21区		土器片			
S-1029		SH896床面遺構	21区					
S-1030		SH896床面遺構	21区					
S-1031	—	欠番						
S-1032		SH956床面遺構	21区					
S-1033		SH956土坑	21区		縄文土器、土器片			
S-1034	SP1034	ピット	21区	I5				
S-1035	SK1035	土坑	21区	I5・I6	土器片			
S-1036	SP1036	ピット	21区	I5・I6				
S-1037	SK1037	土坑	21区	I6	土器片		SK1037→SP1048	
S-1038	SP1038	ピット	2・3区	I6				
S-1039	SP1039	ピット	2・3区	I6		中世以前	SP1039→SP759	
S-1040	SP1040	ピット	2・3区	I6				
S-1041	SP1041	ピット	2・3区	I6				
S-1042	SP1042	ピット	2・3区	I6				
S-1043		SH896床面遺構	21区					
S-1044		SH896床面遺構	21区					
S-1045		SH760土坑	21区					
S-1046		SH29土柱穴	21区		縄文土器?、土器片			
S-1047		SH29土柱穴	21区					
S-1048	SP1048	ピット	21区				SK1037→SP1048	
S-1049	SH1049	竪穴建物	21区	G5・H5	縄文土器、土師器、土器片、打製石斧、礫器、石皿、土玉	古墳前期	SH1049→SH731→SH801	SH801の中央で検出
S-1050		SH29土柱穴	21区					
S-1051		SH29土柱穴	21区		土器片			
S-1052		SH956床面遺構	21区		土器片			
S-1053	SK1053	土坑	21区	G5	土器片、流紋岩原石	縄文?	SK1053→SK791	
S-1054	SK1054	土坑	21区	G5				
S-1055		SH896床面遺構	21区		土師器			
S-1056		SH896床面遺構	21区		土師器			
S-1057		SH896床面遺構	21区					
S-1058		SH896床面遺構	21区		土師器			
S-1059		SH896床面遺構	21区		土器片			
S-1060		SH896床面遺構	21区		土師器			
S-1061	SH1061	竪穴建物	4区	O6・O7	弥生土器、土師器、平円形土製品、磨製石鏃、礫器、石核、磨製石斧、石ノミ、叩石・磨石、砥石、台石		SH1062→SH1061	
S-1062	SH1062	竪穴建物	4区	O6・O7・P6	縄文土器、弥生土器、ミニチュア土器、平円形土製品、磨製石鏃、石錐?、剥片、櫛形石器、叩石、磨石、砥石、石核、流紋岩原石		SH1062→SH1061→SK1192	竪穴形建物
S-1063	欠番	—						

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-1064	欠番	―						
S-1065	SH1065	竪穴建物	4区	N6・O5・O6	縄文土器、弥生土器、土師器、平円形土製品、打製石斧、砥、叩石・磨石、紙石、石錘	古墳前期		
S-1066	SH1066	竪穴建物	4区	O5・O6	縄文土器、弥生土器	弥生か	SH1132→SH1066	
S-1067	SH1067	竪穴建物	4区	N5・O5	縄文土器、弥生土器、平円形土製品、打製石鏃、磨製石鏃、打製石斧、剥片、石錐、磨石・叩石、石錘	弥生か		
S-1068A	SH1068A	竪穴建物	4区	P5・P6	弥生土器	弥生		
S-1068B	SH1068B	竪穴建物	4区	P5	弥生土器、台石、鉄器	弥生後期～古墳前期		
S-1069	SH1069	竪穴建物	4区	N5・O4・O5	弥生土器、平円形土製品、磨製石鏃	弥生		
S-1070	SP1070	ピット	4区	N7	土師器	中世	SK1202→SP1070	
S-1071	SP1071	ピット	4区	O7				
S-1072	SK1072	土坑	4区	P6				
S-1073	SP1073	ピット	4区	P6				
S-1074	SP1074	ピット	4区	P6				
S-1075	SP1075	ピット	4区	P6				
S-1076	SK1076	土坑	4区	O6・P6	土器片		SP1152→SK1076	
S-1077	SP1077	ピット	4区	O6・P6				
S-1078	SP1078	ピット	4区	O6				
S-1079	SP1079	ピット	4区	O6				
S-1080	SK1080	土坑	4区	O6			SH1132→SK1080	
S-1081	SP1081	ピット	4区	P6				
S-1082	SK1082	土坑	4区	P6			SD1245→SK1082	
S-1083		SH1068床面遺構	4区					
S-1084		SH1068床面遺構	4区					
S-1085		SH1068床面遺構	4区					
S-1086	SP1086	ピット	4区	O5				
S-1087	SK1087	土坑	4区	O5		弥生以降	SH1100→SK1087	
S-1088	SK1088	土坑	4区	O6	土器片			
S-1089	SK1089	土坑	4区	O6			SH1132→SK1089	
S-1090	SK1090	土坑	4区	O6		不明	S1153・S1204→SK1090	
S-1091	SP1091	ピット	4区	O6				
S-1092	SP1092	ピット	4区	O5			SH1146→SP1092	
S-1093	SK1093	土坑	4区	O5	土師器、土器片	古墳以降	SH1146→SK1093	
S-1094	SP1094	ピット	4区	N5	縄文土器			
S-1095	SP1095	ピット	4区	P5				
S-1096	SX1096	攪乱	4区	N7	白磁、土器片	近現代		
S-1097	SX1097	攪乱	4区	N7		近現代		
S-1098	SK1098	土坑	4区	O7				
S-1099	SP1099	ピット	4区	N5				
S-1100	SH1100	竪穴建物	4区	O5・P5	縄文土器、弥生土器、土師器、叩石、磨石	縄文?	SH1146・SK1208→SH1100→SK1087	4本柱穴
S-1101	SP1101	ピット	4区	N6	土器片			
S-1102	SP1102	ピット	4区	N6	土師器			
S-1103	SP1103	ピット	4区	N6			SP1103→SH1065	
S-1104		SH1065床面遺構	4区					
S-1105		SH1065床面遺構	4区					
S-1106		SH1065床面遺構	4区					
S-1107		SH1065床面遺構	4区					
S-1108		SH1065床面遺構	4区					
S-1109		SH1065床面遺構	4区					
S-1110		SH1065床面遺構	4区					
S-1111		SH1065床面遺構	4区					
S-1112		SH1065床面遺構	4区					
S-1113		SH1065床面遺構	4区					
S-1114	SP1114	ピット	4区	O4	土師器	古墳前期		
S-1115	SP1115	ピット	4区	O6				
S-1116	SP1116	ピット	4区	P5				
S-1117	SK1117	土坑	4区		弥生土器、スクレイパー	弥生?		
S-1118	SP1118	ピット	4区	O5			SP1118→SK1093	
S-1119	SK1119	土坑	4区	O5	土器片		SH1146→SK1119	
S-1120	SK1120	土坑	4区	O5	縄文土器、土器片	縄文		
S-1121		SH1069深掘部	4区					
S-1122		SH1069床面遺構	4区					
S-1123		SH1069床面遺構	4区					
S-1124		SH1069床面遺構	4区					
S-1125		SH1069床面遺構	4区					
S-1126		SH1069床面遺構	4区					
S-1127		SH1069床面遺構	4区					
S-1128		SH1069床面遺構	4区					

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-1129		SH1069床面遺構	4区					
S-1130		SH1069床面遺構	4区					
S-1131	SK1131	土坑	4区	O4・O5・P4・P5	土師器	古墳前期		
S-1132	SH1132	竪穴建物	4区	O5・O6	縄文土器、弥生土器、土師器、打製石斧	縄文?	SH1132→SH1066	
S-1133		SH1132床面遺構	4区					
S-1134		SH1132床面遺構	4区					
S-1135		SH1132床面遺構	4区		土器片			
S-1136		SH1132床面遺構	4区					
S-1137	SK1137	土坑	4区	O6	弥生土器	弥生?	SH1132→SK1137	
S-1138		SH1132床面遺構	4区		土器片			
S-1139		SH1132床面遺構	4区					
S-1140		SH1132床面遺構	4区					
S-1141	SP1141	ピット	4区	O5				
S-1142		SH1100柱穴	4区					
S-1143		SH1100柱穴	4区					
S-1144		SH1069床面遺構	4区					
S-1145	SK1145	土坑	4区	O7	弥生土器	弥生?		
S-1146	SH1146	竪穴建物	4区	O5	縄文土器、弥生土器、土師器	縄文土体	SH1146→SH1247	
S-1147		SH1065床面遺構	4区					
S-1148	SH1065	SH1065主柱穴	4区		土師器			
S-1149		SH1065床面遺構	4区					
S-1150		SH1065床面遺構	4区					
S-1151	SP1151	ピット	4区	O6				
S-1152	SP1152	ピット	4区	O6			SP1152→SK1076	
S-1153	SK1153	土坑	4区	O6	弥生土器	弥生?	SK1153→SK1090	
S-1154		SH1067床面遺構	4区					
S-1155		SH1067床面遺構	4区					
S-1156		SH1067床面遺構	4区					
S-1157		SH1067床面遺構	4区					
S-1158		SH1067床面遺構	4区					
S-1159		SH1067床面遺構	4区					
S-1160		SH1067床面土坑	4区		弥生土器			
S-1161		SH1067床面遺構	4区					
S-1162		SH1069床面遺構	4区					
S-1163		SH1069床面遺構	4区					
S-1164		SH1069床面遺構	4区					
S-1165		SH1069床面遺構	4区					
S-1166		SH1066の主柱穴	4区					
S-1167		SH1066床面遺構	4区					
S-1168		SH1066床面遺構	4区					
S-1169		SH1066床面遺構	4区					
S-1170		SH1066の主柱穴	4区					
S-1171		SH896床面遺構	2区					
S-1172		SH896床面遺構	2区					
S-1173		SH896床面遺構	2区					
S-1174		SH896床面遺構	2区					
S-1175		SH871床面遺構	2区					
S-1176		SH871床面遺構	2区					
S-1177		SH871床面遺構	2区					
S-1178		SH1049床面遺構	2区		土器片			
S-1179		SH1049床面遺構	2区					
S-1180		SH1049床面遺構	2区		弥生土器、土器片			
S-1181		SH1132床面遺構	4区					
S-1182		SH1065土坑	4区		土師器			
S-1183		SH1100床面遺構	4区		縄文土器			
S-1184		SH1100土坑(炉)	4区		土師器			
S-1185		SH1100主柱穴	4区					
S-1186		SH1100床面遺構	4区					
S-1187		SH1100主柱穴	4区					
S-1188	SP1188	ピット	4区	P5				
S-1189	SK1189	土坑	4区	O6			SK1189→SH1062	
S-1190	SP1190	ピット	4区	O6	土器片、磨製石斧			
S-1191	SP1191	ピット	4区	O6	縄文土器			
S-1192	SK1192	土坑	4区	O6	弥生土器、磨製石斧	弥生中期以降	SH1062→SK1192	
S-1193	SK1193	土坑	4区	N6・O6	土器片			
S-1194	SK1194	土坑	4区	N6・O6				
S-1195	SP1195	ピット	4区	O6				
S-1196	SK1196	土坑	4区	N6・N7	弥生土器、土師器	弥生?		
S-1197	SP1197	ピット	4区	N7	土師器			
S-1198	SK1198	土坑	4区	N7				

調査時番号	遺構番号	遺構種別	調査区	グリッド	出土遺物	帰属時期	遺構の切合い	備考
S-1199	SK1199	土坑	4区	N7・O7	土師器			
S-1200	SP1200	ピット	4区	O7				
S-1201	SP1201	ピット	4区	O7				
S-1202	SK1202	土坑	4区	N7・O7	縄文土器?、弥生土器	弥生中期	SP1243・1244→SK1202→SP1070	下城式甕・壺の集中
S-1203		SH1062床面遺構	4区	O7				
S-1204	SK1204	土坑	4区	O6	縄文土器、弥生土器、土器片		SK1204→SH1065・SK1090	
S-1205	SH1066	SH1066床面遺構	4区					
S-1206	SH1066	SH1066床面遺構	4区					
S-1207	SK1207	土坑	4区	O6		古墳前期以前	SK1207→SH1065	
S-1208	SK1208	土坑	4区	O5	土器片	縄文?	SK1208→SH100	
S-1209		SH1067床面遺構	4区					
S-1210		SH1067床面遺構	4区					
S-1211		SH1067床面遺構	4区					
S-1212		SH1067床面遺構	4区					
S-1213		SH1067床面遺構	4区					
S-1214		SH1049床面遺構	2区		土師器			
S-1215		SH1049床面遺構	2区					
S-1216		SH1062床面遺構	4区		土器片			
S-1217		SH1062床面遺構	4区					
S-1218		SH1062床面遺構	4区					
S-1219		SH1062床面遺構	4区					
S-1220		SH1062床面遺構	4区					
S-1221		SH1062床面遺構	4区					
S-1222		SH1062床面遺構	4区					
S-1223		SH1062床面遺構	4区					
S-1224		SH1062床面遺構	4区					
S-1225		SH1062床面遺構	4区					
S-1226		SH1062床面遺構	4区					
S-1227		SH1062床面遺構	4区					
S-1228		SH1062床面遺構	4区					
S-1229		SH1062床面遺構	4区					
S-1230		SH1062床面遺構	4区					
S-1231		SH1062床面遺構	4区					
S-1232		SH1062床面遺構	4区					
S-1233		SH1062床面遺構	4区					
S-1234		SH1062床面遺構	4区					
S-1235		SH1062床面遺構	4区					
S-1236		SH1062床面遺構	4区					
S-1237		SH1062床面遺構	4区					
S-1238		SH1062床面遺構	4区					
S-1239		SH1062床面遺構	4区					
S-1240		SH1062床面遺構	4区					
S-1241		SH1062床面遺構	4区					
S-1242		SH1062土坑	4区					
S-1243		SK1202床面遺構	4区					
S-1244		SK1202床面遺構	4区					
S-1245	SD1245	溝	4区	O5・O6・P6				
S-1246		SH1062土坑	4区					
S-1247	SH1247	竪穴建物?	4区	N5・O5		弥生?	SH1247→SH1067・SH1065	
S-1248		SH1062床面遺構	4区					
S-1249		SH1069床面遺構	4区					
S-1250		SH1069床面遺構	4区					

上田原東遺跡

県道三重新殿線（牟礼前田工区）道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

大分県立埋蔵文化財センター調査報告書　第28集
（第３分冊）

令和６（2024）年３月29日

編集・発行　大分県立埋蔵文化財センター
〒870-0152　大分市牧緑町1-61
TEL 097(552)0077

印刷　株式会社 得丸デザイン印刷
〒870-0122 大分市大字丸亀258-1
TEL 097-521-0700